

由布市観光基本計画

2022年2月
由布市



目次

【本編】

1. 計画の背景と目的	…2
(1)計画の背景と目的	…2
(2)計画の位置づけと期間	…5
(3)前計画の検証	…6
2. 由布市観光を取り巻く現状と課題	…8
(1)内部環境の変化	…8
(2)外部環境の変化	…26
3. 由布市観光基本計画	…34
(1)目標像と基本方針	…34
(2)戦略	…40
基本方針ごとの戦略一覧	…40
基本方針1の戦略	…41
基本方針2の戦略	…47
基本方針3の戦略	…51
4. エリア別の方針	…55
5. 計画推進の仕組み	…56
6. 成果指標	…58

【参考資料】

1. 計画の策定体制	…60
2. 前計画の検証結果(詳細)	…63

1-(1)計画の背景と目的

計画の背景と目的

- ✓ 由布市では、2011年3月に「由布市観光基本計画」を策定。2005年に旧湯布院町、旧挾間町、旧庄内町が合併した由布市として初めての観光計画の策定となりました。
- ✓ 同計画では、「人と暮らしが織りなす“懐かしき未来”の創造 ～“住んでよし、訪れてよし”、原点回帰のまちづくり～」を目標像として掲げ、多様な観光政策を実施してきたところです。また、2016年4月には（一社）由布市まちづくり観光局を設立するなど、観光推進体制の強化を図ってきました。
- ✓ 一方で、度重なる自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大、インバウンドの急激な増加、デジタル技術の進化など、観光を取り巻く外部環境は大きく変わっています。
- ✓ そこで、2020年度に計画期間が終了した「由布市観光基本計画」を検証するとともに、ここ数年で大きく変化した外部環境や内部環境の変化をふまえ、今後の由布市観光が目指す方向性や戦略、計画を実現していくための仕組みについて盛り込んだ計画の策定をおこないます。
- ✓ なお、テーマ別計画としての観光基本計画は2025年度までの4年間とし、2026年度以降は総合計画に組み込むこととします。

【参考】将来ビジョン(観光計画)の役割

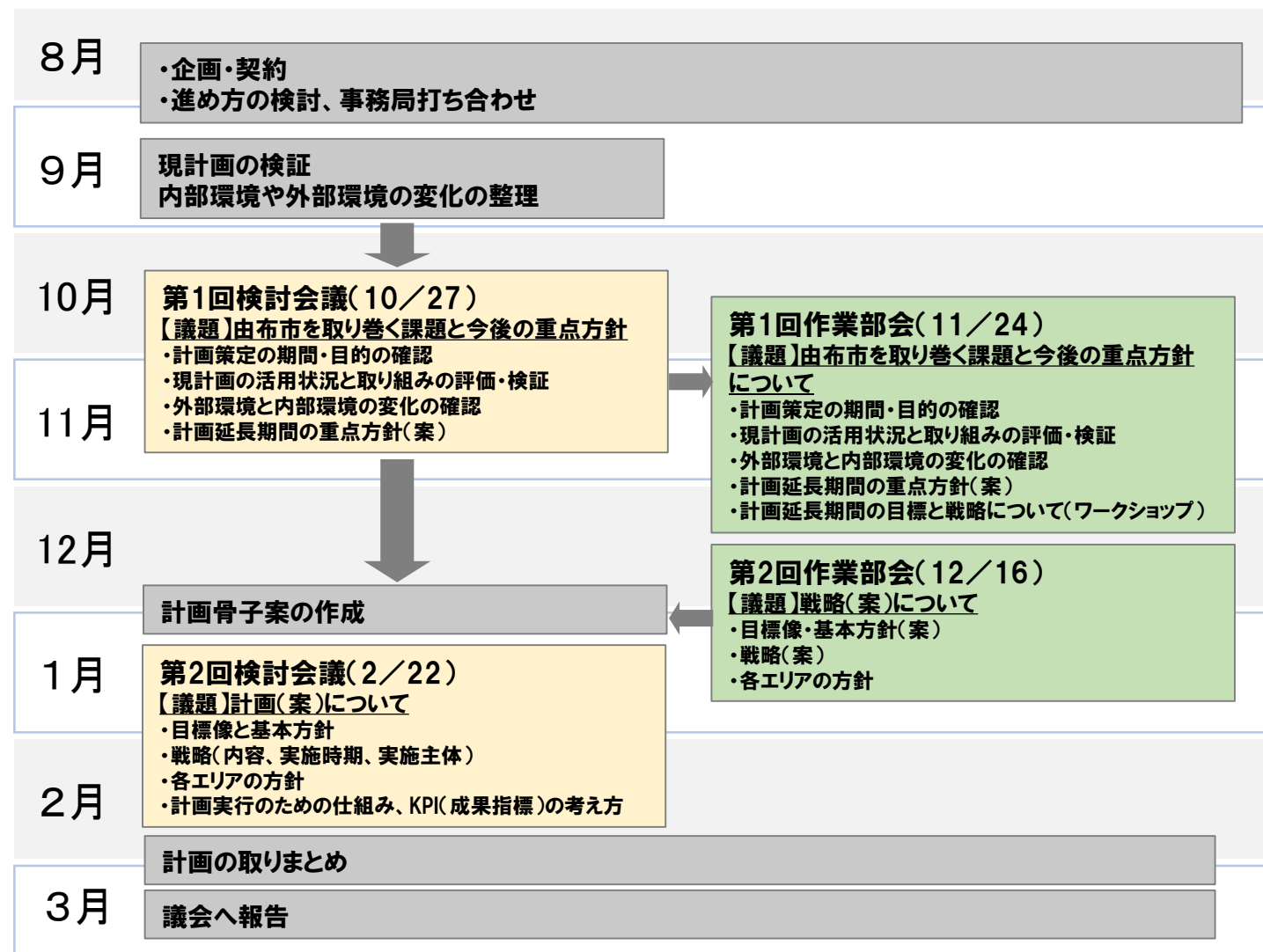
- ① 多様な主体による観光推進のための「指針」 — 共通の目標づくり
- ② 場当たり的な事業実施から計画的な事業実施へ — 計画性の担保
- ③ 地域の「個性」（自然、文化、伝統…地域資源）の発掘と保存 — 自信と誇りの持てる地域づくり
- ④ 地域の「個性」を活用した観光客誘致の方策を提示 — 実質的に観光客が来訪すること
- ⑤ 観光産業だけではなく、地場産業の振興と地域自立型経済への展開 — 観光を通じた地域の産業振興（地域循環型へ）
- ⑥ 実施主体としての官・民、新しい公、住民の役割明示、さらに観光客の役割も — 多様な担い手による計画の推進、実現

出典：『観光地経営の視点と実践』（公財）日本交通公社、丸善出版、2019年

1-(1)計画の背景と目的

【参考】由布市観光基本計画見直しスケジュール

- ✓ 現計画の検証、今後に向けた方針、全体検討などを2回の検討会議で検討し、具体的な内容についてはワークショップ等も交えながら作業部会で検討を行った。



1-(1)計画の背景と目的

由布市観光基本計画見直しのフロー

(1)前計画の取り組みの評価・検証

(2)内部環境・外部環境の変化の整理

(3)見直しに向けた整理

①前計画の中でも特に評価が低かったものと、一定の評価を得たが引き続き強力に推進すべき項目を確認。

【評価低】Ⅶ. 地域イメージ構築プロジェクト／Ⅹ. 観光就業地魅力向上プロジェクト

【評価高】Ⅰ. 宿泊施設活性化プロジェクト <宿泊施設の個性化を追求>

Ⅱ. 農村風景保全・活用プロジェクト <田園風景や小川などを戦略的に見せる>

Ⅳ. 農商工観連携推進プロジェクト <“地産”地消から“地消”地産へ>

Ⅵ. マーケティングに基づく誘客プロモーションプロジェクト<まちづくりに加えて積極的な魅力発信を>

Ⅷ. 国際観光地形成プロジェクト <広がる外と内の交流による調和>

Ⅸ. 快適な公共空間及び拠点整備プロジェクト <地域内外へゆとりある空間を提供>

※計画評価の中で整理した取り組みの中で、引き続き実施すべきものなども確認

②総合計画や既存の関連計画、新たな動きの確認

- ・由布市総合計画における観光関連箇所:【経済の循環から地域が潤うまちづくり】
- ・由布市都市計画マスタープランや景観マスタープラン等のテーマ別計画の確認
- ・「新・由布院温泉観光基本計画」などエリアごとの計画の確認
- ・「世界が訪れたくなる観光地域づくりに向けた高度化計画策定事業」(2018.経産省)などの確認
- ・TICのオープン、(一社)由布市まちづくり観光局の発足など新たな動きの確認

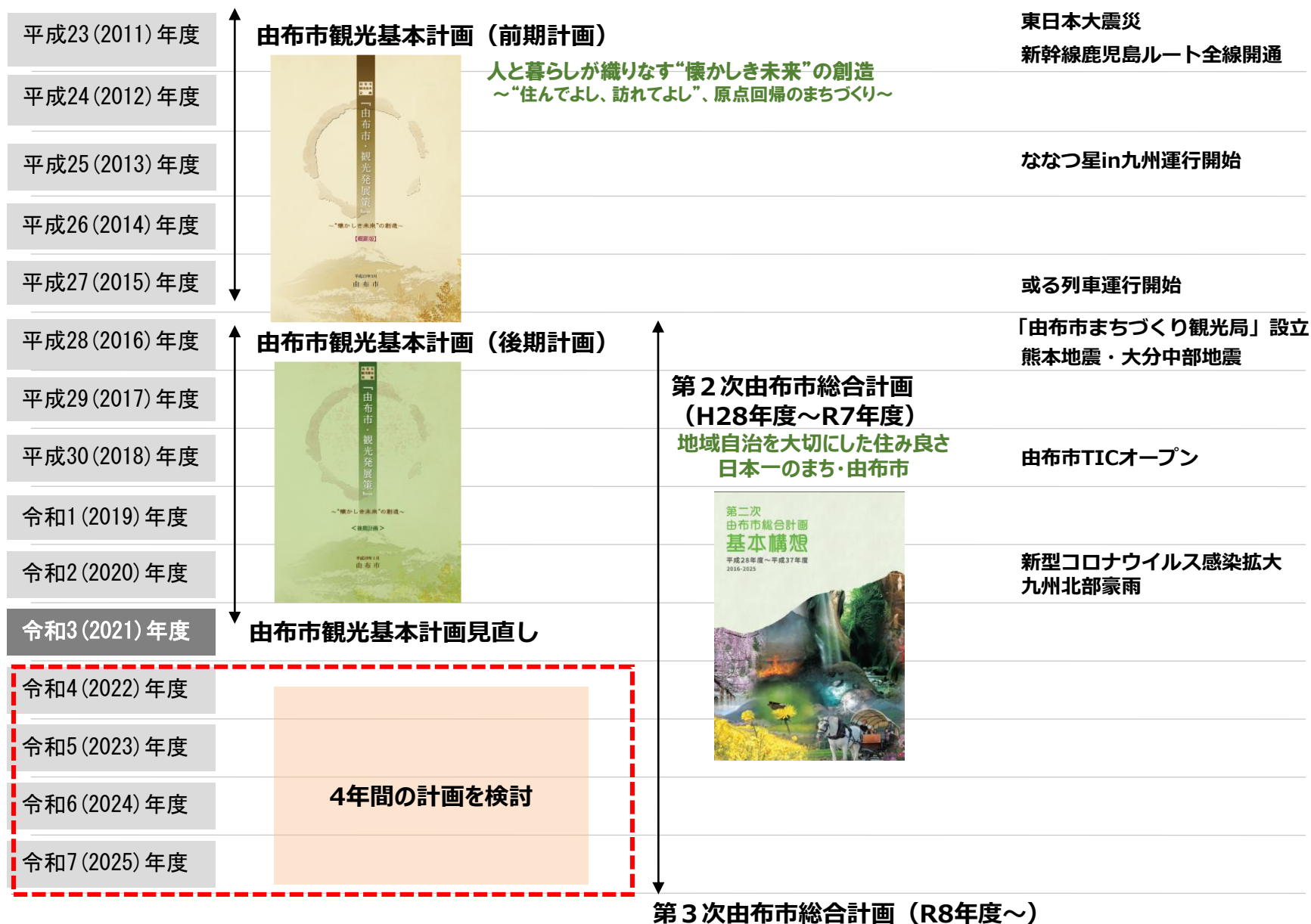
③内部・外部環境の変化等も鑑み、計画目標を実現する上で意識すべき視点を新たに追加。

- ・今後受け入れていく旅行者層(今後戻るインバウンドの受け入れ方針、旅行者の世代交代や価値観の変化等への対応)の確認
- ・観光を取り巻く多様な変化への対応(自然災害等のリスクへの対応、環境対策への関心の高まり、デジタル技術の発展等)
- ・観光推進体制のさらなる強化と、確実な計画実行を担保する観光財源の確保
- ・「住んでよし、訪れてよし」とは何かを再確認。また、それを実現するために必要な取り組みを整理。

④検討会議・作業部会等における意見の反映

(4)目標像・基本方針・戦略等の再整理

1-(2)計画の位置づけと期間



1-(3)前計画の検証

計画の評価方法

<由布市観光基本計画の評価の流れ>

【実施時期】2021年9月～10月

【実施主体】由布市商工観光課・由布市まちづくり観光局

【実施方法】

- ・ 10の重点プロジェクトごとに実施した取り組みを行政が記入。
- ・ 取り組み内容に基づき、行政・民間（由布市まちづくり観光局）が定性評価（コメント）と評価点（5段階）を記入。（各観光協会・旅館組合へのヒアリング）
- ・ 5段階の軸は以下の通り。

- 5：事業内容が非常に高く評価出来る。
- 4：事業内容が高い評価が出来る。
- 3：事業内容が一定の評価が出来る。
- 2：事業が不足しており、あまり評価できない。
- 1：事業内容が不足しており、全く評価できない。

全体の平均点は3.6点。最高点は5点、最低点は2点

- ・ 両者が4点（平均点+0.4）以上を付けたものを評価の高いプロジェクト
 - ・ 両者のどちらかが2点以下を付けたものを評価の低いプロジェクト
- としている。



<現計画を取り巻く実態と課題>

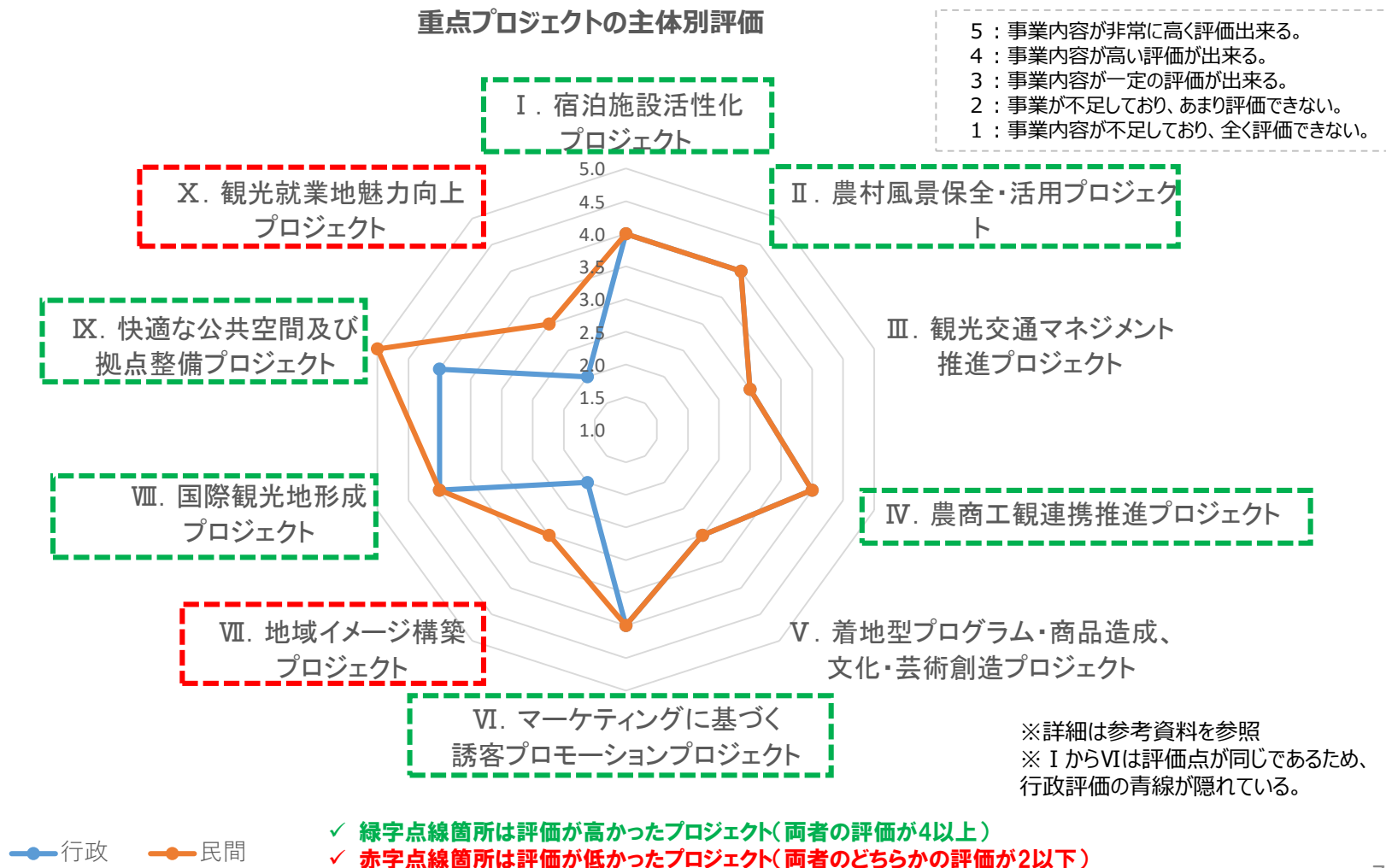
- ・ 計画の存在が行政内でもあまり認識されておらず、各エリアにもほとんど浸透していない。
- ・ 計画の有効な使い方がイメージできず、十分に使われていない。
- ・ 重点プロジェクトには含まれていないが、計画の実現に向けた推進体制と計画管理のうち、新たな観光推進組織の設立については実現。

1-(3)前計画の検証

前・由布市観光基本計画の検証結果

- ✓ 後期計画における重点プロジェクトのうち、Ⅰ．宿泊施設活性化プロジェクト、Ⅱ．農村風景保全・活用プロジェクト、Ⅳ．農商工観連携推進プロジェクト、Ⅵ．マーケティングに基づく誘客プロモーションプロジェクト、Ⅷ．国際観光地形成プロジェクト、Ⅸ．快適な公共空間及び拠点整備プロジェクトは評価が高くなっています。
- ✓ Ⅶ．地域イメージ構築プロジェクト、Ⅹ．観光就業地魅力向上プロジェクトは評価が低くなっています。

重点プロジェクトの主体別評価



2-(1)内部環境の変化

(1)人口減少に加え、転出超過傾向

- ✓ 市全体の人口は減少傾向となっており、社会増減についても基本的に転出超過が続いている。
- ✓ 2021年には地価が大分県平均を上回った。また、住民満足度についても70%を超える数字が出ている。
- 人口減少や転出超過が継続。空き家対策や税収減少に対応する施策が必要となる。
- 観光人材の確保が課題に

(2)国内旅行者の動向

- ✓ 2016年から国内旅行者は年々成長し、2019年には82万台を回復した。2020年は新型コロナウイルスの影響で前年比23.5%減となった。コロナ禍は福岡を中心とした近距離からの来訪比率が向上。
- ✓ 満足度は約8割が満足と回答。来訪者の約半数はリピーターであり、再来訪意向も9割を超える。一方で、非来訪者は「混雑している」「過度の観光地化」というイメージを漠然と持っている。
- 来訪者がリピーターになる確率が高いという強みを分析し、更に伸ばしていくための施策を実施していく必要がある。
- 混雑等のイメージを是正する情報発信などの展開が求められる。

(3)インバウンドの増加

- ✓ 外国人観光客は日本全国と比較すると、2018年（H30）を除いて基本的には伸び率は下回っている。
- ✓ 最大ボリューム層であった韓国人の来訪が2018年（H30）から減少傾向、台湾・香港からの来訪が増加傾向となっている。
- ✓ 国内外からの来訪者の増加に比例するように宿泊施設（特に簡易宿所）も増加している。
- コロナ以前から急激な変化が起こっていたインバウンドであるが、一部には混雑なども見られていた。アフターコロナを見据え、今後におけるインバウンド受け入れの考え方を確認する必要がある。

(4)観光推進組織の再編

- ✓ 2016年には由布市観光を推進するための中核的な役割を担う組織として（一社）由布市まちづくり観光局が誕生。2021年11月には観光地域づくり法人（登録DMO）としての登録を受けた。
- ✓ 2018年には同局事務所が入る由布市ツーリストインフォメーションセンターが完成した。
- 設立から5年がたち、改めて行政との役割分担等を確認していく必要がある。

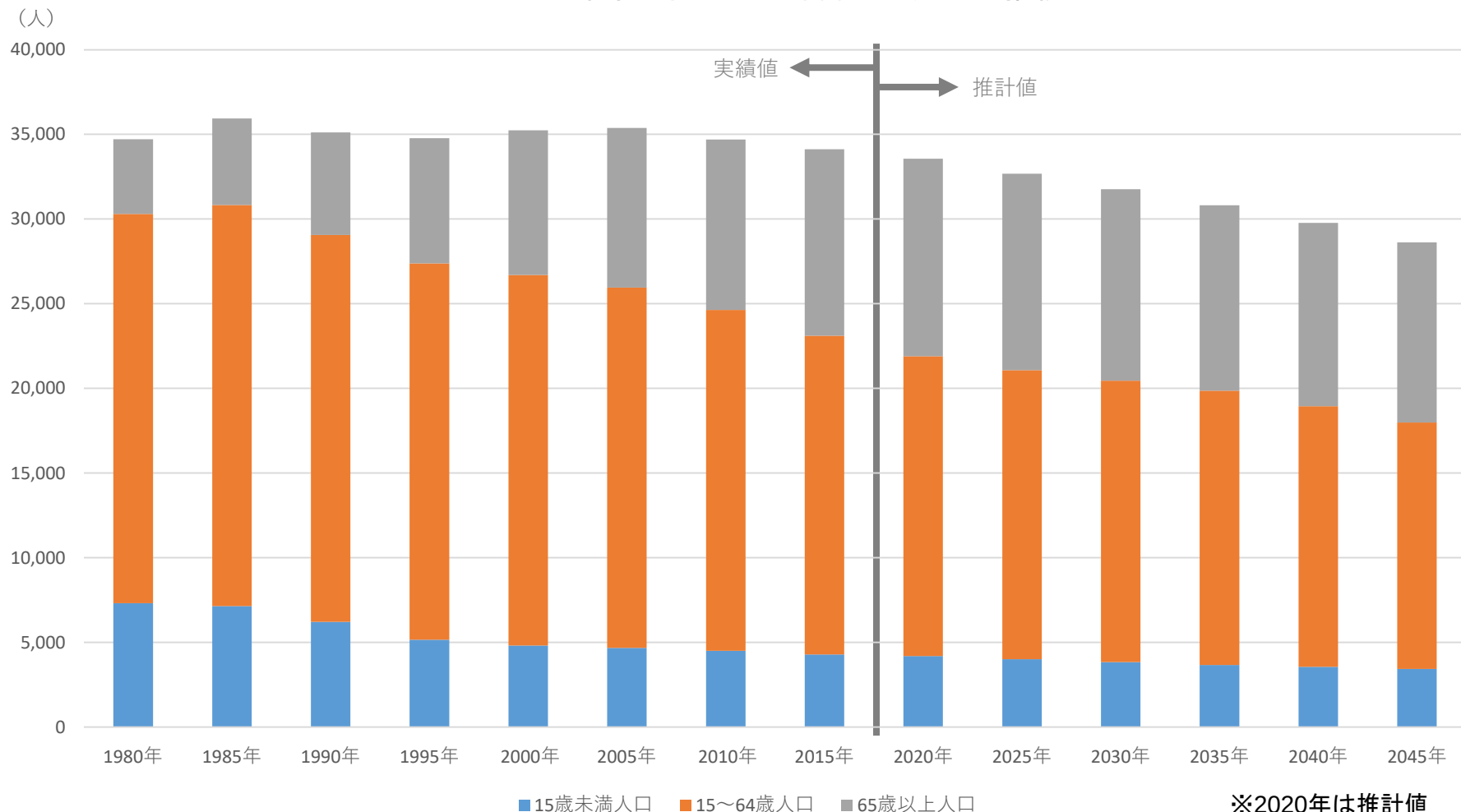
2-(1)内部環境の変化

由布市の総人口と社会増減数について

- ✓ 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、H17年以降から約35,000人であった由布市の人口は、少子高齢化等の進行に伴い今後も減少を続け、R27年には30,000人を下回ると予想されている。

出典：昭和55年～平成27年 国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所（平成30（2018）年推計）

由布市の総人口・年齢3区分別の推移



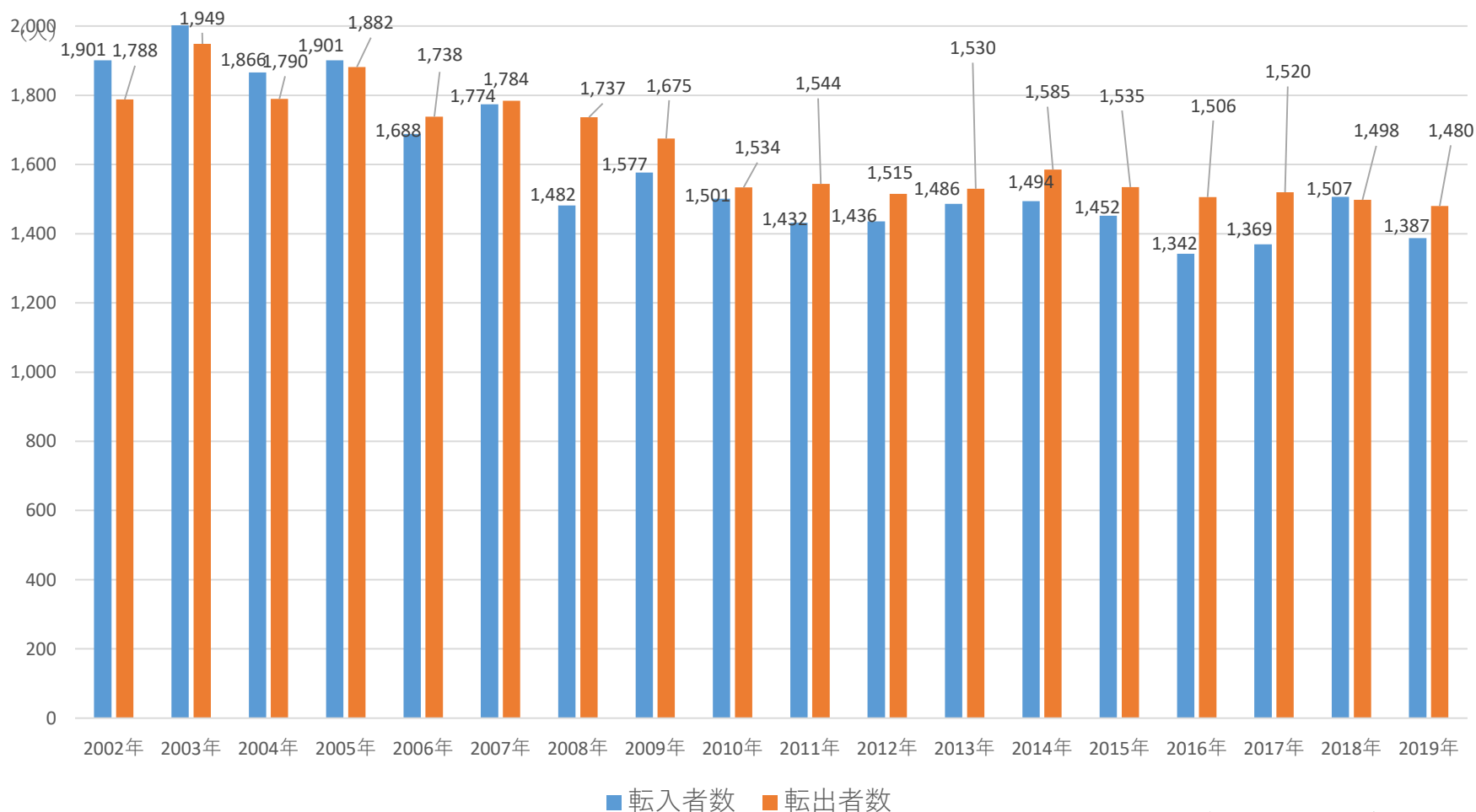
※2020年は推計値

2-(1)内部環境の変化

由布市の転入者数と転出者数の推移

✓ 社会増減数については2006年以降、基本的に転出超過の傾向が続いている。

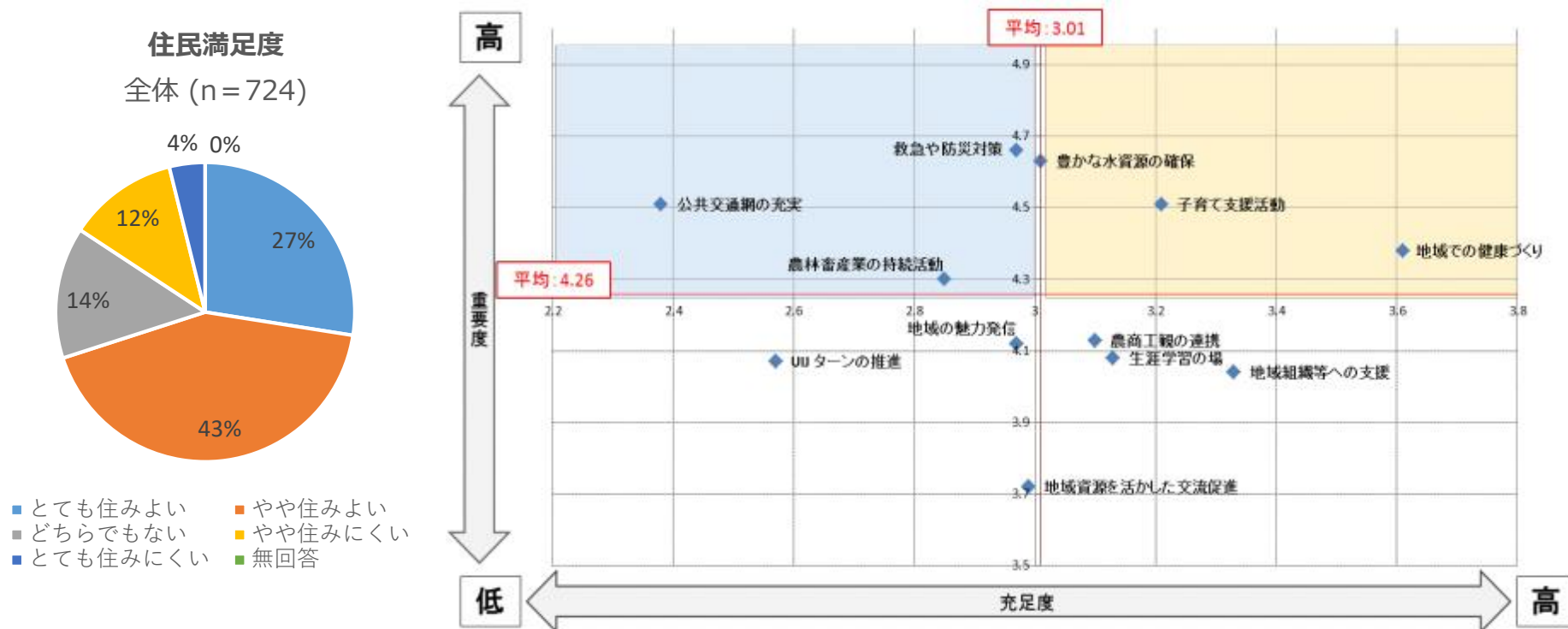
由布市の転入者数・転出者数の推移



2-(1)内部環境の変化

住民の住みやすさと各施策の重要度と充足度

- ✓ H31年における生活の満足度については「とても住みよい」と「やや住みよい」を合わせると70%となっており、概ね高い評価を得ている。
- ✓ 満足度と重要度の相関をみると、「地域資源を活かした交流促進」「地域の魅力発信」は共に重要度と満足度においても中間的な評価となっており、存在が当然視されている可能性がある。

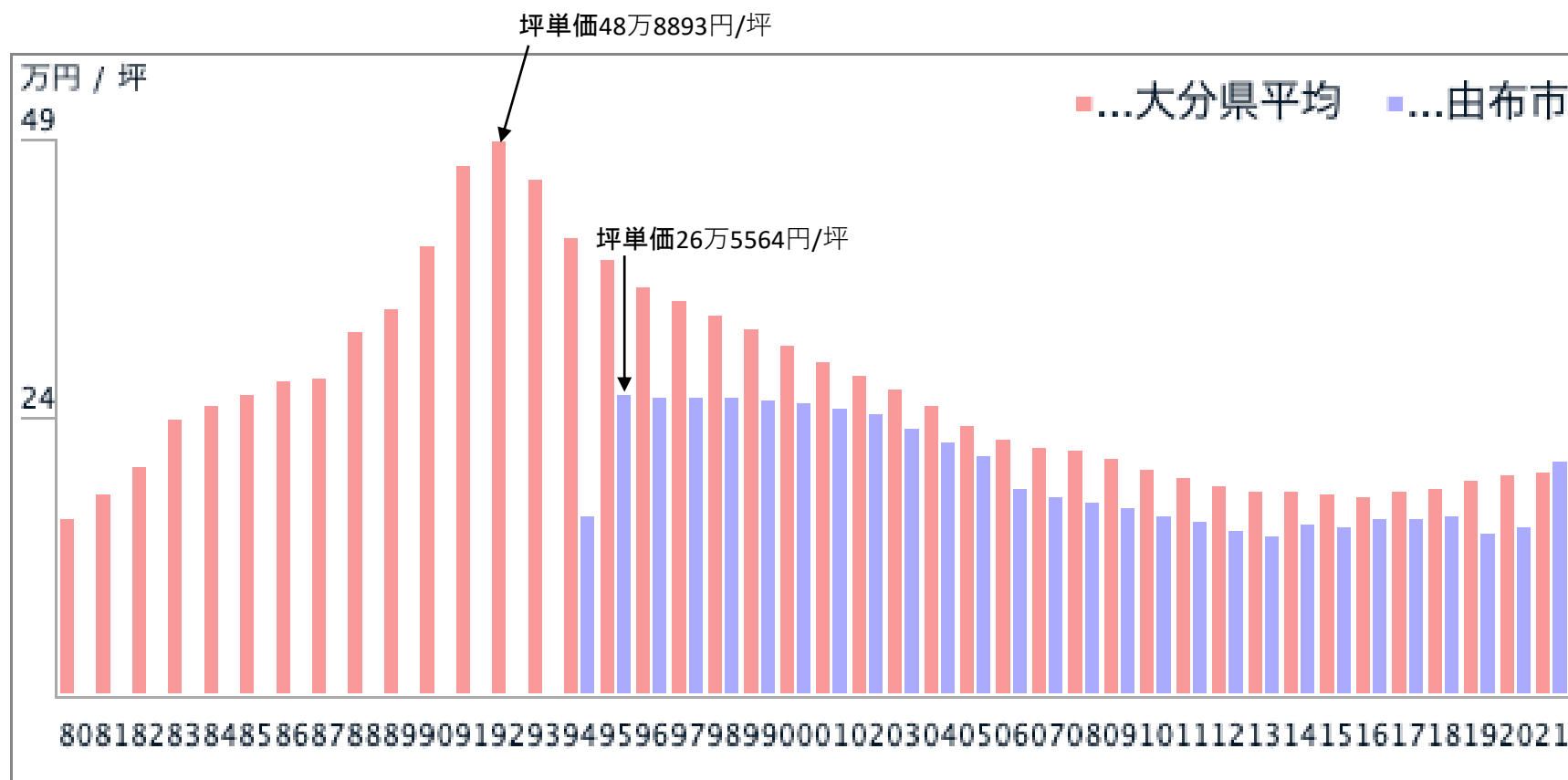


出典：平成31年度 由布市民意識調査報告書

2-(1)内部環境の変化

由布市の地価の推移

- ✓ 大分県の最高平均坪単価は1992年の48万8,893円、由布市の最高平均坪単価は1995年の26万5,564円であった。
- ✓ 大分ならびに由布市は基本的に地価は減少傾向であったが、2021年には由布市の地価が大きく向上し、大分県の平均を上回った。

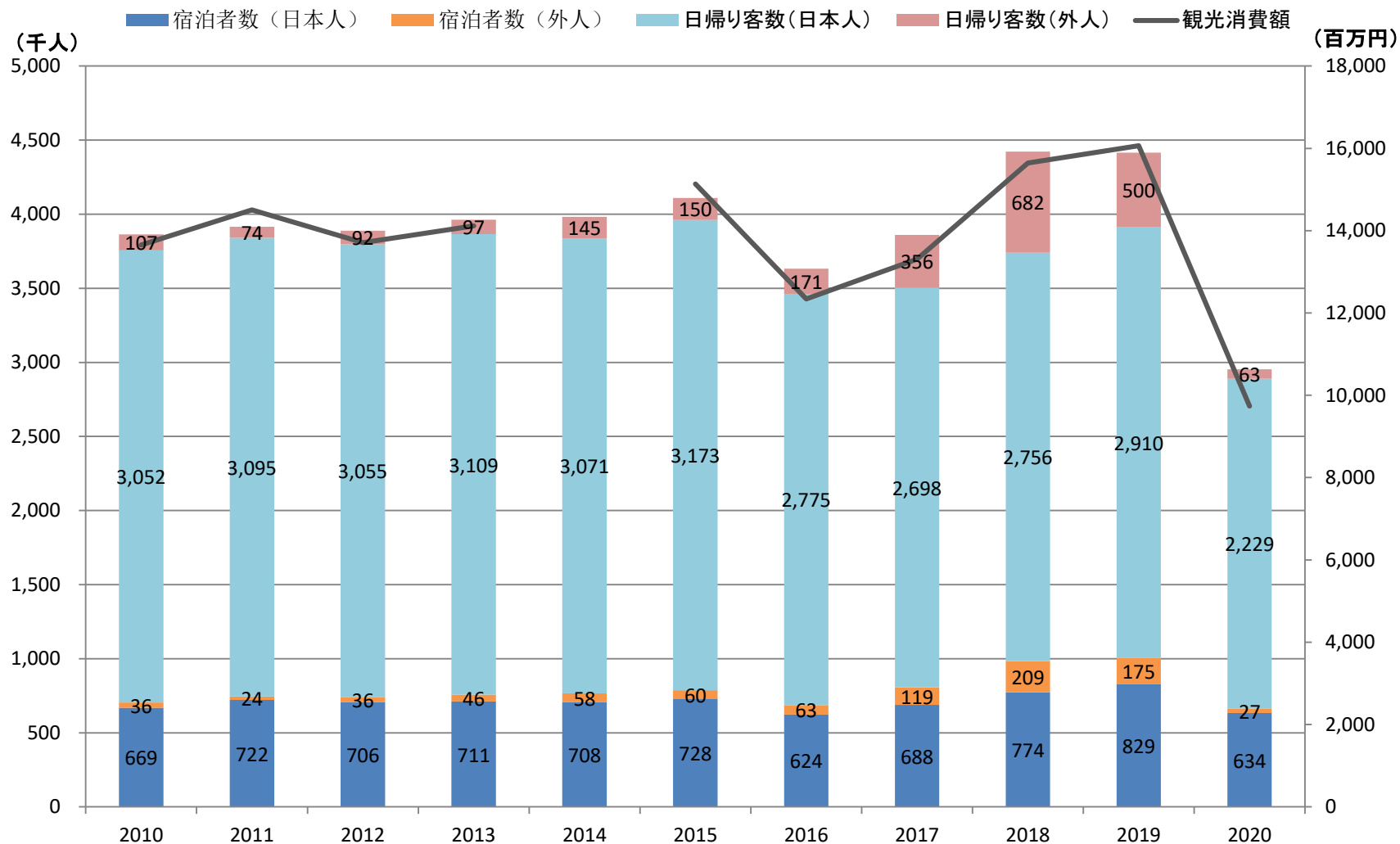


2-(1)内部環境の変化

由布市の観光客数と観光消費額の推移

✓ 2016年から観光客数が増加傾向にあったが、2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大により大幅に減少した。

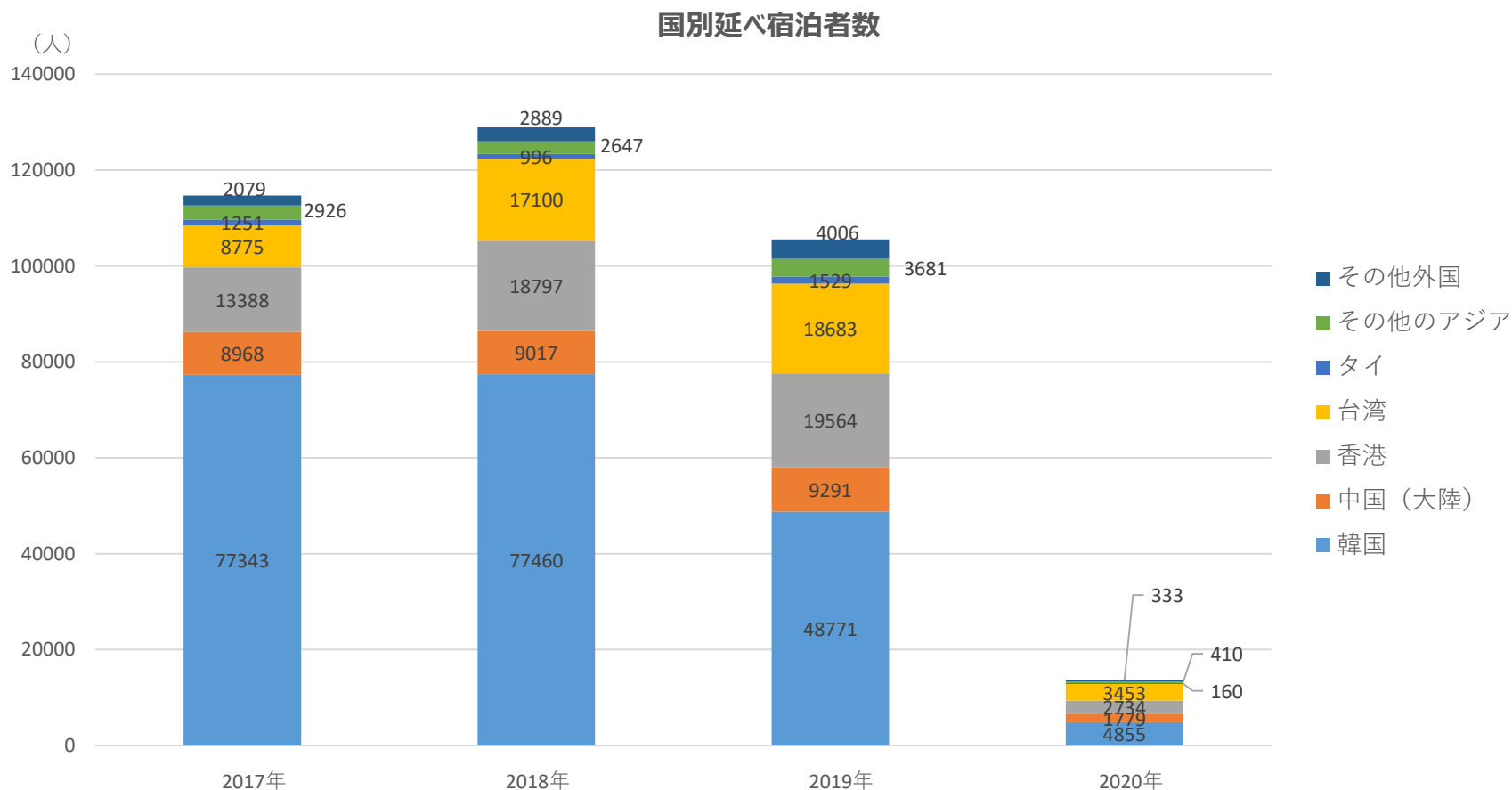
由布市の観光客数と観光消費額の推移



2-(1)内部環境の変化

由布市を訪れる外国人観光客の国籍

- ✓ 由布市を訪れる外国人観光客は、韓国、香港、台湾、中国の順に多くなっている。2018年以降は特に韓国からの来訪が大きく減少し、2020年には新型コロナウイルスの感染拡大もあり、外国人観光客数は大きく落ち込んだ。

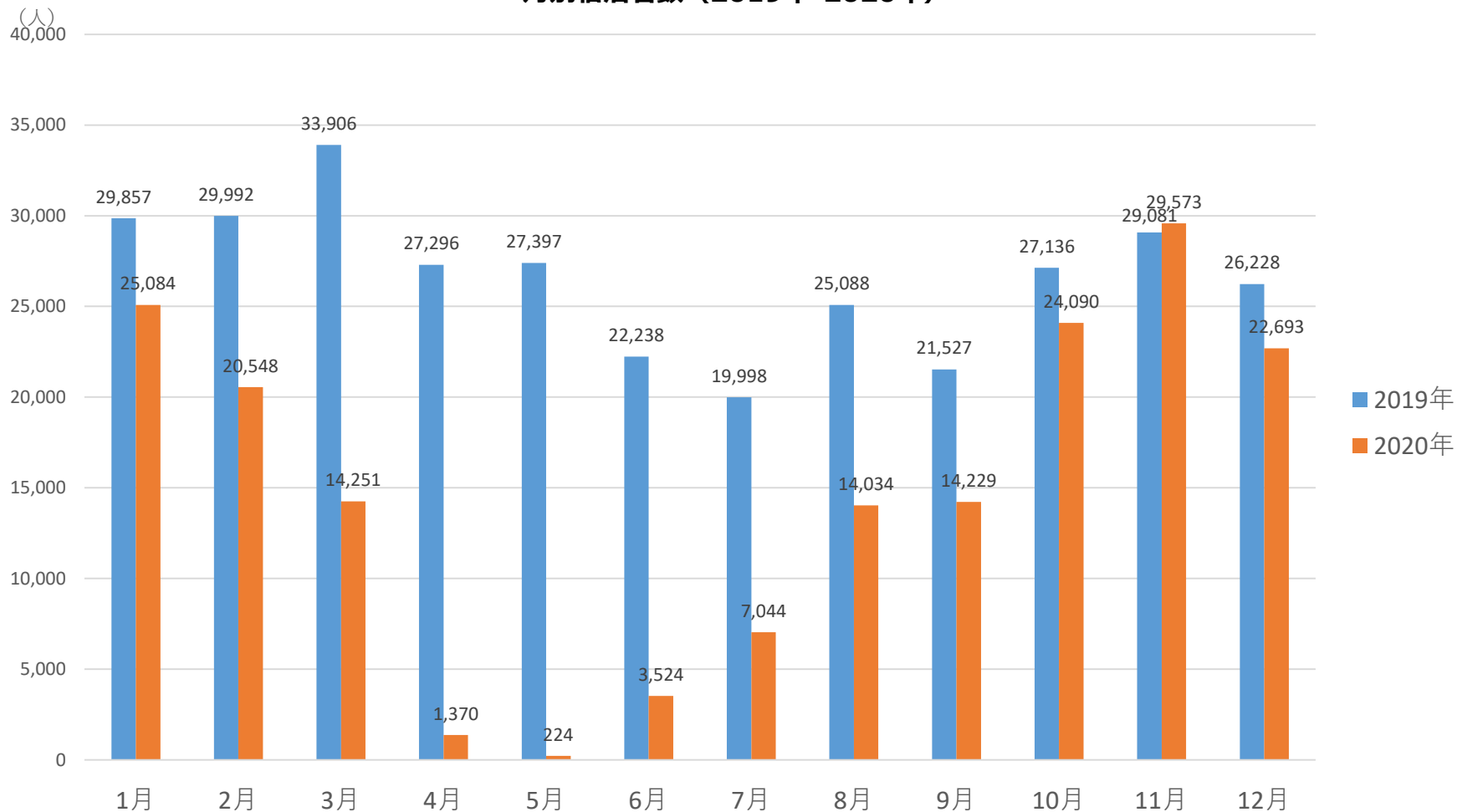


2-(1)内部環境の変化

由布市の月別宿泊者数

- ✓ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響を受け、2020年の4月、5月は対前年比で大きく落ち込んだが、その後は回復傾向が見られた。特に11月はGoToトラベルキャンペーンの効果もあり、前年比プラスとなった。

月別宿泊者数（2019年・2020年）

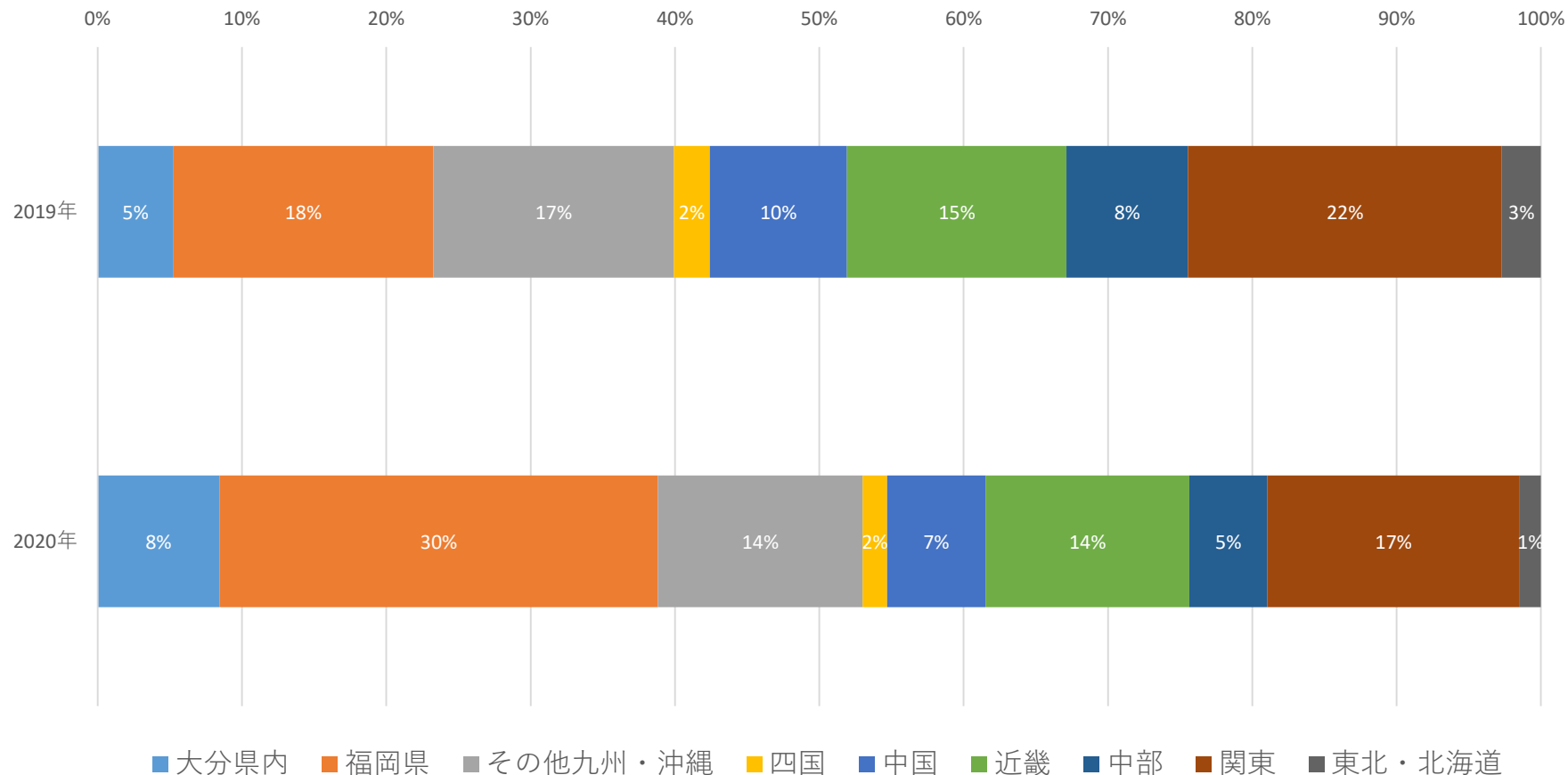


2-(1)内部環境の変化

宿泊客(日本人)の居住地

- ✓ 2020年はコロナ禍で福岡県、大分県内といった県内・近距離からの来訪比率が高まった。

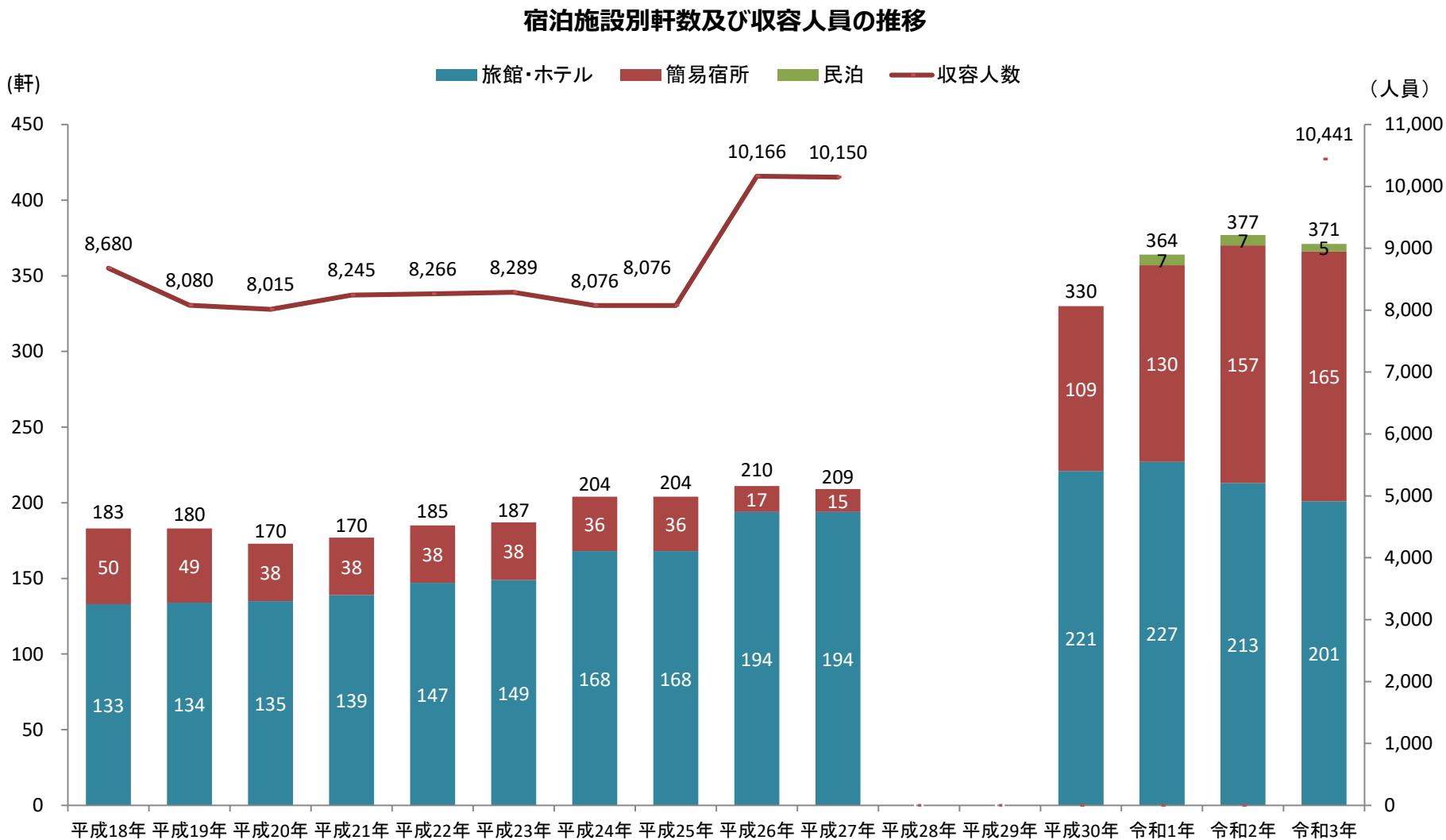
宿泊客（日本人）の居住地



2-(1)内部環境の変化

宿泊施設別軒数及び収容人員の推移

- ✓ 途中、データの欠損があるが、2018年以降、宿泊施設の件数は大幅に増加しており、特に簡易宿所の数が大幅に増加している。



※ 収容人数：平成28年～令和2年はデータ欠損
※ 宿泊施設別軒数：平成28年～平成29年はデータ欠損

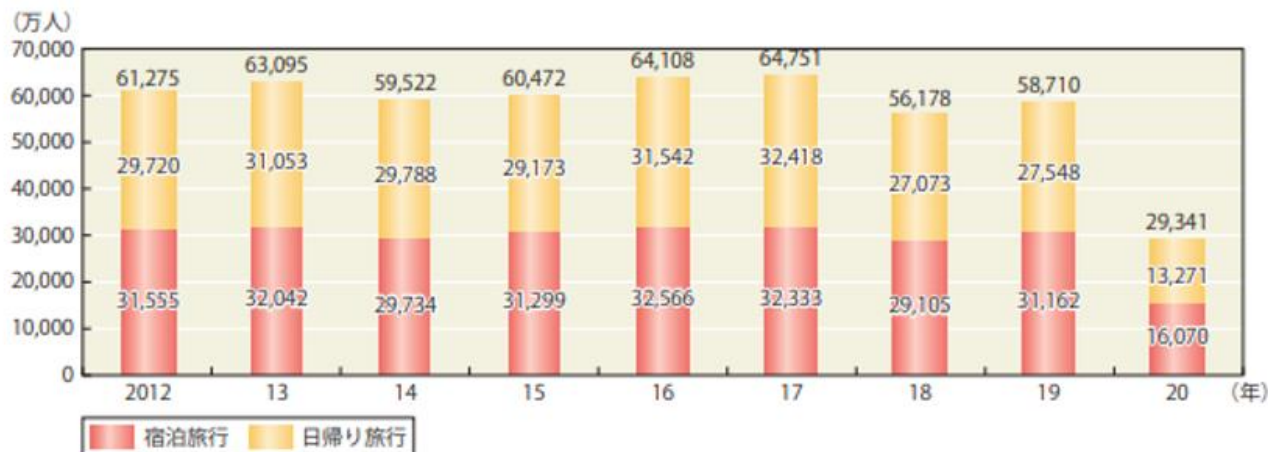
出典：平成18年～平成27年 由布市観光動態調査

2-(1)内部環境の変化

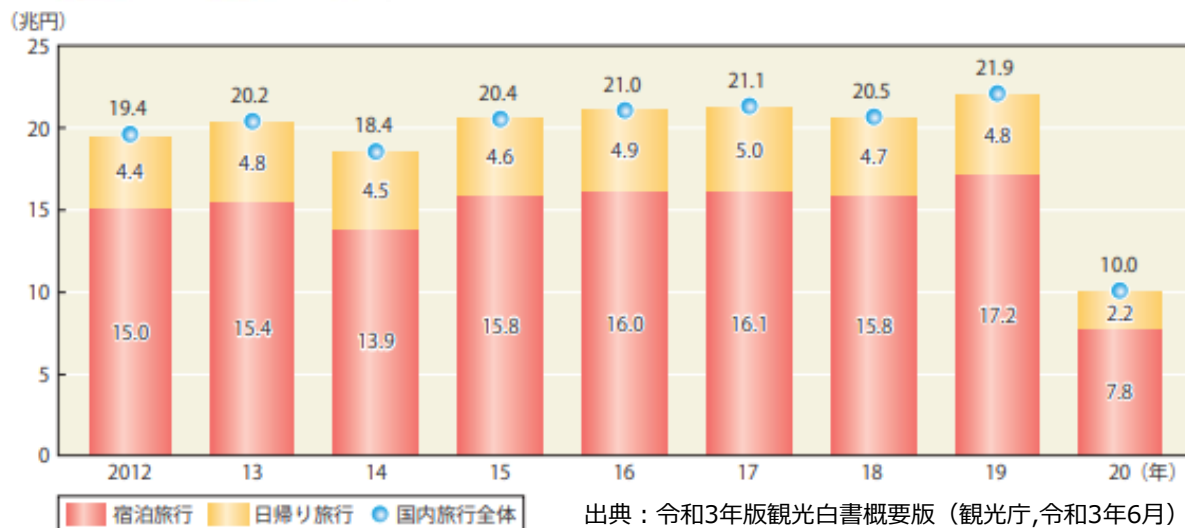
【参考】日本人国内旅行延べ人数、消費額の推移

- 2020年（令和2年）の日本人の国内宿泊旅行者数は延べ1億6,070万人（前年比48.4%減）、日帰り旅行者数は延べ1億3,271万人（前年比51.8%減）。
 - 2020年（令和2年）の日本人国内旅行消費額は10.0兆円（前年比54.5%減）。
- このうち宿泊旅行は7.8兆円（前年比54.7%減）、日帰り旅行は2.2兆円（前年比53.9%減）。

（図表 I - 26）
日本人国内宿泊旅行延べ人数、
国内日帰り旅行延べ人数の推移



（図表 I - 27）
日本人国内旅行消費額の推移



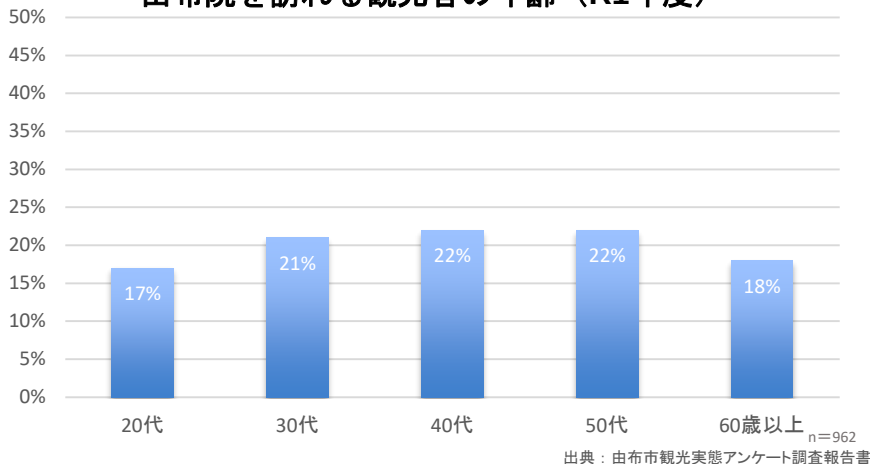
出典：令和3年版観光白書概要版（観光庁、令和3年6月）

2-(1)内部環境の変化

由布市を訪れる観光客の実態

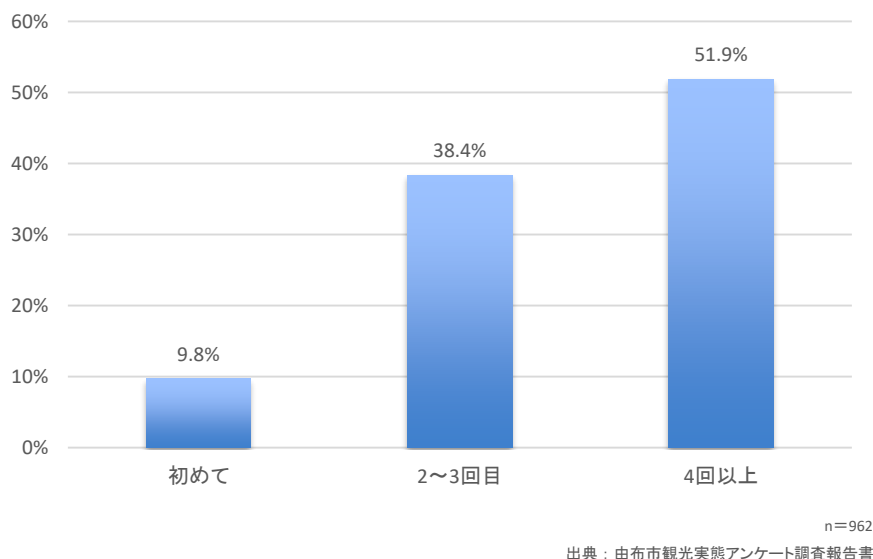
- ✓ 全体の傾向として、30代～50代の割合が高いことがわかる。

由布院を訪れる観光客の年齢（R1年度）



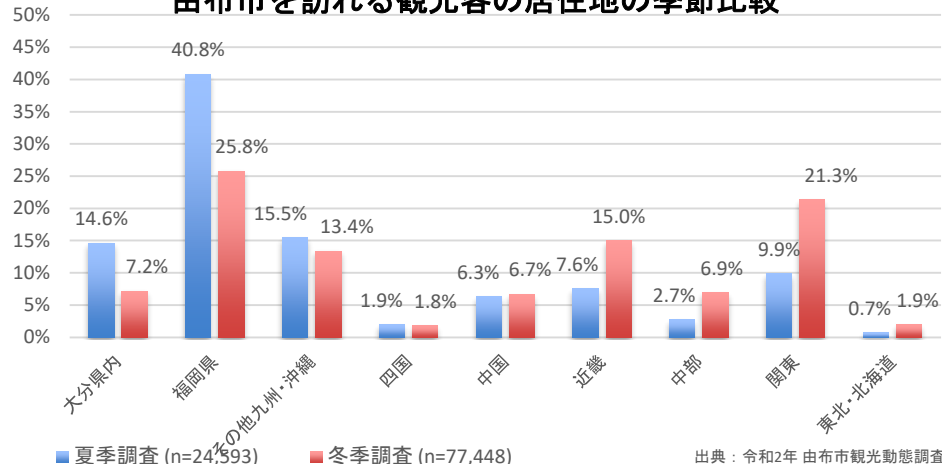
- ✓ 由布院を訪れた観光客の来訪回数を見ると、4回目以上が約半数を占めておりピーター割合が高いことが分かる。

由布院を訪れる観光客の来訪回数



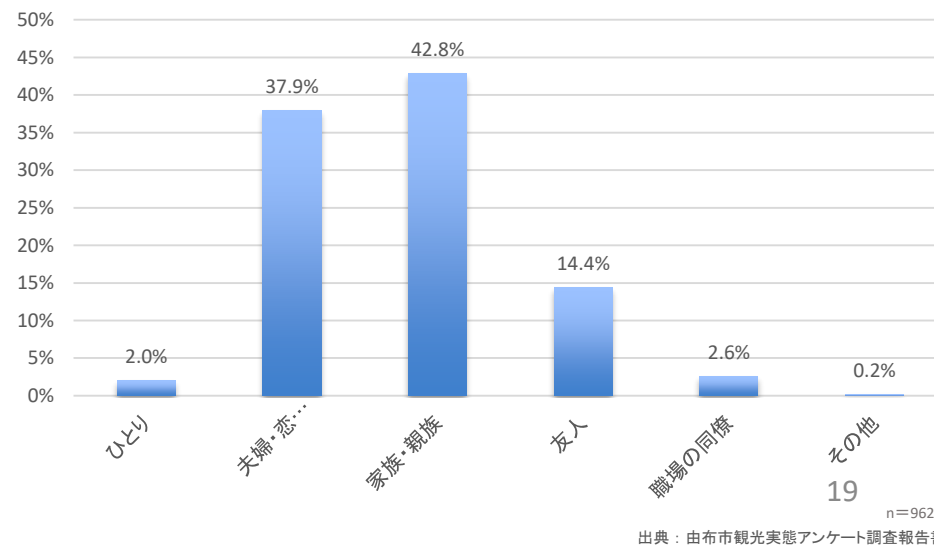
- ✓ 夏期（6～8月）は県内や福岡県といった近距離圏内からの来訪が多いが、冬期（12～2月）は関東を中心に遠距離からの訪問が増える。

由布市を訪れる観光客の居住地の季節比較



- ✓ 同行者はパートナーもしくは家族で約8割を占めている。
- ✓ 友人も含めると95%であり、親しい人との時間を過ごす事を目的にしていることが分かる。

由布院を訪れる観光客の同行者

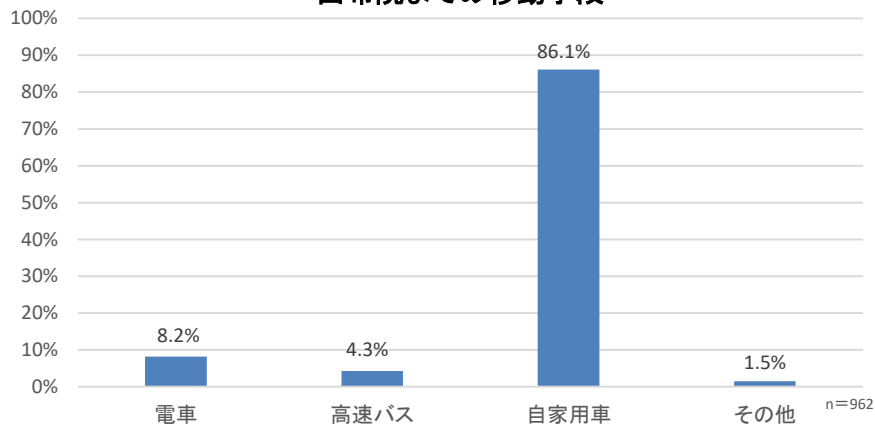


2-(1)内部環境の変化

由布市を訪れる観光客の実態

- ✓ 移動手段は、「自家用車」が最も多く86.1%、次いで「電車」が8.2%である。

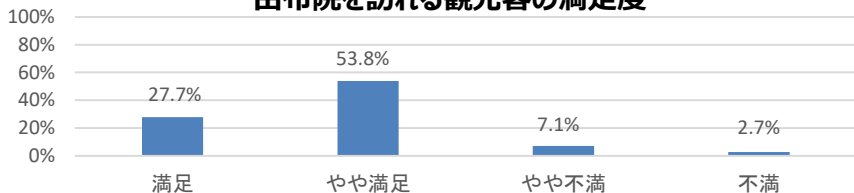
由布院までの移動手段



出典：由布市観光実態アンケート調査報告書

- ✓ 「満足」と「やや満足」を足すと約8割となっている。
 ✓ 特に「街並み・景観」の満足度が高い

由布院を訪れる観光客の満足度

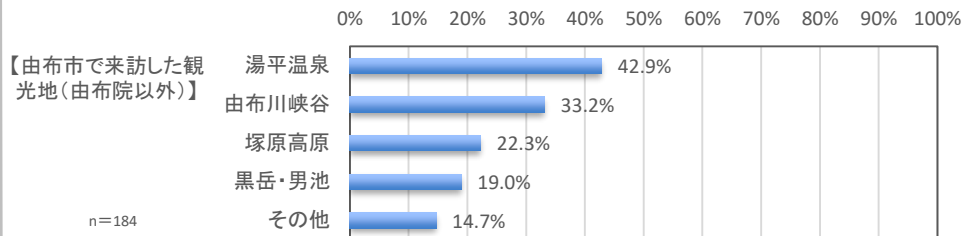


	調査数(人)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用なし	『満足』	『不満』
滞在全体	184	27.7	53.8	7.1	2.7	8.7	81.5	9.8
宿泊	184	17.4	39.1	4.9	0.5	38.0	56.5	5.4
食事	184	23.9	48.9	5.4	1.1	20.7	72.8	6.5
土産品	184	19.0	45.1	7.6	1.6	26.6	64.1	9.2
街並み・景観	184	27.7	58.2	4.9	0.5	8.7	85.9	5.4
イベント・祭り	184	9.2	27.2	6.5	1.1	56.0	36.4	7.6
観光・交通案内版	184	14.1	42.9	9.2	2.2	31.5	57.0	11.4
おもてなし	184	16.3	45.1	8.2	0.5	29.9	61.4	8.7
観光情報(情報発信)	184	11.4	37.5	13.0	1.6	36.4	48.9	14.6

n=184 出典：由布市観光実態アンケート調査報告書

- ✓ 由布市を訪れたものの、由布院エリアへは立ち寄りなかつた人に、「由布市で訪問した観光地」を尋ねたところ、最も高いのは「湯平温泉」の42.9%で、次いで「由布川峡谷」の33.2%。「塚原高原」は22.3%、「黒岳・男池」は19.0%。

由布市（由布院以外）の立ち寄り箇所



【旅行形態】

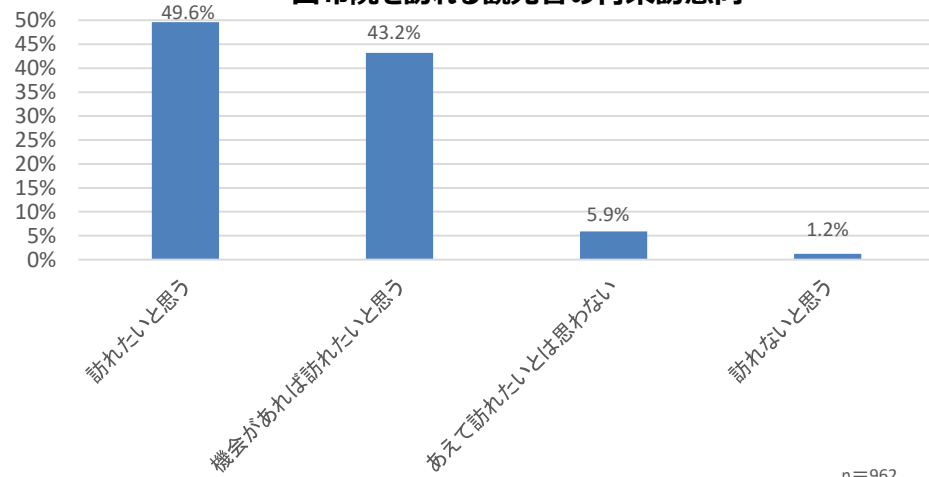
	(人)調査数	(人)個人旅行	族・職場(友人・家族)	個人旅行(友人・家族)	ツアー	旅行会社	修学旅行	社員旅行	その他
由布院エリア	962		2.7	93.2	0.9		2.4	0.7	
由布川峡谷	61		6.6	90.2	-		3.3	-	
湯平温泉	79		1.3	93.7	1.3		3.8	-	
塚原高原	41		9.8	80.5	2.4		4.9	2.4	
黒岳・男池	35		8.6	80.0	2.9		5.7	2.9	

n=962

出典：由布市観光実態アンケート調査報告書

- ✓ 観光客の地域に対する愛着度を測る指標の1つとして重要であるとされる「再来訪意向」について、「訪れたいと思う」「機会があれば訪れたいと思う」を足した割合は9割を超えている。

由布院を訪れる観光客の再来訪意向



出典：由布市観光実態アンケート調査報告書

2-(1)内部環境の変化

由布院への非来訪理由

- ✓ 来訪者と非来訪者で比較すると来訪しない理由の上位は同じだが、非来訪者の方が混雑や観光地化されていて街並みの雰囲気損なわれるといったマイナスイメージを持っていることがわかる。

		対象者：由布院に訪れたことがない人 由布院エリアへ来訪しなかった理由											
		全体 (調査数)	観光客で混雑 していてゆっくり できないから	観光地化しすぎ ていて街並みの雰 囲気が損なわれ ているから	外国人旅行者 が多いから	周遊できる ような観光地 スポットが少な いから	宿泊費や食 事代、移動の 費用が高いから	交通アクセ スが悪く移動 が不便だから	観光情報が 少なく、魅力 が伝わってこ ないから	由布院より も他に行き たい観光地 があるから	由布院らし い新しい魅 力・イベン トが少ない から	特にな い	その他
全体		184	26.6	14.7	19.0	8.7	16.3	7.6	6.5	21.7	6.0	33.7	2.2
性年代別	男性・計	86	26.7	14.0	17.4	8.1	16.3	10.5	8.1	24.4	5.8	32.6	1.2
	男性20代	3	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	33.3	33.3	-	33.3
	男性30代	8	12.5	-	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	25.0	-
	男性40代	23	21.7	8.7	17.4	4.3	21.7	8.7	17.4	26.1	-	34.8	-
	男性50代	32	28.1	15.6	21.9	6.3	15.6	12.5	-	25.0	9.4	34.4	-
	男性60歳以上	20	40.0	25.0	10.0	10.0	15.0	5.0	5.0	15.0	-	35.0	-
	女性・計	98	26.5	15.3	20.4	9.2	16.3	5.1	5.1	19.4	6.1	34.7	3.1
	女性20代	15	40	13.3	20.0	6.7	20.0	-	-	13.3	6.7	40.0	-
	女性30代	22	22.7	-	9.1	13.6	18.2	4.5	4.5	13.6	4.5	3.4	4.5
	女性40代	27	22.2	18.5	33.3	7.4	18.5	7.4	7.4	29.6	11.1	25.9	3.7
	女性50代	28	25.0	21.4	10.7	7.1	7.1	7.1	3.6	21.4	3.6	42.9	3.6
	女性60歳以上	6	33.3	33.3	50.0	16.7	-	-	16.7	-	-	33.3	-
来訪歴	来訪者	725	19.0	9.1	18.9	4.0	17.7	6.1	1.4	20.8	2.8	37.1	9.1
	非来訪者	184	26.6	14.7	19.0	8.7	16.3	7.6	6.5	21.7	6.0	33.7	2.2

2-(1)内部環境の変化

第2次由布市総合計画(2016-2025)のポイント

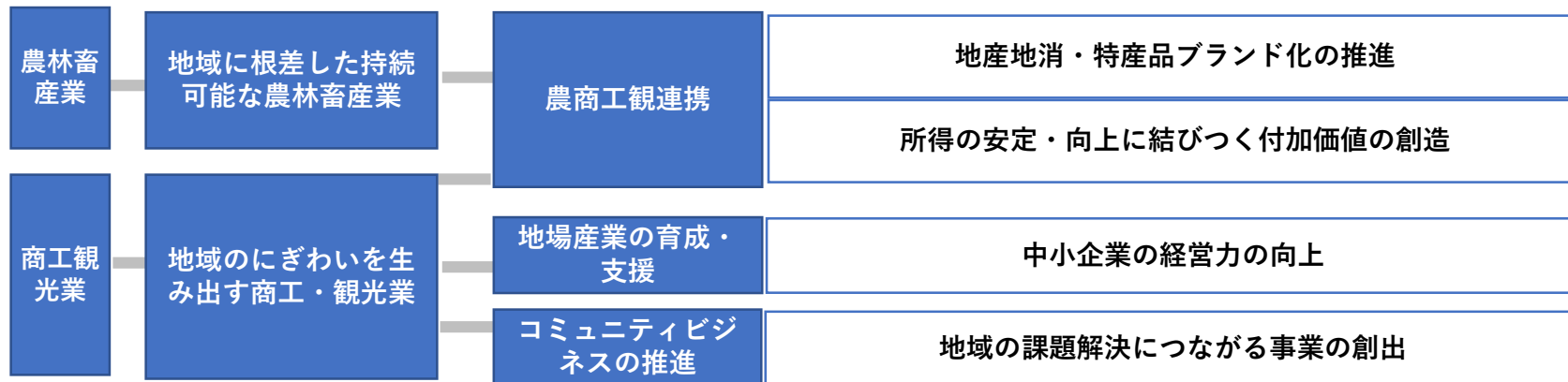
まちづくりのテーマ

経済の循環から地域が潤うまちづくり

由布市では、豊かな自然環境を資源とする農林畜産業が土台となり、地域それぞれの特性を活かした商工業や観光産業が展開されています。このような多岐にわたる産業は、各地域の生活文化の中心をなし、経済の循環だけでなく、ひとやものの循環を生み出すものです。幅広く展開する産業間の連携を図り、地域内外のニーズとつながることで、新たな仕事や雇用を生み出すだけでなく、由布市の魅力をより一層高めることができます。農村空間の中で暮らし働ける由布市らしいライフスタイルを提案しながら、必要な仕事を次世代につなぐとともに、就農や起業を支援していきます。

観光に関連する箇所

●施策体系図



●施策目標

施策目標2 地域のにぎわいを生み出す商工・観光業

由布市の商工業は、観光関連の事業主を含め、多様な中小企業によって支えられ、地域の雇用とにぎわいを生み出す重要な要素と言えます。今日、ICTや物流が発達し、グローバルな規模で生産活動が展開し、また流通も大手企業が地方にまで進出するようになる中で、由布市において事業を興してきた中小企業にも、時代の流れに合った事業が求められています。中小企業の存続を視野に入れば、地場産業として大手企業との差別化や、各企業における経営力の向上、後継者の育成が必要です。また、地域の課題解決を担う主体としても、地元企業の果たす役割が期待され、コミュニティビジネスへの展開可能性はむしろ高まっています。今まで以上に地場の中小企業の存在感を高め、観光産業をはじめとして地域外の需要を取り込み、積極的に“外貨”を稼ぐことができるよう、また、コミュニティビジネスの推進により、地域住民が安心して暮らすことのできるサービスを提供し、地域のにぎわいを生み出すことができるように商工業を支援していきます。

2-(1)内部環境の変化

新・由布院温泉観光基本計画(2018)の概要

目標像:「豊かな暮らしと交流が共存する滞在型保養温泉村」

由布院観光の理念

①由布院の観光を支える大きな柱は『自然』であり、大事に育まれてきた『環境』『景観』が最大の観光資源である

②程よい大きさの由布院盆地の中で、生活のスケールに合った心地良さと生活を豊かにする小味で多様な魅力が安らぎの空間と個性あるまちを創る

③1人ひとりの顔が見える交流が、無限に広がる情報や物の流れの中から新たな価値を見出し、生活を豊かにしていくとともに、魅力あるものが創造されていく

●基本計画(2018～2030年度)の体系と施策(プロジェクト)

1.滞在化推進戦略

- <1>「食の魅力づくり」プロジェクト
- <2>「宿の魅力づくり」プロジェクト
- <3>「滞在プログラム開発」プロジェクト
- <4>「コミュニティビジネス展開」プロジェクト

2.観光まちづくり推進戦略

- <1>「コミュニティの理解促進」プロジェクト
- <2>「観光人材の確保・定着・育成」プロジェクト
- <3>「連携促進」プロジェクト

3.観光地としての環境整備推進戦略

- <1>「由布院ブランドの維持管理」プロジェクト
- <2>「観光推進体制の整備と財源確保」プロジェクト
- <3>「観光危機管理」プロジェクト
- <4>「観光統計整備」プロジェクト

4.滞在環境の整備推進戦略

- <1>「景観整備と交通体系整備」プロジェクト
- <2>「河川環境の整備」プロジェクト
- <3>「温泉資源の管理・活用」プロジェクト
- <4>「下水道／浄化槽整備」プロジェクト

●2018～2020年度の重点プロジェクトと推進主体・スケジュール

プロジェクト名	推進主体	2018	2019	2020
独自の品質表示の調査・研究	観光協会、旅館組合	→		
既存のプログラムの調査・整理	観光協会、商工会	→		
雇用環境調査の実施	観光協会、旅館組合	→		
雇用環境整備対策の検討	観光協会、旅館組合		→	→
泉質の研究とアピール	観光協会、旅館組合	→		
各推進組織の事務浴体制の充実と役割分担・周知	観光協会、旅館組合、観光局	→		
独自財源の検討	観光協会、旅館組合、商工会、市	→		
由布院駅・バスターミナル周辺整備計画の策定	市、観光局、観光協会	→		→
観光局、市、県、国との交流	観光局、市	→		→
周辺地域との広域連携推進	市、観光局	→		→
由布院「BCP計画」の策定	観光局、市		→	
由布院マーケティング研究会の設置	観光局、観光協会、旅館組合、商工会	→		
外国人観光客に関するマーケティング活動の実施	観光局、観光協会、旅館組合、商工会	→		→
潤いのあるまちづくり条例の見直し、都市計画の理解・見直し	市、観光協会	→		→
無電柱化の推進	市、観光協会	→		→
観光セミナーなどの開催	観光局、市	→		→
地場産業との交流	観光協会、旅館組合、商工会、市	→		→

2-(1)内部環境の変化

(一社)由布市まちづくり観光局の設立と観光地域づくり法人(登録DMO)としての登録

- ✓ 由布市内の各観光組織(7団体)の連携強化を図る「観光事務調整連絡会議」(2013年度)、観光を総合的に推進するために、由布市役所各課職員で構成される「庁内連絡会」(2014年度)、民間と行政との協働による観光を通じた地域マネジメント機能を強化するために、由布市商工観光課内に観光新組織設立に向けた「観光新組織準備室」(2014年度)、「観光新組織推進室」(2015年度)が設置される等、約10年間にわたる検討と実践を経て、2016年4月1日に「由布市まちづくり観光局」が設立された。
- ✓ 同局は、行政と民間が一体となって由布市観光を推進するための中核的な役割が期待されており、名称は、これまで由布市の各地域が、地域主体、住民主体で進めてきた「まちづくり」の哲学と実績を尊重し、その結果生まれた地域の魅力を表現し観光・交流に結び付けることを意図している。
- ✓ 2018年4月には由布院駅隣に由布市ツーリストインフォメーションセンターが完成。由布市まちづくり観光局も同センター内に事務所を構えている。
- ✓ 2021年11月には観光庁より観光地域づくり法人(登録DMO)としての登録を受けた。



画像出典：<https://yufu-tic.jp/tic/>

2-(1)内部環境の変化

国民保養温泉地 湯布院温泉郷(由布院温泉・湯平温泉・塚原温泉・庄内温泉・挾間温泉)として拡充

- ✓ 「国民保養温泉地」とは温泉法第29条に基づき、温泉の公共的利用増進のため、国民の保養休養に重要な役割を果たす温泉地を環境大臣が指定するものである。2019年5月現在、79か所が指定されている。
- ✓ 由布院温泉、湯平温泉は、1959（昭和34）年5月5日に国民保養温泉地に指定されている。1981（昭和56）年度には「湯布院温泉」として国民保健温泉地に指定された。
- ✓ 由布市としての市町村合併も受け、平成29年度から見直しと改定作業を行い、平成31年2月に新たな計画（案）を県を通じて環境省に提出し、湯布院温泉郷(由布院温泉・湯平温泉・塚原温泉・庄内温泉・挾間温泉)として拡充指定（再指定）を受けた。
- ✓ 基本理念として「滞在型・循環型保養温泉地の実現」を掲げている。地域内外の“ヒト”をはじめとした“モノ”、“コト”との交流や連携によるまちづくりを基本とし、第1次、第2次、第3次産業を有機的に連携させ由布市に新しい価値をもたらす“総合産業”であるとして、“住んで良し、訪れて良し”を実現していくこととしている。
- ✓ 由布市の源泉数は939。

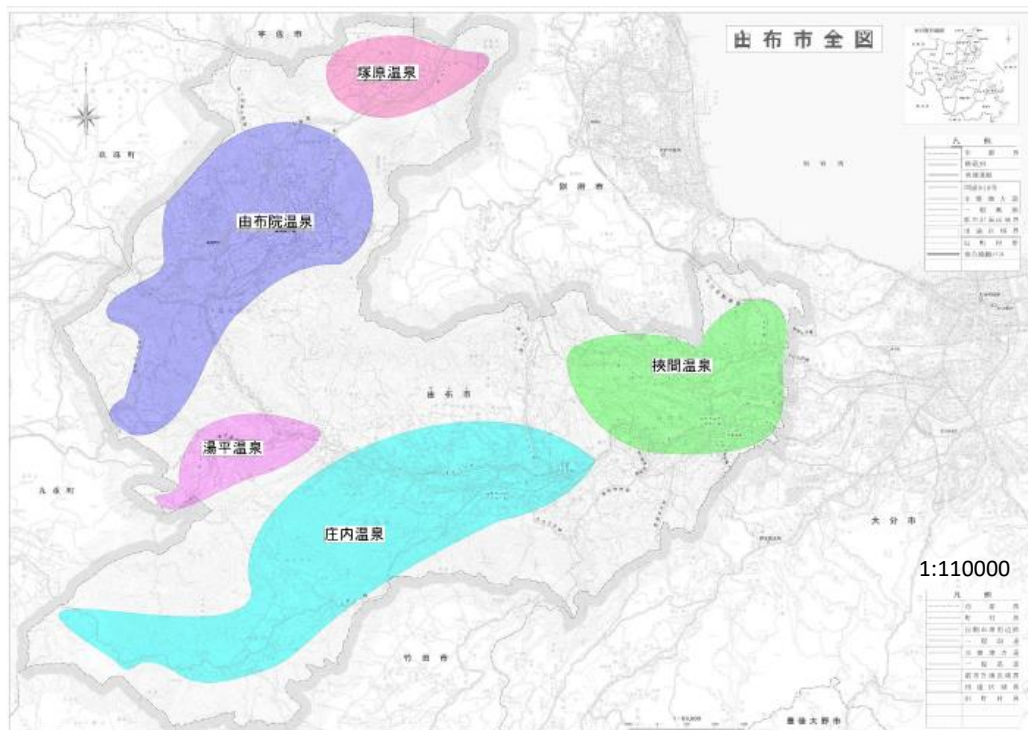
湯布院温泉郷

(由布院温泉、湯平温泉、塚原温泉、庄内温泉、挾間温泉)

国民保養温泉地計画書



令和元年 10月
環境省



出典：https://www.env.go.jp/nature/onsen/area/pdf/hoyo_06725f

2-(2)外部環境の変化

(1)災害や気候変動、感染症等の多様なリスクの増加

- ✓ 年々、甚大な被害をもたらす自然災害（豪雨、台風、地震）が増加している。
 - ✓ 新型コロナウイルスの発生もあり、観光を取り巻く多様なリスク対策が今後の必要不可欠な要素となりつつある
- 今後、リスクマネジメントは必須に。リスク発生時の対応について、多様な主体や機関と連携体制を築いておくことが重要。

(2)ライフスタイルや働き方の変化

- ✓ コロナの後押しもあり、テレワークの増加など働き方の多様化。ワーケーションなどへの注目も集まる。
 - ✓ 定額制の宿泊・居住サービスや民泊等の新たな宿泊形態や、物やサービスを共有するシェアリングエコノミーの考え方も普及している。
- いかに心地よく、長く滞在したいと思える空間を作っていくかが重要
- 住民に必要な地域の生活機能（医療、生活必需品の購入、交通アクセス、図書館等）が観光客にとっても重要な機能に

(3)旅行者（国内・インバウンド）の多様化

- ✓ 計画当初よりインバウンドの増加が著しく、客層（国籍、所得）が多様化。また、インバウンドのみならず、宗教上の戒律がある方、障がいのある方、LGBTQ（性的マイノリティ）などへの理解を深めていくことも重要に。
 - ✓ 今後は、ジェネレーションZ（1997年～2012年生まれ）やミレニアル世代（1981～1996年生まれ）等のデジタルネイティブ世代が旅行者の中心となる。旅行を取り巻く価値観の変化や旅行スタイルの変化に注目するとともに、いわゆる観光だけにとどまらない目的で地域を訪れる「関係人口」等にも注目。
- 今後の客層の変化を見越して由布市としてどのような観光・旅行を提供していくのか
- インバウンドと国内客双方にとって居心地の良い空間を作っていくために必要なことは何か。

(4)「環境」、「持続可能」へのさらなる意識の高まり

- ✓ 気候変動やSDGs等に対する世界各地での取り組みの活発化
 - ✓ 若い世代にとって環境対策は当たり前の感覚に。地域にとっても今後はベーシックニーズになりうる。
 - ✓ 環境のみならず、人が住み続けていくためには産業としての持続可能性も重要。
- 持続可能な観光地経営のため、由布市としてどう取り組むか

(5)デジタルトランスフォーメーション(DX)

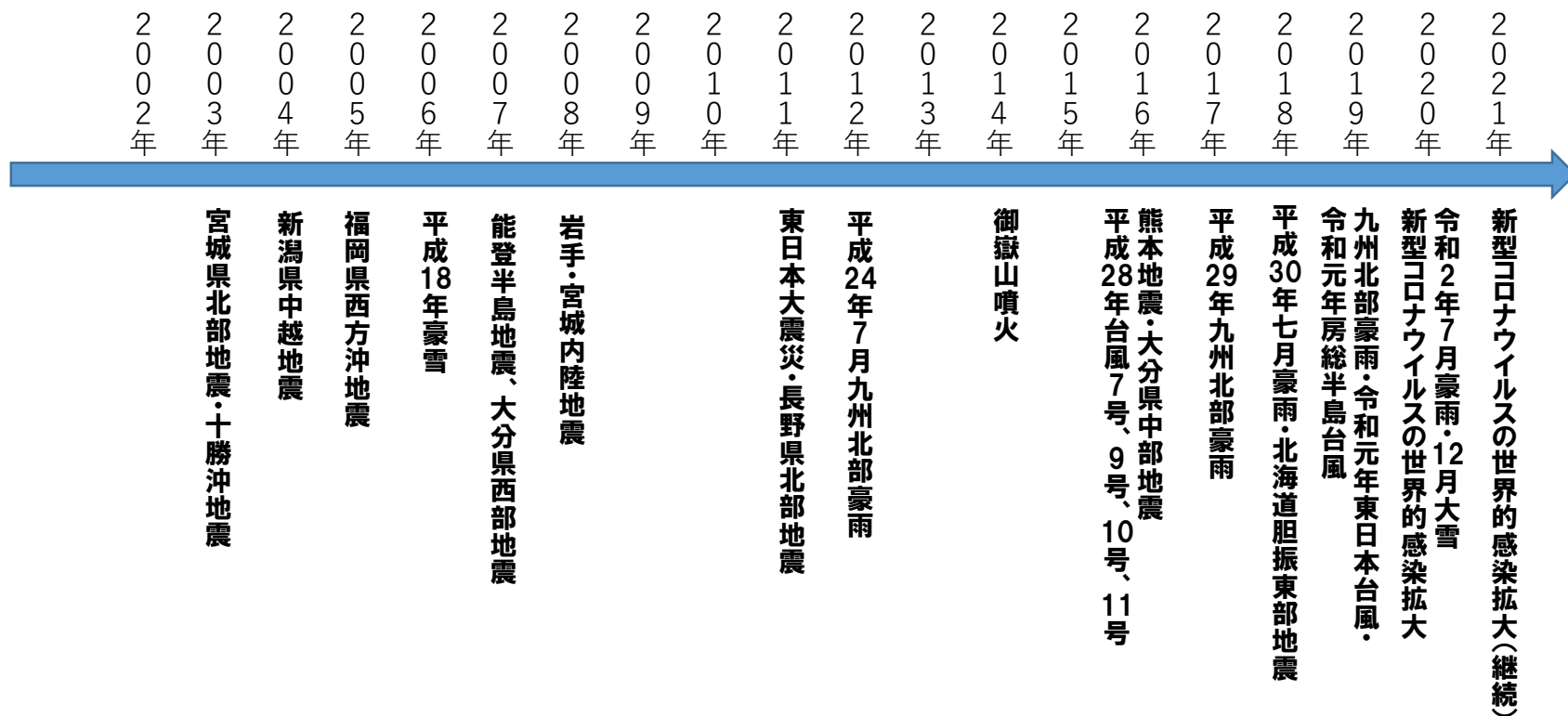
- ✓ ICT、IoT技術の向上、5Gの登場などにより、近年急速にデジタル化が進んでいる。特にコロナが後押し。
 - ✓ 民間のノウハウも活用することで自治体間競争も激化
- 生産性向上や利用者の利便性向上の点からも戦略的な展開が求められる。

2-(2)外部環境の変化

気候変動と多発する災害

- ✓ 日本では洪水や土砂災害を引き起こす大雨や短時間強雨の回数が増加。それに伴い土砂災害の発生回数も近年増加傾向にある。由布市周辺では近年、豪雨や地震などの被害も頻発しており、常に起こりうるものとして対策は必須である。
- ✓ 2002年に拡大したSARSや2020年からの新型コロナウイルスのような感染症に加え、以下の表には含めていないが、リーマンショック等の経済危機も含めると、平和産業である観光を脅かすリスクは様々であるといえる。

主な災害や感染症の例



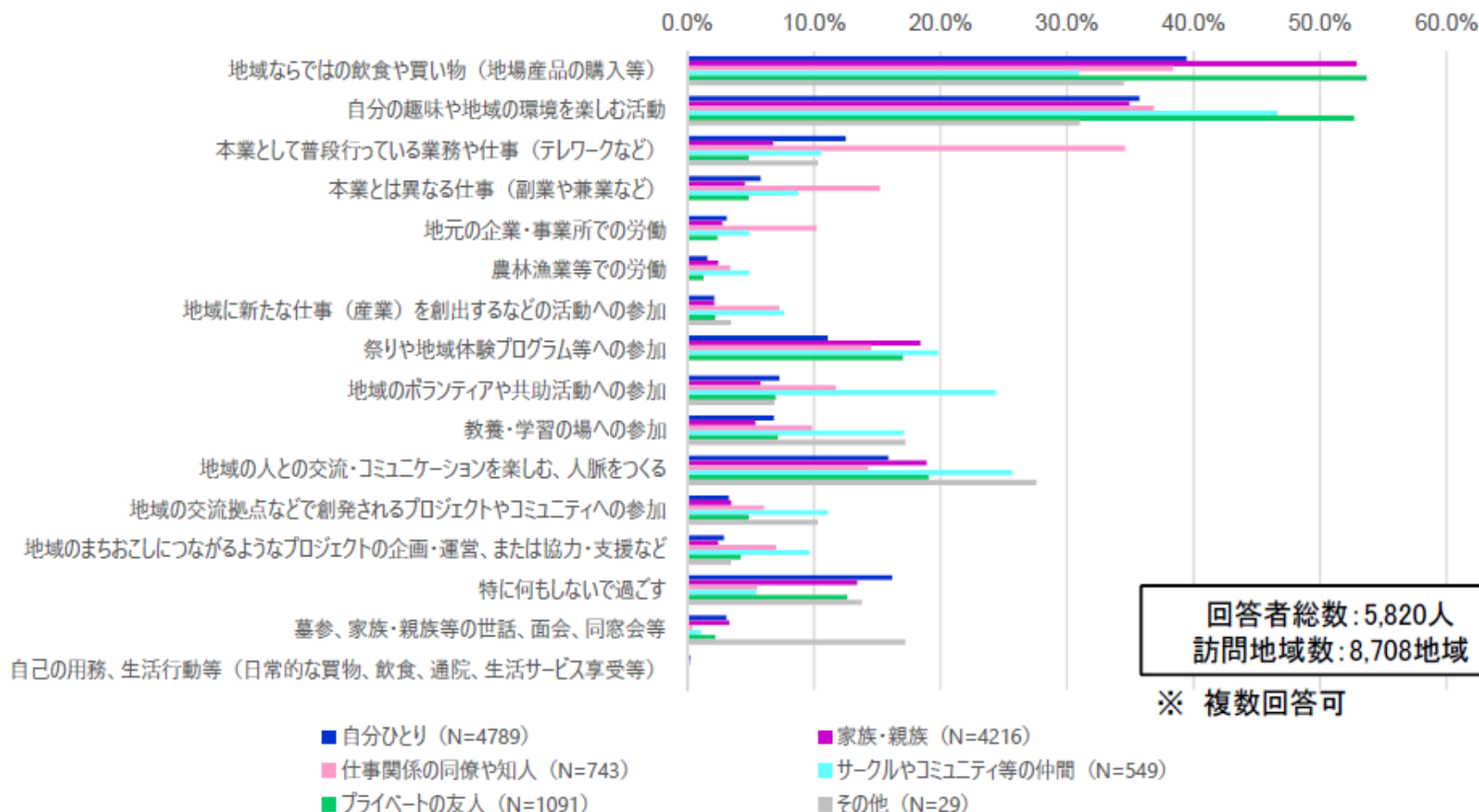
出典：国土交通省、内閣府HPの情報等を元に作成

2-(2)外部環境の変化

来訪者の来訪目的の多様化

- ✓ 多様な目的で地域に通ってくれる関係人口（≒ロイヤルティの高い客層）との関係性をどう考えていくか
- ✓ 近隣からの来訪や由布市への愛着が強い層とどのような関係性を築いていくかが重要

関係人口との関係性



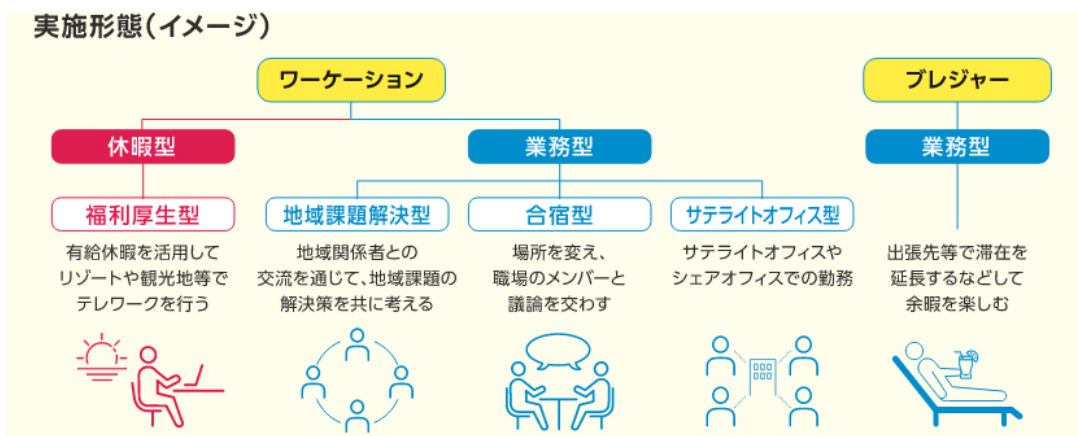
出典：「地域との関わりについてのアンケート」関係人口の実態把握補足資料、国土交通省、2019

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001329452.pdf>

2-(2)外部環境の変化

テレワーク、ワーケーションなどへの注目

- ・ テレワークの普及に伴い、ワーケーションへの注目度が高まっています。
- ・ 2019年11月には長野県及び和歌山県が全国の自治体に参加を呼びかけ、ワーケーションの普及促進を目的としてワーケーション自治体協議会が設立されました。2021年11月現在202自治体が参加しています。



主体別の導入メリット

企業側のメリット

- ・ 有給休暇の取得促進
- ・ 帰属意識の向上
- ・ 人材流出の抑止と人材の確保
- ・ イノベーションの創出
- ・ CSR、SDGsの取組みによる企業価値の向上
- ・ 地域との関係性構築によるBCP対策
- ・ 地方創生への寄与

利用者のメリット

- ・ 長期休暇が取得しやすくなる
- ・ 働き方の選択肢の増加
- ・ ストレス軽減やリフレッシュ効果
- ・ モチベーションの向上
- ・ 業務効率の向上
- ・ リモートワークの促進
- ・ 新たな出会いやアイデアの創出

行政・地域のメリット

- ・ 平日の旅行需要の創出
- ・ 交流人口および関係人口の増加
- ・ 関連事業の活性化、雇用創出
- ・ 企業との関係性構築
- ・ 遊休施設等の有効活用

関連事業者のメリット

- ・ 事業拡大および雇用創出
- ・ 受入地域(行政)との関係性向上
- ・ 自社のソリューション開発



出典：「新たな旅のスタイル」
ワーケーション & ブレイジャー
パンフレット（観光庁）

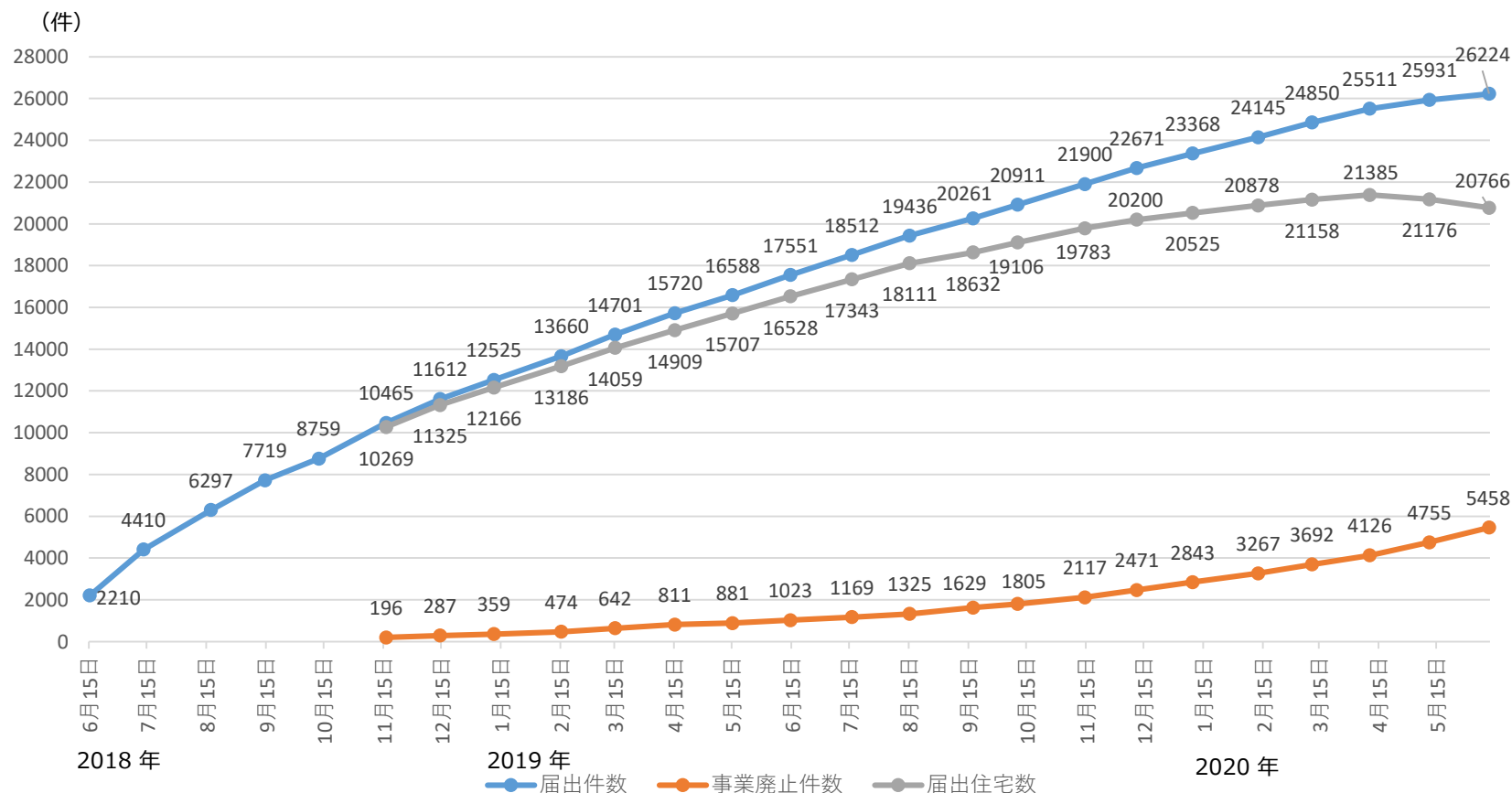
https://www.mlit.go.jp/kankochoworkation-bleisure/img/wb_pamphlet_tourist-spot.pdf

2-(2)外部環境の変化

多様な宿泊施設形態の増加

- 住宅宿泊事業の届出件数は法施行（2018年6月）後も着実に増加し、2020年5月時点での全国の届出件数は25,931件、法施行日の約11.7倍となっています。
- Airbnb、ADDRESS（日本各地で運営する家に定額で住める）、HafH（世界36の国と地域、512都市にある宿泊先に、毎月定額で泊まれる）など多様な宿泊サービスも増加しています。

民泊（住宅宿泊事業）届出件数推移

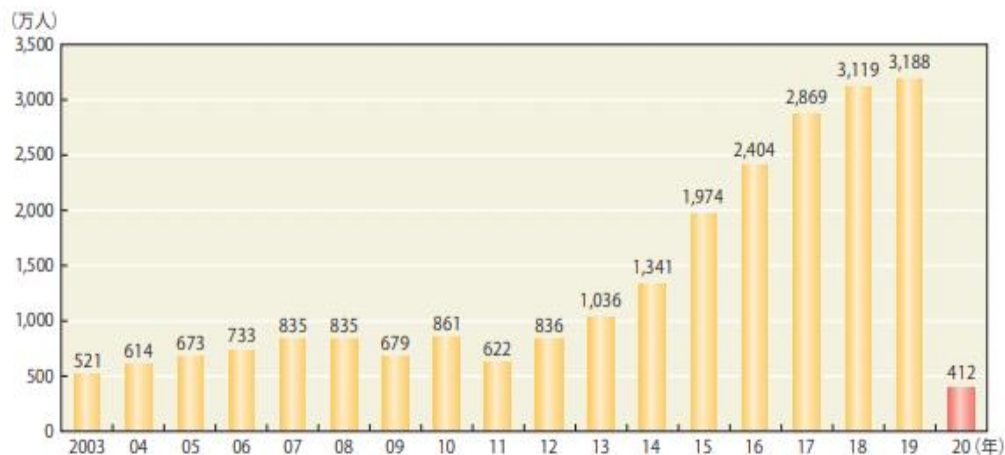


2-(2)外部環境の変化

【参考】訪日外国人旅行者数の推移

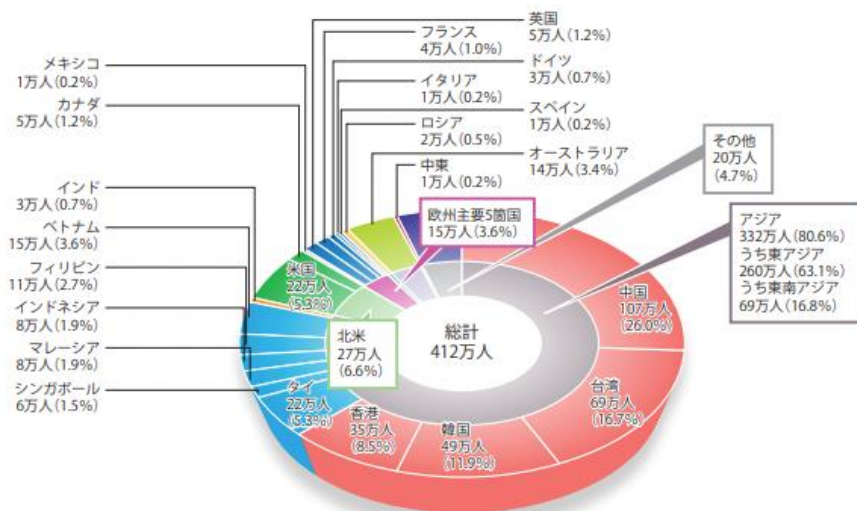
- ✓ 2020年の訪日外国人旅行者数は**412万人**（前年比**87.1%減**）。
- ✓ 内訳は、アジア332万人（構成比80.6%）、東アジア260万人（同63.1%）、東南アジア69万人（同16.8%）、北米27万人（同6.6%）、欧米主要5箇国（英・仏・独・伊・西）15万人（同3.6%）。

（図表 I - 12）訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局資料に基づき観光庁作成

（図表 I - 13）訪日外国人旅行者の内訳（2020年）



資料：日本政府観光局資料に基づき観光庁作成

注1：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア。

注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。

注3：数値は、それぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しない場合がある。

出典：令和3年版観光白書概要版（観光庁、令和3年6月）

2-(2)外部環境の変化

SDGs(Sustainable Development Goals)と観光

- ✓ SDGsとは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」および持続可能な開発目標（SDGs）を指します。2019年9月の国連SDGサミットにて、2030年まではSDGs達成に向けた取組を拡大・加速するための「行動の10年」と定められました。
- ✓ 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、環境、経済、社会に関する先進国と発展途上国双方が取り組むべき17の目標と169のターゲットを定められています。SDGsというと環境のイメージが先行しがちですが、経済や社会に関する取り組みも掲げられており、さらにはそれらが相互に連携しあうことが重要です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/sdgs_gaiyou_202108.pdf

【実施のための主要原則】

普遍性 先進国を含め、**全ての国が行動**

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」

参画型 **全てのステークホルダーが役割を**

統合性 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**

透明性 **定期的にフォローアップ**

(SDGs実施指針より)

- ✓ 「SDGsアクションプラン2021」の重点事項に、地方創生が組み込まれている。

- 感染症対策と次なる危機への備え
- よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略
- SDGsを原動力とした地方創生**、経済と環境の好循環の創出
- 一人ひとりの可能性の発揮と絆の強化を通じた行動の加速

- ✓ SDGs実施指針改定版（令和元年12月20日一部改訂）にて定められている地方自治体の役割

- **地方自治体における SDGs 達成へ向けた取組は、人口減少、地域経済の縮小等の課題の解決に資するものであり、SDGs を原動力とした地方創生を推進することが期待されています。**
- 地方自治体においては、各地域のエネルギー、自然資源や都市基盤、産業集積等に加えて、文化、風土、組織・コミュニティなど様々な地域資源を活用し、持続可能な社会を形成する「地域循環共生圏」の創造に取組む等、**自治体における多様で独自の SDGs の実施を推進することが期待されています。**

2-(2)外部環境の変化

観光地におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)

●クロアチア : eVisitor : Croatian national tourist information system

クロアチアでは、e-visitorというシステム利用が義務化されており、20万施設が登録。宿泊施設は24時間以内に宿泊者の情報を入力することが求められる。入力と同時にstay tax（滞在税（市税））の詳細計算が即時に行われる。（1泊1ユーロ程度。25%の付加価値税は別。場所や季節、年齢（子供）によって税額は異なる。）宿泊者データは警察にも共有される。

ホテルは2回/1ヶ月、小規模施設は3回/年程度各地域（県）の指定銀行に滞在税を納付。滞在税は地域の政府観光局に集まった後、様々な機関に配分される。一部は地域の政府観光局へ、1%は赤十字へ、地域へは客数に応じて配分される。

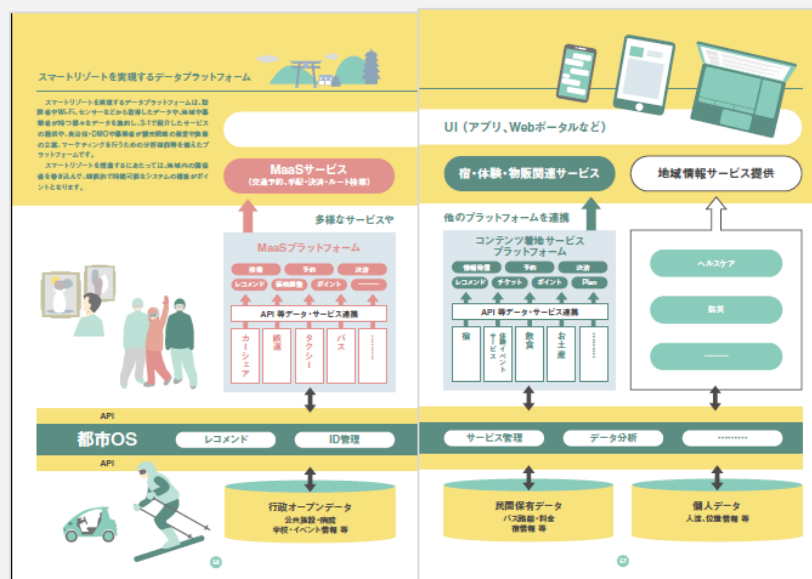
宿泊施設へは、e-visitorからレポート（過去の宿泊者数に関する情報、最近の宿泊者数の客層や他の宿泊地等に関する内容）が毎朝メールで送信される。



https://www.youtube.com/watch?v=IJgd_-m_HjI

スマートリゾート関連調査事業（2019年度：経済産業省）

- スマートリゾートハンドブックを経済産業省HP上でダウンロード可能



https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/downloadfiles/fy31/handbook2.pdf

3-(1)目標像と基本方針

【目標像】

人と暮らしが織りなす“懐かしき未来”の創造

～住んでよし、訪れてよし、原点回帰のまちづくり～

- ✓ 今期の計画では目標像は従来を踏襲しつつ、3つの基本方針を再設定します。UNWTO（国連世界観光機関）の「A Practical Guide to Tourism Destination Management」に示されているVICEモデルというものがあります。VはVisitor（来訪者）、IはIndustry（観光産業、農業などの地域の産業）、CはCommunity（住民や行政）、EはEnvironment and History, Culture（自然環境や歴史、文化）を指し、観光地でマネジメントすべき対象を整理したことになります。
- ✓ そのモデルに沿って、由布市が引き続き大切にしていきたいことを整理すると以下の通りとなります。
（概念図は次ページ参照）

【基本方針1：最も住みよいまち（＝最も優れた観光地）の実現】

「最も住みよいまちこそ最も優れた観光地である」という由布院が従来から大切にしてきた言葉を継承しています。住民の暮らしやライフスタイルを大切に、来訪者もその魅力を感じて集まってくるという構図を大切にします。

また、VICEモデルのEにあたる自然環境は由布市の魅力の根幹でもあり、長年にわたって大切にしてきた歴史があります。最も住みよいまち（＝最も優れた観光地）の実現を意識しながら、自然環境の保全に向けた取り組みも行っていきます。

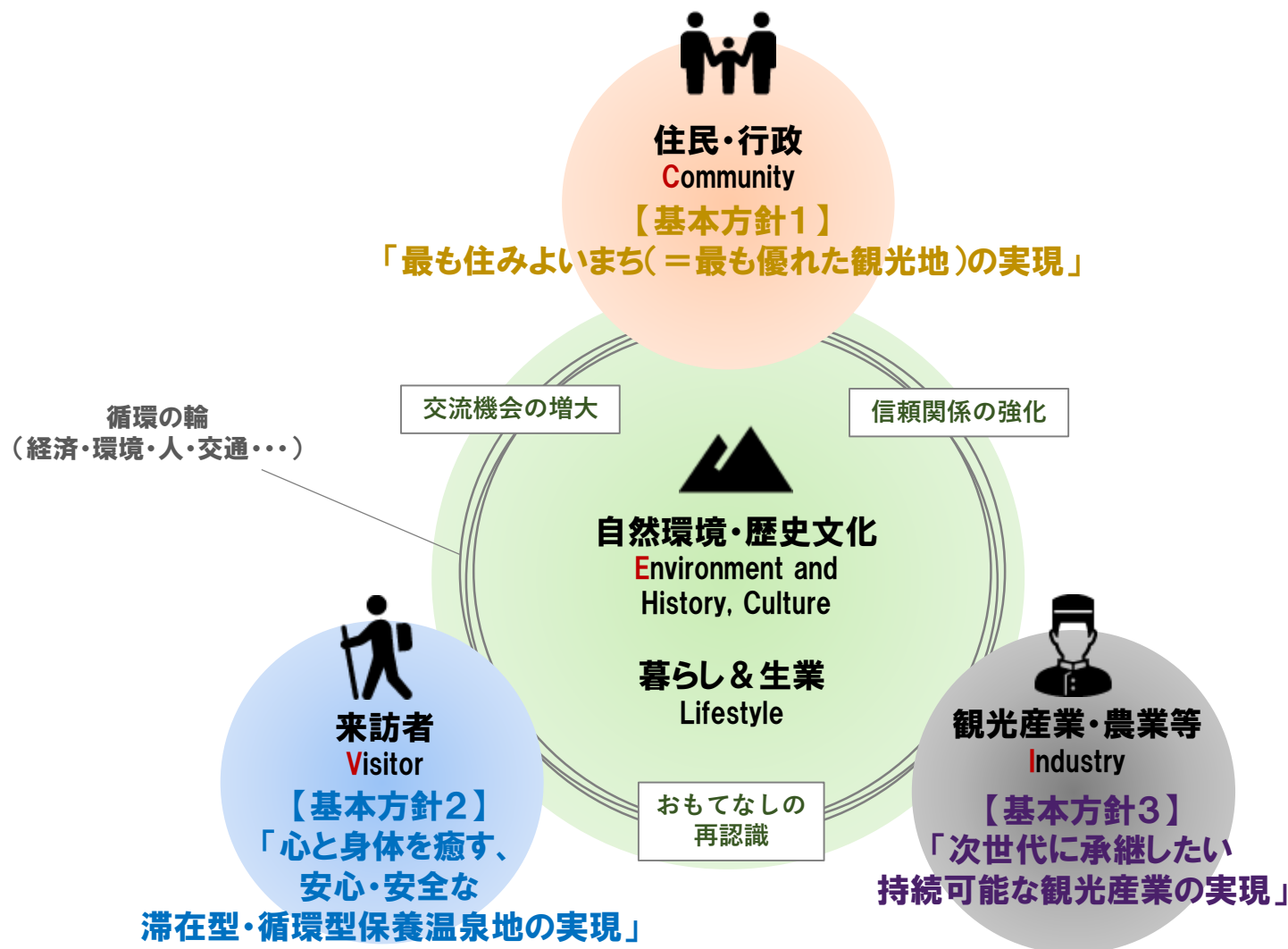
【基本方針2：心と身体を癒す、安心・安全な滞在型・循環型保養温泉地の実現】

従来から大切にしてきた滞在型・循環型保養温泉地としての役割を再認識します。安全・安心の強化は、来訪者のみならず住民の安心にもつながるとともに、顔の見える関係を大切にすることでファンを増やし、長く滞在したい場所、何度も訪れたい場所になります。

【基本方針3：次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現】

地域への経済波及効果が高い観光産業の特性を再認識するとともに、横のつながりを強化しながらやりがいと誇りが持てる「生業」を育みます。さらに自信をもって次世代に承継したいと思えるためにも、きちんと稼げる「産業」にしていきます。

図1 UNWTOのVICEモデルをベースにした基本方針の概念図



【参考】目標像と基本方針の確認に向けた議論(第1回作業部会ワークショップより)

一体化した魅力向上

伝統芸能の情報
発信

由布市全体を観光でき
る観光ルートの提案

自然環境を守る

景観の見せ方

由布市内観光の充実
庄内、挾間の魅力UP

自然環境の有効活用/
エリア全体

災害対策

災害対策に関す
る事業

毎年起こる
水害等対策

地域らしさ

各地域毎に
短期的なPDCAサイクル

観光局による？

インフラ

3町を繋ぐ交通の充実

観光インフラの整備
(トイレ等)

交通/2次交通

湯布院盆地内
車の渋滞対策
PR? (3地域を使った)
お客様⇄住民

食べる場所を増やす
(庄内)

交通渋滞対策

外国人観光客向け
へのおもてなし
案内看板

・町がきれい
・清掃の行き届い
た町



住

市民が由布市
の観光業を知
る

由布市民
向け案内
特典

住民と観
光との
融合?

庄内地域
農産物地産地消

国民保養温泉地とし
ての自覚

地域住民との
一体感、共存

迎える側
の気持ち

人と暮らしが織りなす”懐かしき未来”の創造

住んで良し、訪れて良し、原点回帰のまちづくり

観光事業者だけでなく、市民みんなにとっての価値
オーバーツーリズム等、対策など

マイナスへの対策

オーバーツーリズム規制
条例化?

役割分担

観光客のターゲット
を絞る

観光局と
商工観光課の

DMO
まちづくり観光局の充実

リピーター重視

由布ファンの獲得
リピーター

【参考】目標像と基本方針の確認に向けた議論(第1回作業部会ワークショップより)

考え方・視点

地域や環境を守りながら観光客を受け入れる視点

・地域住民の観光に対する意識を変えていく

周遊のできる町・市

オーバーツーリズムにならない様に！

滞在型をもっと推進

子どもに誇れる町・市にする

近隣からの集客

大分市から北九州、福岡近隣からの呼び込み

日帰り観光の推進でアクティビティの計画をいろいろ



環境に配慮した移動手段

・2次交通

交通アクセス
(インフラ整備)

EV車のレンタル

交通面の充実

2次交通の整備

充電スタンド
2030年ヨーロッパ
ガソリン車廃止

インフラ整備

ワーケーション
に対応する施設

歩いて楽しい
まちづくり

駐車場

ごみ箱

公園等
休む場所の整備

公衆トイレの
整備

狭間、塚原はイメージしにくい...

人と暮らしが織りなす懐かしき未来の創造

～住んでよし、訪れてよし、原点回帰のまちづくり

外の人の力を入れていくことが必要(内と外をつなぐ)

◎仲間をつくる。自分たちが楽しむ

跡取りがない...若手がいない...

市内の横のつながりを大切にしている

自然景観をいかした観光をつくりたい。通年型！具体化！

周辺から来てもらって楽しめるアクティビティ。奥の深さ

保養・療養は基本！(由布院)

自然を味わってもらいたい(けど場所がない)→具体化

住民の理解を得る！ 周遊・循環・長期滞在

市内のネットワーク

地域とのつながり
理解

後継者
若い人の取り込み

若者集客

若者の居場所

後継者の確保

移住者

移住者を増やす

自然の保全

自然や文化の活用
(農業体験・庄内神楽)

自然景観
を守る

自然の豊かさ
を大切に

プロモーション

木綿恋い記
プロモーション

積極的な情報発信

「農業・農村文化の里」というイメージ・魅力を発信する

財源確保・雇用確保

観光はつまり地域
への利益
お金をどこで落とすか

住んでよしを目指す
ので労働環境の整備

ボランティアでは若
者が育たない
ちゃんと雇う

住む環境を整備し
ていく

人のおもてなし・癒し

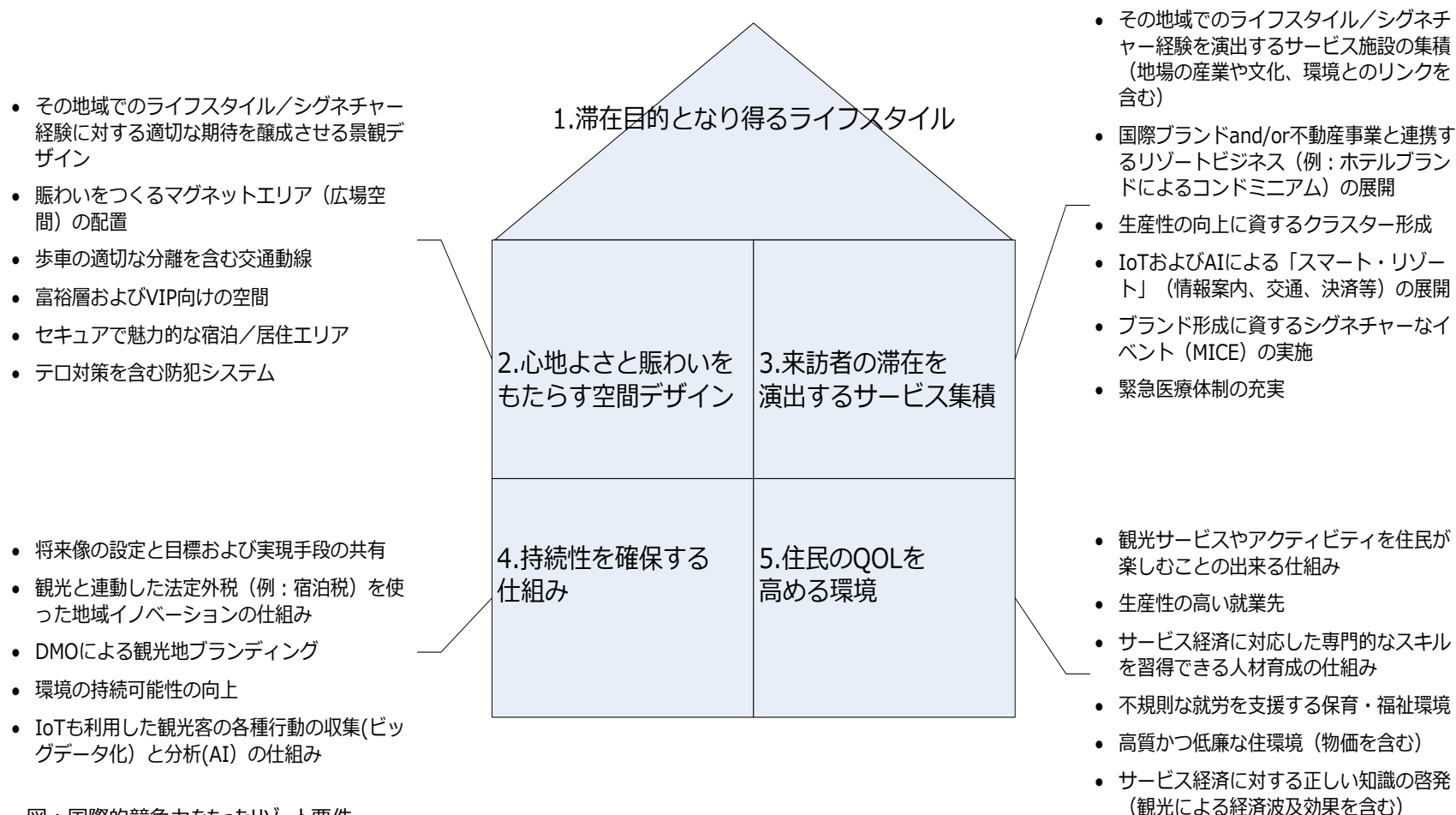
心身の癒

人と人との
つながり

人のあたたかさ
(おもてなし)

【参考】目標像と基本方針の確認に向けて

（由布市もモデル地域に選ばれた「世界が訪れたくなる観光地域づくりに向けた高度化計画策定事業」（2018, 経済産業省）による「国際的な滞在拠点」に必要な要件）



図：国際的競争力をもったリゾート要件

出典：「世界が訪れたくなる観光地域づくりに向けた高度化計画策定事業」（2018, 経済産業省）

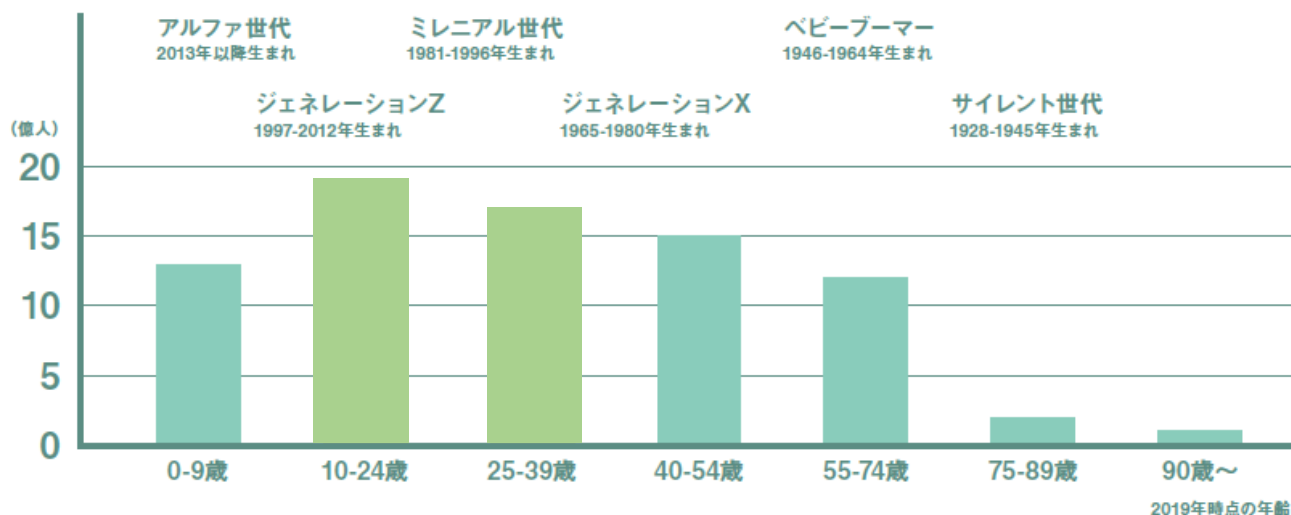
ターゲットの考え方

旅行者層の世代交代を見越しつつ、由布市に愛着を持ってくださる方々を増やしていきます

- ✓ 由布市の雰囲気大切にしながらゆっくりと過ごしたいと思っていただける方をターゲットとし、由布市に愛着を持っていただける方々を増やしていくことを目指します。
- ✓ 現在、由布市には若年層からシニアまで幅広い方々にお越しいただいていますが、今後、国内外に限らず旅行者層が世代交代していく流れも意識していきます。

【参考】

- 今後は旅行者の世代交代が進み、デジタルネイティブと言われるジェネレーションZ（1990年代～2000年代生まれ）やミレニアル世代（1981～1996年生まれ）が中心となってきます。そうした世代交代が進んでいくという実態は意識しておく必要があります。



※1: 各世代については様々な定義があるが、ここでは米国のPew Research Centerの定義
<https://www.pewresearch.org/fact-tank/2019/01/17/where-millennials-end-and-generation-z-begins/>をベースに、
 ジェネレーションZ以降の世代をアルファ世代としている。
 データ出所: United Nations [World Population Prospects 2019]をもとに作成

出典: 経済産業省「スマートリゾートハンドブック」2020年3月

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/downloadfiles/fy31/handbook2.pdf

- ✓ 今後、4年間で取り組んでいく戦略を基本方針別に以下の通り整理しました。
(戦略は複数の基本方針に関係するものもありますが、特に強く関係する基本方針に分類しています。また、優先的に取り組むものに★をつけています)

【基本方針1】「最も住みよいまち(＝最も優れた観光地)の実現」

- 1-1.由布市の自然とライフスタイルを味わえるプログラムづくり (★)
- 1-2.多様な主体が関わる自然環境保全の仕組みづくり
- 1-3.訪問目的となり得る、顔の見えるガイドの育成と発信
- 1-4.交流機会としてのイベントの継続的な開催
- 1-5.来訪者の分散化を図る仕組みづくり
- 1-6.市内各エリアの特徴を活かした景観整備
- 1-7.自然環境・市民・来訪者にやさしい移動手段の促進 (★)
- 1-8.事業者や住民との情報共有

【基本方針2】「心と身体をいやす、安心・安全な保養・滞在型温泉地の実現」

- 2-1.温泉の特徴の掘り起こしと情報発信
- 2-2.身体にやさしい、安心・安全な地元の食の提供 (★)
- 2-3.由布市版・現代湯治のすすめ(長期滞在に耐えうる仕組みづくり)
- 2-4.心の疲れを癒す、おもてなしの体現
- 2-5.来訪者の立場に立った情報発信とプロモーション (★)
- 2-6.観光を取り巻くリスクマネジメントの強化 (★)

【基本方針3】「次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現」

- 3-1.時代の変化を見越した宿泊産業の活性化
- 3-2.観光関連産業従事者のネットワーク強化
- 3-3.観光人材の確保と育成 (★)
- 3-4.観光関連組織の役割分担の明確化(行政、関連組織等)
- 3-5.観光統計の見直しとマーケティングの強化 (★)
- 3-6.観光財源導入の検討
- 3-7.周辺市町村や他県との連携による広域連携の実施
- 3-8.「原点回帰」のための地域の観光まちづくりアーカイブの整理と活用

【基本方針1】「最も住みよいまち(＝最も優れた観光地)の実現」

- ✓ 全てのエリアが共通で認識していることとしては、由布市の魅力の根幹は豊かな自然環境にあるということです。これらの自然環境は永続的なものではなく、意識して保全・管理していかなければ人の手によって失われてしまうものです。
- ✓ また、近年はSDGsにも代表されるように、環境・経済・社会を軸とした持続可能な開発目標が掲げられています。観光の分野においても環境対策は必要不可欠な要素として求められることになり、宿泊産業を中心とした観光産業のあり方についても環境の側面から考えるべき時代にあるといえます。
- ✓ 来訪者や地元住民に我慢を強いる環境対策ではなく、付加価値を高める由布市ならではの環境対策を域内外の人たちが一緒になって取り組める方法を検討し実施していきます。

【参考】アシタのアシプロジェクト(由布市)

- ✓ 2020年9月には由布院の雰囲気になじむ、環境負荷の小さい二次交通の手段として9人乗りの電気自動車「nolc」を試験的に運行。由布院に暮らす人にも、由布院を訪れる人にも快適な「未来の乗り物」や「未来の交通システム」の実現に向けて挑戦する「アシタのアシプロジェクト」を進めている。



「いいね」84%、「乗ったよ」7%。
いま乗れば、自慢できるかも！

nolc
New Object for Lively Community

ノルックは、9人乗りの電気自動車。
時速20km/hまで、由布院の道をシェアリング。
乗っている人たちの口元は、ニコニコ。
近道の人たちも、何かに乗るような顔。
街のなかで、少しだけ遠慮地になったみたい。
誰もが、初めての体験。ただいま無料で運行中です。

2020年9月18日(金)～2021年2月28日(日)
運行時間…8:00～17:00

平日の運行▶定時定路線運行(予約無しで乗車可)
休日の運行▶アプリより乗降箇所の予約必要

お問い合わせ先▶TEL.0977-85-8611まで(受付時間…運行日の8:30～17:00)

【参考】塚原高原コモレビカフェ、MONOMONOめぐり 塚原バルウォークの開催(塚原高原観光協会)

- ✓ 塚原高原では、高原ならではの雰囲気を楽しんでいただける仕掛けとして、コモレビカフェやヨガ、バルウォークなどの取り組みを実施している。デザイン性の高い情報発信ツールや空間づくりもポイントとなっている。



【参考】世界が訪れたいくなる観光地づくりに向けた高度化計画策定事業（2018年度）

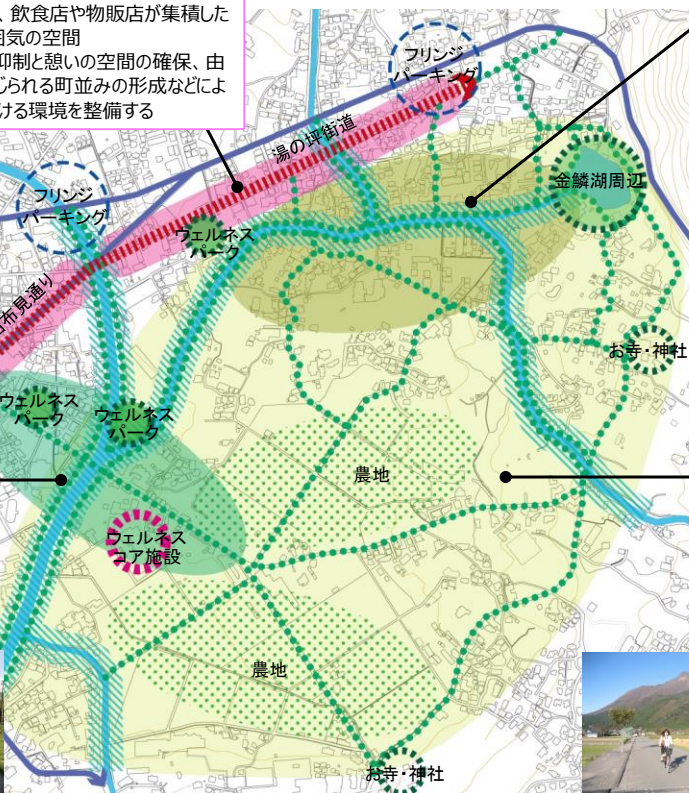
- ・マグネット・エリア（ウェルネス創造拠点、駅周辺、湯の坪街道）の整備などにより、**滞在型観光地にふさわしい機能や空間を充実**させる。
- ・店舗等の集積によるにぎわいは駅周辺エリアと賑わいエリアにとどめ、その他のエリアでは**田園風景と静かな環境を維持**する。
- ・中心部への車の流入を極力排除し、公園・広場や散策路などを整備して、**まち全体で回遊を楽しめる空間**とする。
- ・マグネット・エリアをはじめとした主要箇所に防犯カメラ等を設置し、国際的なリゾートにふさわしい**安全・安心な空間**とする



- ・駅前から続く、飲食店や物販店が集積した賑やかな雰囲気的空間
- ・通過交通の抑制と憩いの空間の確保、由布らしさが感じられる町並みの形成などにより、快適に歩ける環境を整備する

- ・交通結節拠点であるとともに、飲食店や物販店が集積した賑やかな雰囲気空間
- ・シビックセンターやバスセンター・駅前交通広場の整備に併せて、歩行者優先の回遊空間を整備する

- ・温泉、休憩、散策、運動等や地元の人達との交流を楽しめるリラックスした雰囲気的空間
- ・ウエルネス・コア施設やウエルネスパークの整備などにより、新たな人の流れを生み出す



- ・宿泊施設等が比較的集積しながらも、静かで落ち着いた雰囲気空間
- ・車の流入や商業施設の立地はできるだけ抑制し、静けさの中で滞在や散策を楽しめる空間を維持する



- ・豊かな田園風景の中で、散策、ジョギング、サイクリングなどを楽しむのどかな雰囲気的空間
- ・点在する小さな飲食店や美術館、休憩スペースなどを充実させ、散策等の楽しみを高める



【基本方針1】「最も住みよいまち(＝最も優れた観光地)の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
1-1.由布市の豊かな自然とライフスタイルを味わえるプログラムづくり(★) 由布市内の全エリアに共通する魅力の根幹として豊かな自然資源が挙げられます。これまでも辻馬車をはじめ、高原ならではの雰囲気味わえるヨガやコモレビカフェ、まちあるきなどが実施されてきました。また、市と農家・企業等が中心となって設立された「一般社団法人ユフイズム」は、地元の方との交流や教育旅行の受け入れ、特産品づくりなどを行い、由布川峡谷バックラフトツアーなども開発してきました。こうした各エリアの自然や雰囲気を味わえるプログラムや仕組みを開発・提供していきます。 また、こういったプログラムを提供する上では、観光事業者に限らず、農業従事者や医療関係者、インストラクターなど様々な職種の方と連携することで、新しい発想による専門性の高いプログラムの構築等も期待できます。また、エリアや行政域の枠に捉われない広域での連携プログラムも検討します。	○	●	●	○	

※実施主体について

行政：由布市役所商工観光課をはじめ関連部署など

民間事業者：宿泊施設、観光施設、飲食店、土産物店、交通事業者など

住民：由布市民

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

観光関連団体：由布市まちづくり観光局、各地域観光協会、旅館組合など

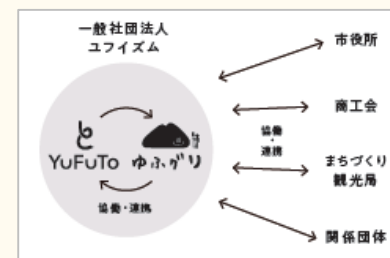
一次産業従事者：農林業従事者など

【参考】(一社)ユフイズム(由布市)

- ✓「由布市グリーンツーリズム研究会」と「YUFUTO」の活動を包括的に推進するため、2020年4月に「一般社団法人ユフイズム」を設立。
- ✓「由布市グリーンツーリズム研究会」(ゆふぐり)では、農業体験や都市農村交流の魅力を発信するとともに、由布市内でのグリーンツーリズムや教育旅行の受け入れ、地元食材や資源の発掘を行っている。」
- ✓「YUFUTO」(由布市特産品PR連絡協議会)では、特産品の開発、イベント・商談会への出店等に取り組んでおり、「過去から続く地域資源に感謝し、活かし、守りながら、次の世代に繋いでいく」を理念に由布市の魅力を全国に発信する取り組みを行っている。



<https://www.yufuguri.jp/aboutinn>



https://yufuto.jp/PDF/yufuto_vol02.pdf

【基本方針1】「最も住みよいまち(＝最も優れた観光地)の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
1-2.多様な主体が関われる環境保全の仕組みづくり 由布市の豊かな自然環境は地元が主体となった保全や整備はもちろん必要ですが、市民に加え、市外に住む由布市のファン等、地域内外から様々な形（保全プログラムとしての参加、協力金等の寄付としての参画等）で支援・参画できる仕組みを構築することで地域の担い手不足や財源不足を解消する糸口にもなります。 「由布市環境基本計画」（2016）、「由布市自然環境等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例」（2014）等とも連動し、観光の分野からも取り組みを進めていきます。	○	●	○	○	○

【参考】黒川温泉の取り組み(熊本県南小国町)

- ✓ 黒川温泉では2021年に観光旅館協同組合設立60周年を迎えるにあたり、これまでの当たり前が通用しなくなった現実を認識しつつ、黒川温泉のこれまでと未来のありたい姿を示した黒川温泉「2030年ビジョン」を策定。
- ✓ これまでの当たり前が通用しなくなった現状をふまえて、次世代へ引き継いでいくために新たな黒川温泉を創造するとし、これまでの「黒川温泉一旅館」としてのコンセプトは重視しつつ、「**世界を癒す、日本里山の豊かさが循環する温泉地へ**」を掲げている。
- ✓ 具体的なプロジェクトとして、「次の百年を作るあか牛”つぐも”プロジェクト」「黒川温泉一体地域コンポストプロジェクト」「次世代リーダープログラム「黒川塾」」などを掲げている。
- ✓ 旅館組合のHPでは、インフォグラフィック等も活用し、お客様にも見える形で発信している。

画像出典：黒川温泉観光旅館協同組合「黒川温泉2030年ビジョン」
<https://www.kurokawaonsen.or.jp/free/free.php?intFreeKey=267&intKKey=3>



【参考】湯沢町自然環境保全基金の取り組み(新潟県湯沢町)

- ✓ 湯沢町自然環境保全基金は、ステッカー等の販売利益を持続可能な観光や環境整備のための活動に充てるため、各地域観光協会が中心となり立ち上げられた。
- ✓ 1口300円で、1口につきステッカー1枚と交換できる。「ステッカー1枚で草刈り3㎡」、「10枚で小案内板1枚」、「100枚で木道の整備20メートル」など、金額に応じた用途を明記することで、来訪者からより賛同を得られるよう工夫している。現在、湯沢町内において、「飯土山・山と水の恵みプロジェクト」（岩原地区）、「ミズバショウ群生保全プロジェクト」（苗場地区）、「ホタル・カタクリの里プロジェクト」（中里地区）の3つのプロジェクトが始動している。



<https://yuzawancf.wixsite.com/website>

施策	実施主体				
	行政	観光 関連 団体	民間 事業者	一次 産業 従事 者	住民
1-3.訪問目的となり得る、顔の見えるガイドの育成と発信 由布市の良さは「人」を通して伝えられる要素が多くあります。すでにガイド付きのウォーキングなども開催されていますが、型にはまったガイドではなく、一人ひとりの顔や個性が見えるようなガイド（有料）の育成やツアー実施に取り組んでいきます。	○	●	○	○	○
1-4.交流機会としてのイベントの継続的な開催 由布市では湯布院映画祭やゆふいん音楽祭、庄内神楽祭り、牛喰い絶叫大会など様々なイベントが開催されていますが、地元の伝統や文化継承の場でありつつ、地域内外の方々の交流の場としての意味合いが強いことも特徴です。こうした由布市ならではのイベントを大切にし、継続的に開催していきます。	○	●	○	○	○
1-5.来訪者の分散化を図る仕組みづくり 来訪者が一部のエリアに集中しすぎることは、滞在中の快適性や安全性を脅かすことになり、本来のゆったりとした雰囲気失われてしまいます。また、住民にとっても車での移動がしづらい、騒音などの影響により住環境の質が下がることにもなります。 それを解決するため、導線の分散化や的確な情報発信等により、観光客が同じ時間、同じ場所に集中しないようコントロールする仕組みを検討します。	○	●	○	○	
1-6.市内各エリアの特徴を活かした景観の整備 由布市のシンボルでもある由布岳をはじめ、各エリアならではの自然や自然景観が由布市の魅力の核になります。特に農地や緑地などは、暮らしがあって維持されるものでもあります。農業等の担い手を育成していく必要があるとともに、何気ない自然景観を眺める「視点場」や、何もなくてもそこに居たくなるような居場所を作っていくことも重要です。 また、由布市らしい空間と景観を維持するためには、開発とのバランスも重要な課題です。条例等による規制はもちろんのこと、土地や建物を売る・貸す地元住民自身も景観や雰囲気を守っていきたいと思えるような意識づくりも必要です。 「由布市景観マスタープラン」もふまえ、エリアごとの景観整備を進めていきます。	●	○	○	○	○

施策	実施主体				
	行政	観光 関連 団体	民間 事業 者	一次 産業 従事 者	住民
1-7.自然環境・市民・来訪者にやさしい移動手段の促進（★） 欧米では観光での二次交通としてトラムが復活するなど、環境負荷軽減と市民生活向上を実現させる施策が行われています。由布市でも、2019年度からグリーンスローモビリティの実験を行いました。こうした環境負荷の低い乗り物の検討やレンタサイクルの促進など、環境にやさしい移動手段のあり方を引き続き検討していきます。 また、そこに行きたいと思ってもらえるよう、まずは目的地の魅力づくりを行うことも重要な課題です。加えて、まずは目的地までの行き方をわかりやすく発信することが喫緊の取り組みといえます。	●	○	○		
1-8. 事業者や住民との情報共有 由布市の観光政策として目指す方向性、取り組み内容、波及効果等を、域内の観光事業者や住民の皆さんとわかりやすく共有することで、観光に関する関心を高め、信頼関係を構築します。 また、来訪者のみならず、住民自身にももっと市内を楽しんでいただくことも重要です。	○	●		○	

【基本方針2】「心と身体をいやす、安心・安全な保養・滞在型温泉地の実現」

- ✓ 由布市内にはエリアの特徴によって様々な温泉が湧き出ているとともに、景観、食、アクティビティ、人の優しさなど多様な魅力があります。新型コロナウイルス禍では、旅の根幹である「人と会う、5感で感じる」ということが、心と身体の健康には必要なものであるということをさらに強く認識しました。
- ✓ 由布院エリアでは、以前から「滞在型の保養温泉地」を掲げて取り組みをおこなっているとともに、2018年3月に由布院温泉観光協会と由布院温泉旅館組合が策定した「新・由布院温泉観光基本計画」においても「豊かな暮らしと交流が共存する滞在型保養温泉村」を目標像として掲げています。また、2021年12月には由布院温泉旅館組合が「ゆふいん安心宿宣言」を発表しました。
- ✓ さらに、第二次由布市総合計画重点戦略プラン（2020-2025）においても「経済の循環から地域が潤うまちづくり」の一環として「滞在型・循環型保養温泉地実現プロジェクト」を掲げており、由布市全域でも保養温泉地としてのコンセプトを共有しているところです。
- ✓ 本戦略においては、由布市がこれまで大切にしてきた、いわば原点ともいえる役割を再確認し、具現化していきます。

【参考】ゆふいん安心宿宣言（（一社）由布院温泉旅館組合）



お客様に安心して由布院を訪れていただくため宿の出来ること

宣言の5つの柱

1. 新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症対策
2. 食に関する安心…HACCPに基づく食品衛生管理の徹底
3. 温泉に関する安心…レジオネラ検査や水質検査に基づくもの
4. 防犯対策…大分県警と連携し定期的な防犯セミナー等を開催
5. 災害に対する安心…災害発生時の避難場所や経路に関する各宿独自のマニュアルの作成等



一般社団法人由布院温泉旅館組合

【参考】由布市観光事業者災害対応マニュアル(由布市)

- ✓ 熊本・大分地震の際、由布市では外国人旅行者を含め多くの来訪者が滞在していたが、公共交通機関の麻痺や言葉の壁が障害となり、対応に苦労した経緯がある。
- ✓ 将来起こりうる災害に備えて、宿泊施設や飲食施設、観光施設、商店などの観光関連事業者の方が、外国人観光客を含む観光客の安全確保、避難誘導、情報提供を行う際の手引きとして、2017年に「由布市観光事業者災害対応マニュアル」を作成した。



<http://www.city.yufu.oita.jp/wp-content/uploads/2017/04/kanoumanyuaru.pdf>

【基本方針2】「心と身体をいやす、安心・安全な保養・滞在型温泉地の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
2-1.温泉の特徴の掘り起こしと情報発信 由布市には、地理的な特徴の違いから様々な泉質の温泉が湧出しているとともに、共同浴場、旅館の温泉など、様々な雰囲気を楽しめる温泉があります。改めてこういった各温泉の特徴を発信するとともに、定期的に実施している温泉の水質検査結果等をしっかり提示していくことで安全な温泉地を実現します。	●	○	●		

※実施主体について

行政：由布市役所商工観光課をはじめ関連部署など

民間事業者：宿泊施設、観光施設、飲食店、土産物店、交通事業者など

住民：由布市民

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

観光関連団体：由布市まちづくり観光局、各地域観光協会、旅館組合など

一次産業従事者：農林業従事者など

【参考】新型コロナウイルスを不活性化させる温泉の効能を発表(草津温泉)

- ✓ 草津温泉と群馬大学は、草津温泉水の新型コロナウイルス不活化実験を行った結果、草津温泉の温泉水に新型コロナウイルスを不活性化させる効果があると発表した。
- ✓ 特に湯畑源泉の不活化作用が最も高く、不活化率は99%以上となり、硫酸水溶液の50倍以上の不活化能力を有することが判明。温泉成分のどの成分が不活化に寄与しているかは今後の検討項目としている。
- ✓ 草津温泉では上記結果をふまえて、手軽に温泉で手を洗える「手湯」を設置。

※写真撮影後、手洗の湯の説明表記が追加された



【参考】活火山がないのに湯が湧く謎を解明(有馬温泉)

- ✓ 近畿地方に活火山がないのに有馬に高温の温泉が湧出する理由を、神戸大学海洋底探査センター、大学院理学研究科、都市安全研究センター、防災科学技術研究所が共同で解析。
- ✓ この結果は英国Nature Publishing Groupのオンライン科学雑誌「Scientific Reports」に掲載された。



【基本方針2】「心と身体をいやす、安心・安全な保養・滞在型温泉地の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
2-2.身体にやさしい、安心・安全な地元の食の提供（★） 滞在先での重要な楽しみの一つである「食」については、料理としての質の向上や農業などの一次産業の支援などをこれまでにおこなってきました。旅館文化の重要な要素である料理の魅力づくりについて引き続き取り組んでいくとともに、地元で生産された安全で質の高い（＝生産者の顔が見える）食材を宿や飲食店で活用しやすい仕組みを検討します。 2021年6月1日からは、原則全ての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理を行うことになりました。由布市の農産物の衛生管理の徹底により、安心・安全についても意識して提供し、その取り組みをきちんと発信していくこととします。 また、地元の食材を使ったお土産の開発等も行っていきます。	○	○	●	●	
2-3.由布市版・現代湯治のすすめ（長期滞在に耐えうる仕組みづくり） 由布市の良さを味わっていただくためにも、1泊2日で慌ただしく帰ってしまうのではなく、できれば2泊以上ゆっくりといただける滞在スタイルを提案していきます。なお、長期滞在にあたって必要となるまちの機能（スーパー、医療機関、二次交通、図書館、コワーキングスペース等）についても発信していきます。	●	○	●		

【参考】恩納村文化情報センター（沖縄県恩納村）

- ✓ 村の基幹産業である観光を意識し、恩納村に関するあらゆる情報を収集し、村内外へ発信することを目的に観光情報提供機能と図書館機能を融合させた複合施設。農産物物販センターに隣接するとともに、恩納村博物館に併設。雨天時の滞在場所としても機能している。
- ✓ 恩納村住民以外（観光客）にも本の貸出を実施しており、本を借りると農産物物販センターの割引券がもらえる。
- ✓ また、村内のリゾートホテルと連携し、ホテル内にミニライブラリーを設置。センターの蔵書数十点を一定期間（半年～1年程度）貸し出すもので、センターでは本の選書や図書レイアウトのアドバイスなどを通してホテルのサポートを行っている。

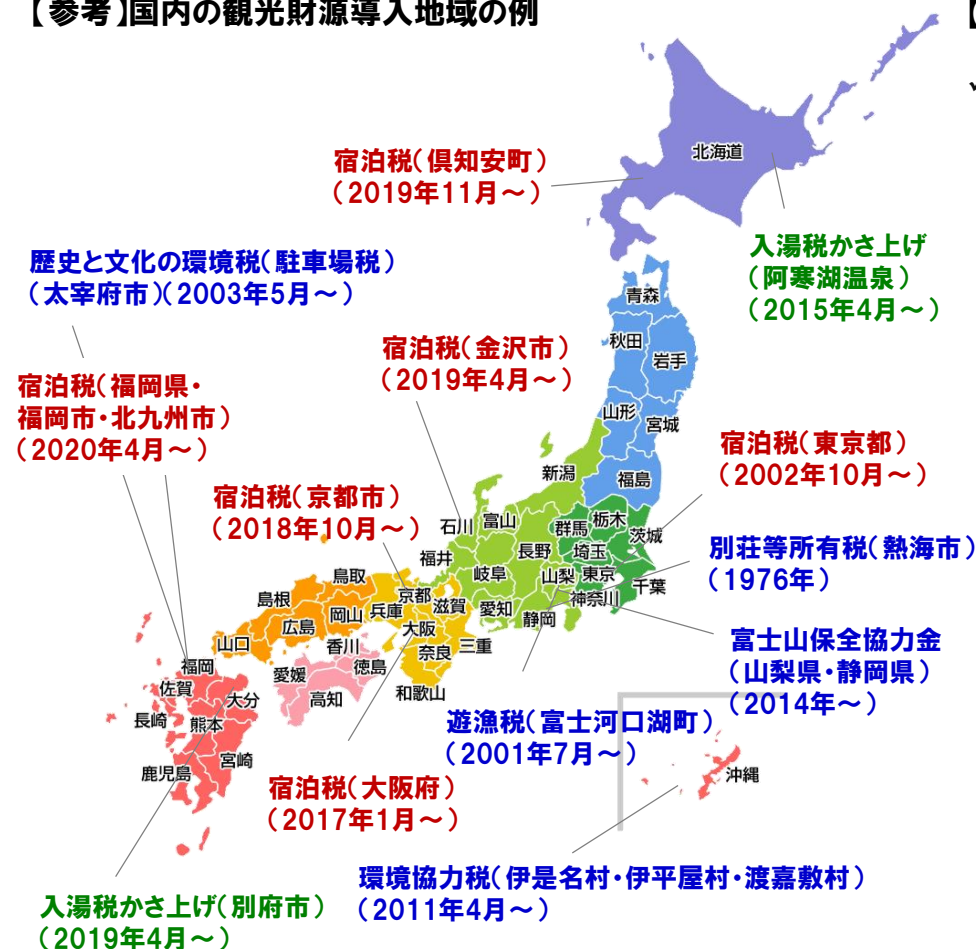


施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
2-4.心の疲れを癒す、おもてなしの体現 旅先では、地元の方との何気ない会話や交流から元気をもらうことがあります。来訪者を受け入れる事業者はもちろん、住民一人ひとりも、困っていそうな方がいれば積極的に声をかける、話しかけられた時に少し会話をしてみるといったおもてなしの体現を呼び掛けていきます。	○	●	●	○	○
2-5.来訪者の立場に立った情報発信と戦略的なプロモーションの推進（★） 来訪者はタビエ、タビナカ、タビアと旅行におけるそれぞれの段階で求めている情報が異なります。そのニーズを把握し、適切なタイミングで適切な情報を届けられるように、戦略的に情報発信をおこなっていきます。また、情報提供の内容や方法によって、混雑度を避ける実証実験を検討していくとともに、来訪者の情報を取得しつつ、来訪者に有益な情報やサービスを提供するCRM（Customer Relationship Management）についても検討します。 また、プロモーションについても、コロナ禍前に急激にインバウンドが増加した状況などを鑑み、由布市にゆっくりと滞在したいと思っていただける層に向けて、戦略的に展開していきます。その上では、JNTOや政府観光局、九州観光推進機構など外部の発信力やネットワークのある機関とも連携していきます。	○	●	●		
2-6.観光を取り巻くリスクマネジメントの強化（★） 九州ではたびたび大きな災害が発生しています。観光客は土地勘がなく、緊急時には弱い立場となります。災害は常に起こる前提として意識しておく必要があるとともに、緊急事態が発生した際に観光客を安全に誘導する仕組みづくりを行うことで安全安心なまちとしての機能を高めていきます。2017年に作成した「由布市観光事業者災害対応マニュアル」の共有徹底を図ります。 また、自然災害や感染症をはじめとした災害時は、根拠のない情報が拡散され風評被害に繋がります。これを防ぐためには、常に正しい情報を関係者で共有すること、発信元を統一しておくことが重要です（すでに由布市では取り組み済）。そのため、日ごろから地域として常に正しい情報を関係者で共有し、発信する体制を再度確認し、定着させていきます。 近年、大きな危機に対して、「元に戻す」のではなく、その危機を変化のきっかけとして捉え、しなやかに対応していく「レジリエント」の概念に注目されています。由布市も過去に大きな挑戦を何度も乗り越えることで発展してきた歴史があります。その精神を学ぶとともに、リスク発生時に関係者が一致団結できるよう、日ごろから顔の見える信頼関係を構築しておきます。	●	●	○		

【基本方針3】「次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現」

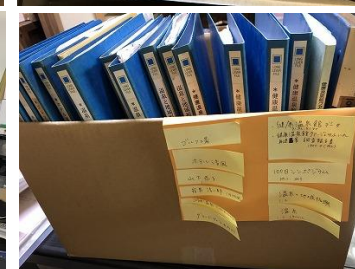
- ✓ 観光産業は近年急速な変化が起きており、観光客の旅に対する価値観も大きく変化しています。また、宿泊業を中心とした観光産業は、人手不足や生産性向上、経営力の向上、所得の向上、事業承継など様々な課題を抱えています。
- ✓ 文化や地域を伝える役割を持ち、生業（なりわい）としての位置づけも重要である中で、きちんと収入を得ることができ、誇りを持って携われる「働いてよし」の産業としての育成と改革をおこなっていきます。
- ✓ また、基本方針1から3に通じる環境、社会文化、経済への影響に配慮した持続可能な観光地域づくりを意識するため、「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」を活用していくこととします。

【参考】国内の観光財源導入地域の例



【参考】由布市観光アーカイブ事業

- ✓ 2019年度、由布市まちづくり観光局では、市内の観光やまちづくりに関する資料を整理・収集・活用する「由布市観光まちづくりアーカイブ（仮称）」の構築に向けた考え方や具体的整備方法を提案するとともに、一部資料の整理作業をおこなう事業を実施した。



※一部、写真、資料などの整理、目録作成、デジタル化などを実施。出てきた資料を基に座談会を実施。その記録を元にブックレットも作成した。

【基本方針3】「次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光 関連 団体	民間 事業 者	一次産業 従事者	住民
3-1.時代の変化を見越した宿泊産業の活性化 旅行者層の世代交代や様々な社会背景とともに、多様な滞在スタイルや個人の嗜好性の多様化（LGBTQ、バリアフリー、ヴィーガン、ハラール等）、自然環境への意識の高まりなど、旅行を取り巻く消費者の嗜好は大きく変化しています。それぞれの宿の考え方を大切にしながら、こういった消費者の変化をふまえた上で、これからの宿のあり方を考えていきます。 また、宿を取り巻く状況も変化しています。特に近年はデジタル技術の導入により、お客様の利便性を高めるだけでなく、バックヤードの業務を効率化して、人が必要なおもてなしの場面に労力を割く取り組み等も行われています。 また、世界的に環境保全の意識が高まっており、取り組みの有無が今後の一つの選択基準になると考えられます。地元産食材の活用やフードロス、フードウェイストの削減、アメニティ等のゴミの削減、エネルギー効率の良い宿づくりなど、自然と共生する由布市ならではの宿のあり方を検討していきます。	○	○	●		

※実施主体について

行政：由布市役所商工観光課をはじめ関連部署など

民間事業者：宿泊施設、観光施設、飲食店、土産物店、交通事業者など

住民：由布市民

●：主導的に実施 ○：連携して実施・関与

観光関連団体：由布市まちづくり観光局、各地域観光協会、旅館組合など

一次産業従事者：農林業従事者など

【参考】地区内の宿泊施設をめぐるAIバスの運行（三重県鳥羽市）

- ✓ 三重県鳥羽市相模地区は鳥羽駅から約30分の距離にあり、地区内や他地区への移動がしづらいという課題がある。また、人手不足により宿泊施設による鳥羽駅までの送迎も負担がかかっている。
- ✓ 2020年12月から～2021年3月にかけて、「二次交通対策を目的とした地域共同交通の構築・運営」の実証実験を実施。ドコモのシステムを活用し、スマホアプリで乗りたい時に配車予約ができる。
- ✓ また、同時期に実施した「泊食分離を目的としたセントラルダイニングの構築・運営」では、宿泊施設の経営の効率化を図りつつ、地区ならではの「食」を提供するため、同地区のシンボルである海女小屋を活用し、外部から招聘したシェフによる「海女ふれんち」を提供した。

https://www.osatsu.org/img/modal/AI%20bus%20guide_1214.pdf


【基本方針3】「次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現」

施策	実施主体				
	行政	観光 関連 団体	民間 事業 者	一次産業 従事者	住民
3-2.観光関連産業従事者のネットワーク強化 観光が提供しているものは単一のサービスではなく、地域に滞在することで得られる複合的な経験価値になります。お客様への効果的な情報提供、災害時の正確な情報発信、イベント開催時等の協力、困った時の相互の助け合いや日常の情報共有など、観光に関わる人の世代やエリアを超えたつながりを強化していきます。また、多様な主体が共通認識をもって持続可能な観光に取り組んでいくために「日本版持続可能な観光ガイドライン」の活用等も検討します。	○	●	●	○	
3-3. 観光人材の確保と育成（★） 少子高齢化になっていくわが国では人材確保は今後さらに大きな課題となります。季節変動をなるべく減らし、安定的に働けるようにすることも重要であるとともに、観光産業従事者こそきちんと休暇をとれる働き方改革なども行いながら、観光人材確保を強化します。また、モチベーションを高めるための人材育成を地域全体で取り組んでいきます。 さらに大人だけでなく、未来を担う子供たちが観光への理解を深めて魅力を感じてもらうため、出張授業、地域のイベント参画、就業体験といった取り組みを実施していきます。	○	●	○		○

【参考】「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」

- ✓ 持続可能な観光の実現に向けて、観光庁が2019年度にモデル事業等により個別課題への対策・支援を行うとともに、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づいた持続可能な観光地マネジメントを行うための支援ツールとして、国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations, JSTS-D）」を開発した。
 - ✓ 同ガイドラインは、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC：Global Sustainable Tourism Council（持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007年に発足した国際非営利団体））が開発した国際基準である観光指標をベースとしている。
- ※国連世界観光機関（UNWTO）では、「持続可能な観光」について、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」と定義している。



施策	実施主体				
	行政	観光関連団体	民間事業者	一次産業従事者	住民
3-4.観光関連組織の役割分担の明確化（行政、関連組織等） 観光は地域全体の経験価値を提供するという特性から、利害関係者が多い中で行政や関連組織を含めた様々な主体が協力・連携する必要があります。 由布市まちづくり観光局も設立から5年が経過し、2021年にはDMOとしての登録もされました。行政との役割分担を確認し、信頼関係を構築しながら効果的な観光政策を実施していきます。	●	●			
3-5. 観光統計の見直しとマーケティングの強化（★） デジタル技術の進歩や観光や旅行に対する価値観の変化等から、観光統計の取り方や成果指標項目のあり方が変わってきています。観光政策の基礎となる観光統計とマーケティングのあり方を見直すとともに、こうした調査結果を多くの関係者と共有し、より効果的に活用できる方法についても検討します。	●	●	○		
3-6. 観光財源導入の検討 本計画に掲げた内容をはじめ、様々な取り組みを実現させていくためには、確実かつ継続的な観光財源の確保が必要です。「由布市財源確保実行計画」（令和3年11月）をふまえ、宿泊税をはじめとした観光財源導入について本格的に検討していきます。	●	●	○		
3-7. 周辺市町村や他県との連携による広域連携の実施 来訪者にとって行政域は関係なく、特に遠方から訪れる来訪者は、由布市のみならず広範囲で周遊する傾向があります。また、同じ由布市内であってもエリアによっては周辺市町村との連携が効果的な場合があります。（例：湯平や庄内エリアは九重町、挾間エリアは大分市、由布院エリアは黒川温泉等） 周辺市町村や他県とも積極的に連携した情報発信や案内、プロモーションをおこないます。	●	●	○	○	
3-8. 「原点回帰」のための地域の観光まちづくりアーカイブの整理と活用 特に湯平温泉は温泉地として長い歴史があるとともに、由布院は全国に先駆けてまちづくりを行ってきたことで、他地域からも注目されてきました。その歴史は由布市らしさを作り上げてきた蓄積であり、未来のまちづくりにおいて常に参照されるべき原点でもあります。歴史を単なる過去の出来事で終わらせるのではなく、未来を作り上げるエンジンにできるよう、各種資料の整理と活用方法の検討を進めます。	○	●	○	○	○

4. エリア別の方針

- ✓ エリアによって観光の位置づけや地域特性、マーケットが異なる点が由布市の特徴でもあります。由布市という行政区にこだわらず、エリアに合った観光振興を進めていく必要があります。また、来訪者の導線などを意識し、隣接市町村や隣県など広域連携も積極的に図っていきます。
- ✓ エリアごとの特徴を活かすためにも、個別のエリア名を積極的に発信していきます。

豊かな暮らしと交流が共存する 滞在型保養温泉村

- ・人の顔が見える交流促進
- ・安心・安全な保養温泉地としての具体化
- ・100年の森構想
- ・由布市の観光拠点としての役割

石畳とともに時を刻む 懐かしき古(いにしえ)の温泉地

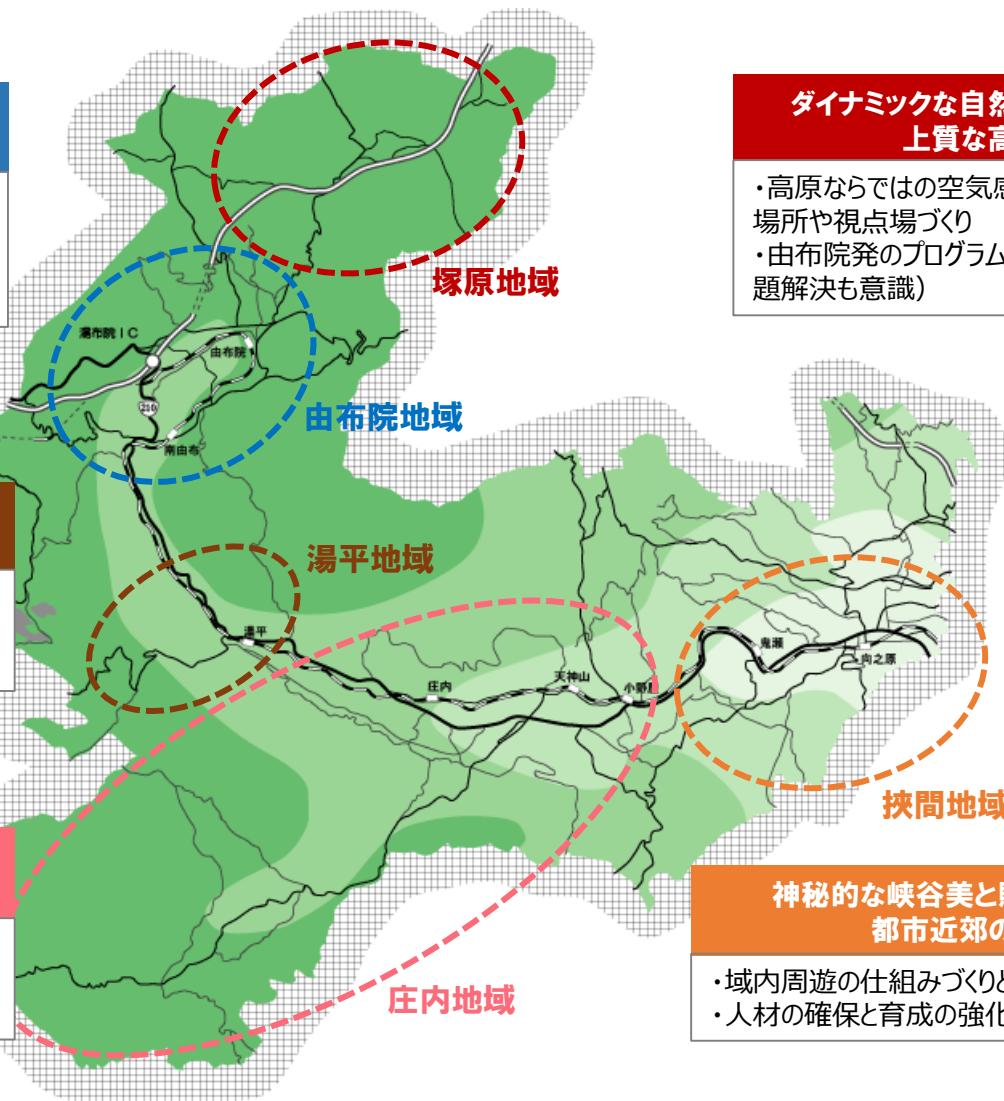
- ・湯平温泉の個性を活かした今後の方針検討
- ・石畳や川沿の景観を活かした取組みの継続。

広大な農村景観と豊かな恵みを育む 伝統文化の里

- ・広大で多様な農村景観の魅力を発信しつつ
市内隋逸の農産物の恵みを活かす
- ・自然と伝統の継承

ダイナミックな自然を五感で楽しめる 上質な高原エリア

- ・高原ならではの空気感や景観を楽しめる居場所や視点場づくり
- ・由布院発のプログラム構築等（アクセスの課題解決も意識）



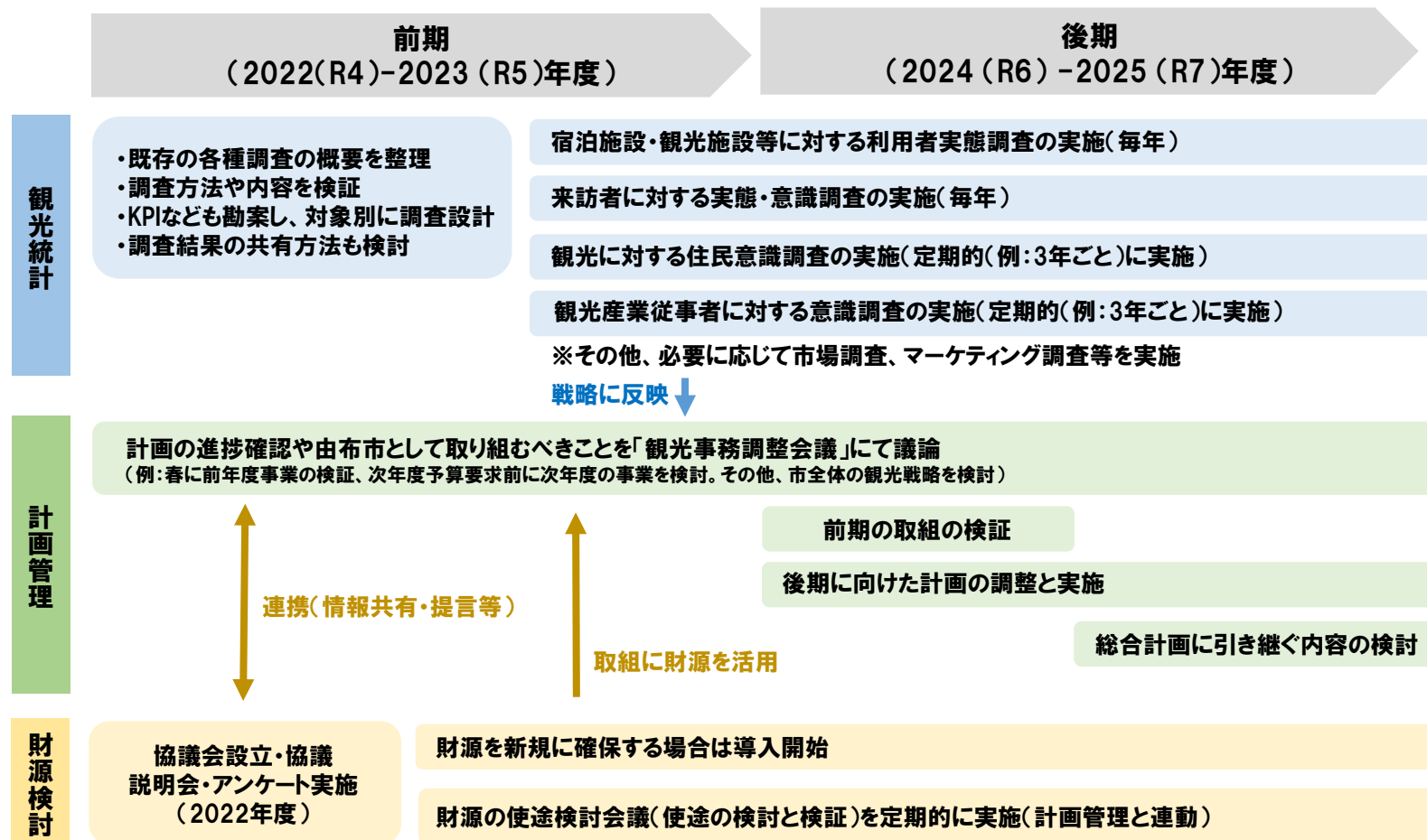
神秘的な峡谷美と賑わい広がる 都市近郊のまち

- ・域内周遊の仕組みづくりと拠点整備
- ・人材の確保と育成の強化

5. 計画推進の仕組み

- ✓ 計画の推進・管理にあたっては、2013年に発足した「観光事務調整会議」+「庁舎内連絡会」（2014年～）において、計画の進捗確認や実施検証をおこなうとともに、状況にあわせた実施事業の検討や戦略の変更検討をおこないます。また、計画の管理とあわせて、議論のベースとなる観光統計の整備等についても検討します。
- ✓ 現実的な計画実施の後押しとなる観光財源の確保については、「由布市財源確保実行計画」で示されているところです。効果的な制度設計や使途に向けて「観光事務調整会議」としても適切に連携を図っていきます。

●計画の検証作業と観光統計の整備

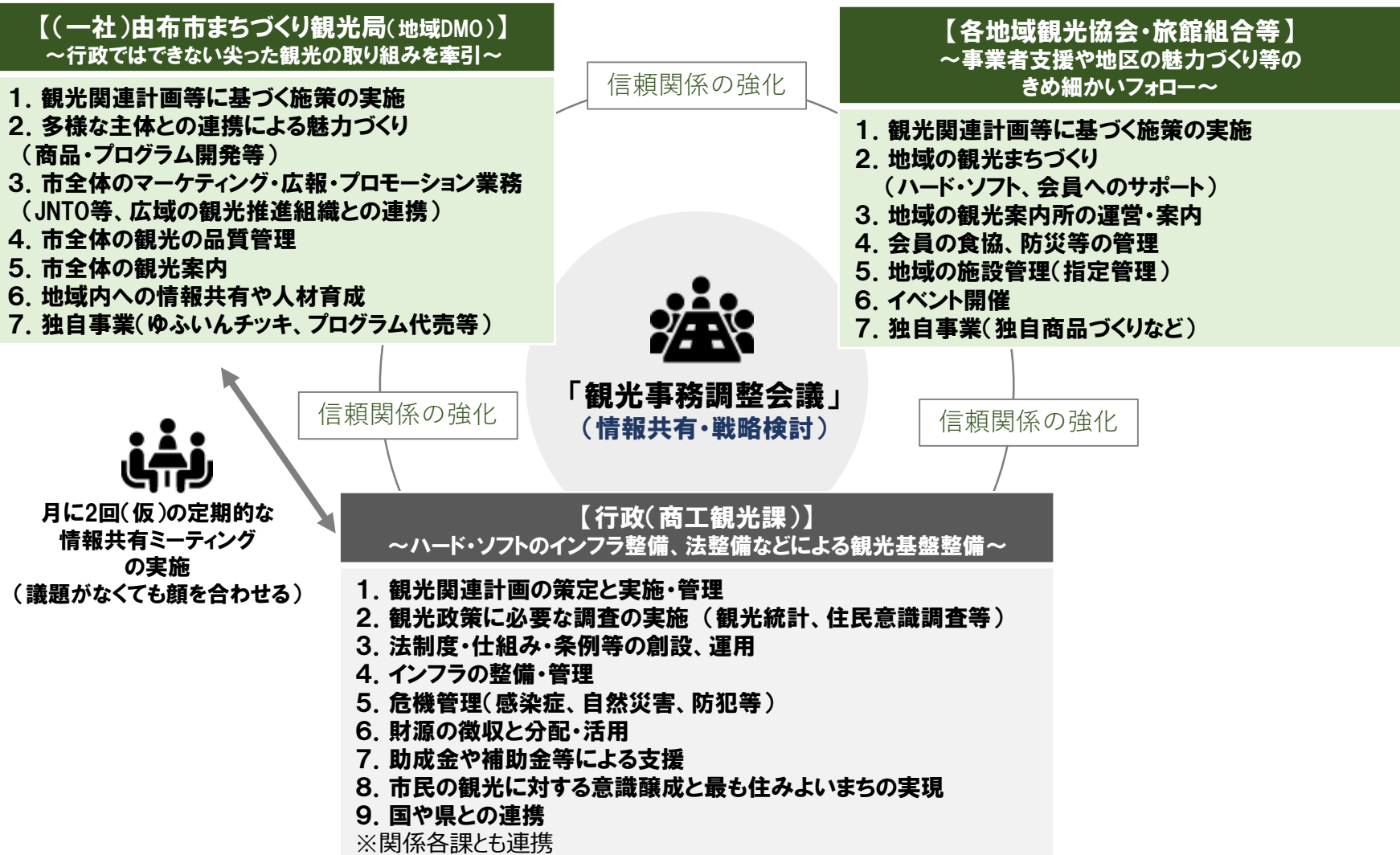


※市内各課メンバーによる「由布市新たな財源検討チーム」を立ち上げて検討を進める

5. 計画推進の仕組み

役割分担

- ✓ (一社) 由布市まちづくり観光局が2016年に設立されてから5年が経ちました。改めて行政との役割分担について確認し、効果的な観光振興が行える仕組みを検討するとともに、こうした取り組みを実現していくための人材確保や財源確保についても一体となっておこなっていきます。



6. 成果指標

- ✓ 目標像と基本方針の達成度を検証できる成果指標として以下の項目をイメージしています。今後、観光統計の見直しに伴い、成果指標、目標数値をあわせて検討していきます。

目標像：人と暮らしが織りなす“懐かしき未来”の創造 ～住んでよし、訪れてよし、原点回帰のまちづくり～

基本方針1：「最も住みよいまち（＝最も優れた観光地）の実現」

基本方針2：「心と身体をいやす、安心・安全な滞在型・循環型保養温泉地の実現」

基本方針3：「次世代に承継したい持続可能な観光産業の実現」

●成果指標（例）

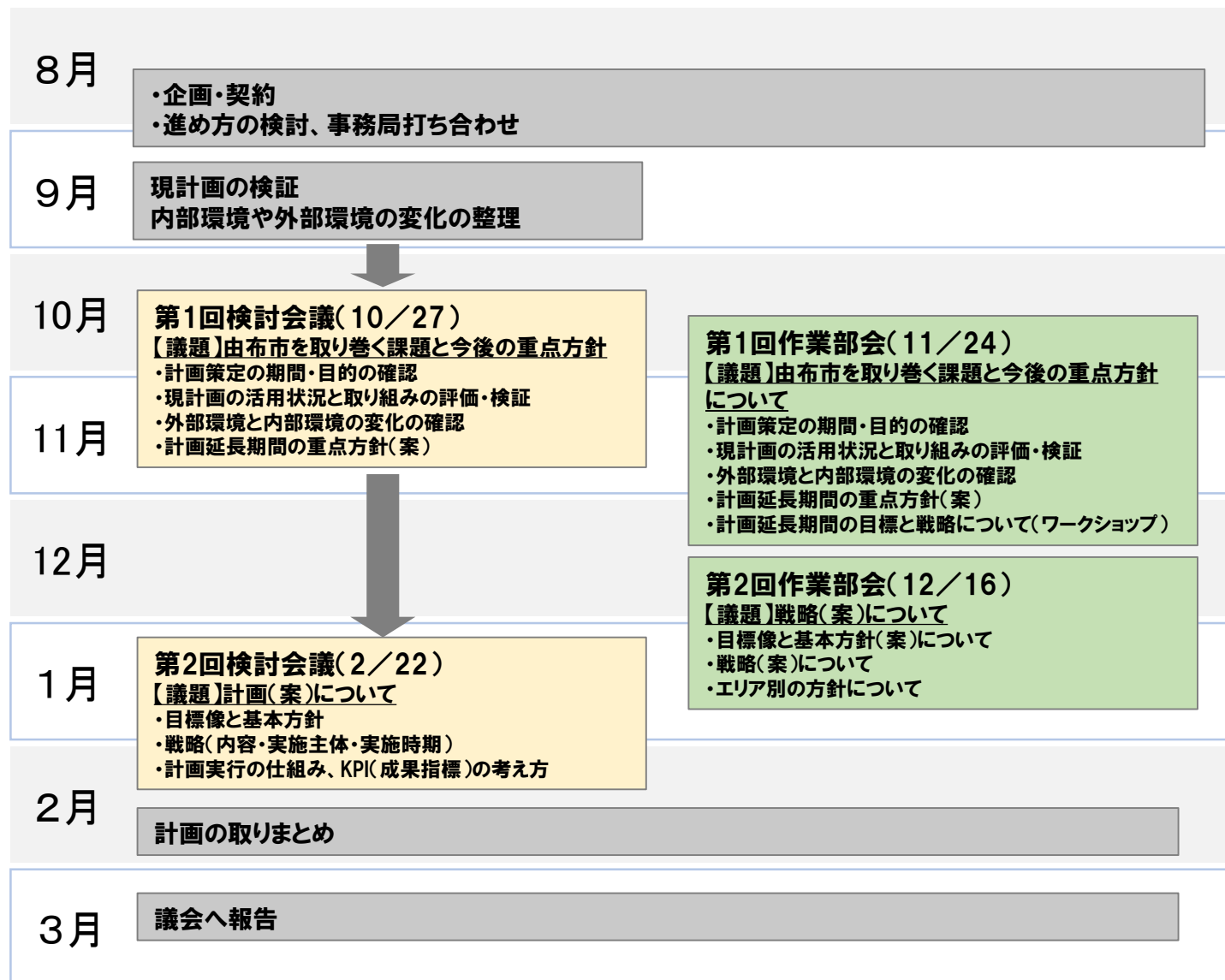
指標	基本方針該当番号 ／調査対象	現状（基準）値	目標値 （2025（R7）年度）
住民の満足度（住みよさ） ※「とても住みよい」を選択した人の割合	①／住民	27.5%（H31年度） ※2020年度時点	
来訪者へのおもてなしの意識	①／住民		
観光消費額（総額） ※総合計画で設定 ※入込客数の目標値は設定しませんが、1人当たりの消費額が高まるようバランスを考慮していきます。	③／来訪者	15,641百万円（H30年度） ※観光客数は442万人	
紹介意向（ロイヤルティ） ※未取得	②／来訪者	データなし	
滞在日数	②③／来訪者		
観光入込客数 宿泊客数 ※両者のバランスを把握	②③／来訪者	22.2%（H30年度） ※98万人	
仕事の満足度	③／事業者	データなし	
仕事の承継意向	③／事業者	データなし	
観光業（宿泊・飲食サービス業）の売上高 ※総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」	③／事業者	12621百万円 （2016年）	

次年度以降、改めて観光統計のあり方を検討。それに伴い、指標項目・目標値についても検討する。

由布市観光基本計画 参考資料

1. 計画の策定体制

- ・ 現計画の検証、今後に向けた方針、全体検討などを2回の検討会議で検討し、具体的な内容についてはワークショップ等も交えながら作業部会で検討



1. 計画の策定体制

■「検討会議」構成員

氏名	所属	備考
新川 純司	湯布院塚原高原観光協会長	
太田 慎太郎	(一社) 由布院温泉観光協会長	
富永 希一	(一社) 由布院温泉旅館組合長	
麻生 幸次	湯平温泉観光協会長	
新開 勝	湯平温泉旅館組合長	
佐藤 清治	庄内町観光協会長	
内田 はつみ	はさま由布川峡谷観光協会長	

■「作業部会」構成員

氏名	所属	備考
新川 純司	湯布院塚原高原観光協会長	
渡邊 理	湯布院塚原高原観光協会	推薦
佐藤 宏信	(一社) 由布院温泉観光協会	常務理事
麻生 文香	(一社) 由布院温泉観光協会	事務局員
鶴野 和明	(一社) 由布院温泉旅館組合	専務理事
小野 裕明	(一社) 由布院温泉旅館組合	事務局長
古長 康行	湯平温泉観光協会・旅館組合	事務局長
服平 志朗	庄内町観光協会	事務局長
平岡 公寿	はさま由布川峡谷観光協会	事務局代理

1. 計画の策定体制

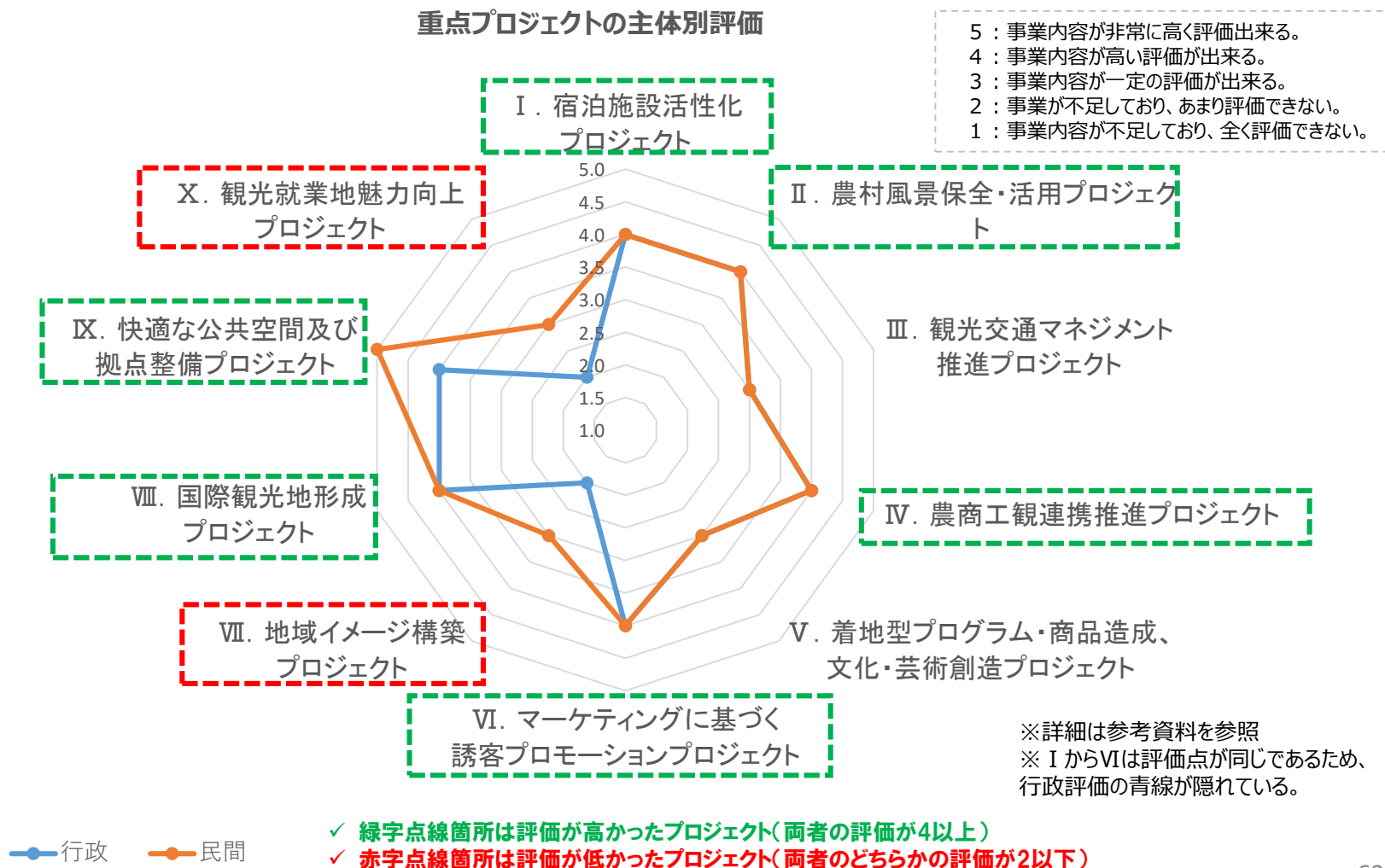
■事務局

氏名	所属	備考
長尾 章吾	庄内地域振興課 主任	
松本 元気	庄内地域振興課 主事	
小俣 功	挾間地域振興課 主幹	
菅原 美紀	挾間地域振興課 主査	
伊東 美幸	湯布院地域振興課 副主幹	
後藤 太一	湯布院地域振興課 主任	
古長 誠之	由布市商工観光課 課長	
新田 祐介	由布市商工観光課 課長補佐	
小笠原 真由美	由布市商工観光課 副主幹	
梅尾 英俊	(一社) 由布市まちづくり観光局 事務局長	
生野 敬嗣	(一社) 由布市まちづくり観光局 事務局次長	
太田 和章	(一社) 由布市まちづくり観光局 課長	
福永 香織	(公財) 日本交通公社 観光政策研究部 主任研究員	
久保 健治	(公財) 日本交通公社 観光政策研究部 客員研究員	

2. 前計画の検証結果(詳細)

前・由布市観光基本計画の検証結果

- ✓ 後期計画における重点プロジェクトのうち、Ⅰ．宿泊施設活性化プロジェクト、Ⅱ．農村風景保全・活用プロジェクト、Ⅳ．農商工観連携推進プロジェクト、Ⅵ．マーケティングに基づく誘客プロモーションプロジェクト、Ⅷ．国際観光地形成プロジェクト、Ⅸ．快適な公共空間及び拠点整備プロジェクトは評価が高くなっています。
- ✓ Ⅶ．地域イメージ構築プロジェクト、Ⅹ．観光就業地魅力向上プロジェクトは評価が低くなっています。



2. 前計画の検証結果(詳細)

・目標像を達成するための、戦略・施策・事業について、実施内容を評価。

5：事業内容が非常に高く評価出来る。 4：事業内容が高い評価が出来る。 3：事業内容が一定の評価が出来る。

2：事業が不足しており、あまり評価できない。 1：事業内容が不足しており、全く評価できない。

●緑地の部分は一定の評価ができるもの（行政と民間両方の評価が3以上）

●ピンク地の部分は評価が低いもの（行政と民間両方の評価が2以下）

施策（事業）	後期（H28-R2）で実施した主な事業名	行政評価		民間（観光団体）評価	
		定性評価（コメント）		定性評価（コメント）	
※重点的に取り組む10の重点プロジェクト 前期：1～6プロジェクト 後期：7～10の4つのプロジェクトを追加 【基本戦略a】人と暮らしを大切にし、“懐かしき未来”を感じさせる魅力づくりに取り組む 【基本戦略b】内と外を結ぶコミュニケーションを促進する 【基本戦略c】個性ある人づくり・組織づくりを推進する	※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記 湯布院塚原高原観光協会：「塚原」、 （一社）由布院温泉観光協会、（一社）由布院温泉旅館組合：「由布院」、 湯平温泉観光協会、湯平温泉旅館組合：「湯平」、 庄内町観光協会：「庄内」、はさま由布川峡谷観光協会：「はさま」、 由布市まちづくり観光局：「観光局」 ※祭り・イベント事業は記載していません。		達成度 5段階		達成度 5段階
1.宿泊施設活性化プロジェクト <宿泊施設の個性化を追求> 各宿泊施設が、食、おもてなし、情報発信等において、“由布市らしさ”を表現し、個々の宿泊施設自体が魅力ある目的地となるよう個性化を追求していきます。また、そうしたお互いの個性（魅力）を宿泊施設間や市民で共有するとともに、宿泊客にも各宿泊施設の個性をより深く感じてもらえるよう、積極的にPR、情報発信し、宿泊・滞在につなげていきます。加えて、市場動向も踏まえた施設の経営改善に資する事業を進め、地域全体として宿泊魅力を向上させていきます。	◆由布市グリーンツーリズム研究会（H26- 農政課） 教育旅行の受入れ ◆◎キャンプ場（合併前-）・農家民泊（H26-農政課）等の情報発信の継続（庄内） ◎コロナ対策マニュアル作成（R2 由布院） 旅館組合による。 ◎由布院版HACCP（R2 由布院） 地域版HACCPを旅館組合で導入 ◎由布市に行きたいキャンペーン（H29 観光局） 地震後、平日の湯布院地域宿泊者に「おもてなし商品券」を配布 ◎おもてなしクーポン券事業（R2,R3 観光局） コロナ経済対策。市内宿泊者に商店等で使えるクーポン券配布 ◎5千人宿泊応援割（R2 観光局） コロナ経済対策。宿泊7割補助	●宿泊施設の個性化・PRについては、各施設の企業努力やプロモーションにより、「質の高い宿泊施設」ブランドイメージにより、県のマーケティング結果においても宿泊先を選んだ理由として、「魅力的な温泉があった」、「良い宿があった」として初回訪問・リピーターともに高い評価を受けており、概ね達成できている。 ▲個々の宿泊施設の魅力を宿泊施設間、市民で共有することについては、宿泊施設のポジショニングを把握・分析等はできておらず、「見える化」という点では不足している。ただし、R2にコロナ対策として、市民が市内宿泊施設に宿泊する際への補助事業を行い、市民への魅力共有が図られた。 ○宿泊産業全体の活性化と、宿泊拠点を核として、地域全体が潤う仕組みを考えることは今後も必要。	4	●いち早く地域版HACCP「由布院版HACCP」を導入し、安全な食品の提供に取り組んでいる。商標登録も行った。（由布院） ●宿泊施設の個性を活かした取り組みにより、宿泊客に魅力を感じてもらっている。（庄内）	4

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業) ※重点的に取り組む10の重点プロジェクト	後期(H28-R2)で実施した主な事業名 ※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	行政評価		民間(観光団体)評価	
		定性評価(コメント)	達成度	定性評価(コメント)	達成度
2.農村風景保全・活用プロジェクト <田園風景や小川などを戦略的に見せる> “懐かしき未来”を感じさせる田園風景や小川などの水、塚、里山の風景を、情報媒体や観光案内、ガイド等を通じて積極的かつ戦略的に観光客に見せていくとともに、地域外から農村風景の保全に対して協力を得られる具体的な仕組み(環境協力金徴収や基金の設置等)を構築していきます。	◆由布川峡谷の新猿渡口、展望台、東屋の設置(R2-R3 挾間地域振興課) ◆由布岳の環境整備、トイレ・駐車場の清掃等の継続(湯布院地域振興課) 由布・鶴見岳自然休養林保護管理協議会が協力(S53-) ◆花いっぱい運動事業の継続(環境課) ◎新猿渡口のパンフレット作成(R2)、峡谷写真展を開催(H31、R1 はさま) ◎レンタサイクル事業(H30- 塚原) 自然景観を楽しむための体験型観光としてルート開発、提供。電動自転車導入(R2) ◎宮川の外来種の藻の除去活動の継続(由布院) 豊かな水環境創出ゆふいん会議が協力(H29-) ◎生きもの図鑑の改訂(R2 由布院) ◎男池清掃協力金の継続(合併前- 庄内) 毎日の駐車場・水汲み場・トイレの清掃、登山道の整備に活用 ◎環境整備協力金の継続(H26- はさま) 毎日の駐車場・トイレ・下り口の清掃に活用 ◎案山子展示(H31、R1 庄内、はさま) ◎レンタサイクル事業(H30 観光局)	●水・田園・高原風景については、HP・SNS等の情報発信や雑誌等の広告宣伝、レンタサイクル事業によって、観光客にもその美しさを伝えることができてきている。 ▲多くの観光客が特定のエリアに集中して来訪している現状もある。引き続き、棚田・田園・高原風景の保全に対する理解を深めるための情報発信が必要。 ▲地域外からの農村風景保全のための協力金・基金等の仕組みについては、検討できていない。	4	●電動自転車導入により体力を問わず周遊できるため幅広い年齢層に利用されている。自転車レンタル自体のリピーターも年々増加傾向にある。(塚原) ●宮川外来種の藻の除去活動継続について 8年間で3分の2以上除去されている。今後も継続していきたい(由布院) ●生き物図鑑の改定 小学生への配布を行い、ガイドツアーも3回行った。外部からもツアー依頼があったりしたので、今後も継続していきたい。(由布院) ●河川プール等の川遊びができる場所があることにより、阿蘇野川の清流に触れ、水の恵みを感じてもらうことができています。(庄内) ●災害からの復旧中は、つり橋から峡谷を見ていただけるように誘導して、峡谷のPRをしてきた。今後も環境整備協力金を活用し清掃をして、峡谷の素晴らしさを喜んで頂けるようにしていきたい。(はさま)	4

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業)	後期(H28-R2)で実施した主な事業名 ※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	行政評価		民間(観光団体)評価	
		定性評価(コメント)	達成度	定性評価(コメント)	達成度
※重点的に取り組む10の重点プロジェクト 3. 観光交通マネジメント推進プロジェクト <多様な“歩く環境”を提供> 由布市の魅力をより深く感じてもらうための“おもてなし”の一環として、「観光交通計画」を策定し、観光交通による渋滞緩和や通過交通排除、市内での観光客の分散と市内移動手段の確保等を行います。そして、観光客・住民双方に対して、まち歩き・畦道や高原散策・山登りなど多様な“歩く楽しみ”を提供できる環境の整備等を図ります。	◆まちなかモビリティ実験事業(R1 商工観光課) レンタサイクル(ウォーキングバイシクル等)を活用した交通実験 ◆由布岳南山麓自然パーク(狭霧台第2展望所)の整備(R1 商工観光課) ◆IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティ(低速電動バス、名称:ノルク)の効果的導入実証事業(R1- 総合政策課) 生活交通と観光交通の両面 ◆湯布院地域交通緩和検討部会から提案書の提出(R2 湯布院地域振興課) ◎由布岳スマートIC開通関連事業(H28 塚原) ICを中心としたパンフレット作成、観光協会統一案内看板設置 ◎ベンチの交換・新規設置(H29 由布院) ◎湯布院道路空間検討協議会の「新たなまちづくり」提言書作成(H30 由布院) ◎おさんぼマップの作成(R2 由布院)	●“歩く楽しみ”を提供する環境整備については、様々な取組が進んでいる。情報を整理し、わかりやすく伝えることで、更に取組の推進を図ることが必要。 ▲市内での観光客の分散と市内移動手段の確保については、事業に一定の評価はできるものの、十分な効果が出ていないため、今後も取組が必要。	3	●由布岳SICができ、塚原を走る車が増えた。湯布院ICの渋滞回避のために利用する層が降りるついでに塚原高原を周遊し、滞在する人数も増加。高原の認知にもつながっている。(塚原) ▲ベンチの交換・新規設置 古いベンチを撤収し、由布院らしいデザインで新しいベンチを設置したが、経年劣化が見られる。塗りなおしと周辺の草刈りを行うなど維持管理が必要である。(由布院) ▲湯布院道路空間検討会議の「新たなまちづくり」提言書作成 実行案がない(由布院) ●おさんぼマップの作成 多くの人が利用しており、とても評判が良い。(由布院) ▲男池までのアクセス道路拡幅について県に要望している。(庄内) ▲アクセス道路を整えることが課題(はさま)	3

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業)	後期(H28-R2)で実施した主な事業名	行政評価	民間(観光団体)評価	達成度
※重点的に取り組む10の重点プロジェクト	※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	定性評価(コメント)	定性評価(コメント)	達成度
4. 農商工観連携推進プロジェクト <“地産”地消から“地消”地産へ> 農産物の“生産地”としての由布市の魅力や強みを活かす視点から、由布市内の観光・商工・農業関係者の“ビジネスマッチングの場”を設け、地域内流通の促進(域内消費の拡大)や農産物加工品等の開発を行います。さらに、“消費地”としての湯布院地域の魅力を認識する視点から、湯布院地域という場で消費する(食べる、購入する、時間を過ごす等)ことの意味や価値を再構築し、湯布院地域らしい消費のあり方を創出していきます。	◆由布市特産品PR連絡協議会(H28- 農政課)特産品のイメージ向上、イベント、商談会の出店等⇒YUFUTOの設立、(一社)ユフィズムの設立(R2- 農政課) トウガラシ等の商品開発 ◆異業種交流会の開催(H30,R1 商工観光課)農業、観光業の連携促進 ◎観光案内所有効活用事業(H28- 塚原)塚原のアイテム(食品・クラフト等)が購入できるショップ運営 ◎キャンプ場での野菜の直売(H28- 庄内) ◎道の駅で特産品・市内の農産物販売	●地域の特産品開発、事業者間の連携は進んでいる。	●案内所活用は高齢化による塚原周囲の店舗減少を埋めるための対策。高原の入口にある案内所を店舗にすることで、観光案内所自体の滞在時間が増え活気のある雰囲気作りができています。(塚原)	4
5. 着地型プログラム・商品造成、文化・芸術創造プロジェクト <身近な暮らしを大切に、文化性・芸術性を高める> 地域固有の資源を有効に活用し、人との交流を通じて由布市ならではの魅力を観光客、住民双方に伝える着地型プログラムづくりに取り組むとともに、由布市内に立地する美術館をはじめとする各種文化・芸術施設の連携を図り、これまでにない新たな魅力を創出し、発信していきます。	◆(一社)ユフィズムの設立、由布川峡谷パッキングツアーの開始(R2- 農政課) 農家民泊、教育旅行の受入れを由布市グリーンツーリズム研究会(H26- 農政課)も継続。 ◆大津留交流センターでの竹工芸ワークショップ(庄内地域振興課) ◎滞在プログラム検討・実施(H28- 観光局)JR由布院駅と連携したまちあるき、JRななつ星乗客向け滞在プログラム、NPO法人ユクリエ・由布市クアオルト推進協議会との連携 ◎TICの観光案内事業(H30- 観光局) ◎ワークショップ事業(H29- 塚原)製作体験(クラフトや彫金) ◎滞在プログラムの調査、研究の継続(由布院)ガイド付きウォーキング等 ◆◎由布院駅アートホール運営の継続(地域振興課、由布院)アート情報誌を毎月発行。 ◎NPO法人由布院アートストックとの連携事業(R3 由布院)東京都美術館での東勝吉展、里帰り展、83歳以上公募展 ◎山頭火ミュージアム移転、運営の継続(H28-R2 湯平)山頭火祭 ◎神楽定期公演の継続(庄内)	●着地型プログラム・商品造成がされてきている。 ▲体験プログラムの整理はできているものの、市全体として共有し、ホームページ等で整理した情報発信を行う等の取り組みが必要。	▲滞在型プログラム検討・実施事務的な不手際あり。(由布院) ▲滞在型プログラムの調査・研究の継続個人事業ではできているがボリュームが少ない。(由布院) ●由布院駅アートホール運営の継続継続的に行っている。(由布院) ●囲碁神社に由来した囲碁大会を令和元年から協会で実施しており、梨・米等の特産品、男池等の庄内地域のPRをしていく。(庄内) ●山頭火ミュージアムでは、由布高の書道の作品展示を行ったり、山頭火祭で俳句募集等を行った。R2豪雨災害により、建物は撤去されたが、今後、山頭火や演歌「湯平雨情」(H30-)、湯平駅の寅さん展示等を活用し、湯平温泉や地域とのつながりを大切にしたい。(湯平) ●TICの観光案内事業は市内観光案内、辻馬車・観光タクシー、レンタサイクルのサービス提供を行い来訪魅力を高めている。(観光局)	3

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業)	後期(H28-R2)で実施した主な事業名 ※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	行政評価		民間(観光団体)評価	
		定性評価(コメント)	達成度	定性評価(コメント)	達成度
6. マーケティングに基づく誘客プロモーションプロジェクト ＜まちづくりに加えて積極的な魅力発信を＞ これまで湯布院地域では、民間と行政とが、それぞれの役割のなか、協働で観光まちづくりに取り組んできましたが、合併を契機として、さらに行政と民間が一体となって、各地域がそれぞれの魅力を磨きつつ、由布市全体として、科学的データに基づくマーケティングを通じて戦略的かつ効果的な魅力発信(誘客プロモーション)を進めていきます。さらに観光推進組織の強化・充実を図り、外部で発信される情報の質をチェックし、できる限りコントロールしていきます。	◎(一社)由布市まちづくり観光局(日本版DMO候補法人登録)設立 (H28- 観光局) マーケティングとプロモーション等を担う観光新組織 ◎マーケティング事業(H28- 観光局) ビッグデータを活用した観光動態調査、マーケティング勉強会、顧客満足度調査、観光意識調査 ◎由布院観光再興事業(H29 由布院、観光局) 全国誌への掲載や東京(坐来)・大阪・福岡プロモーション、ファミトリップ7社、空港リムジンバス3往復増便、航空会社と連携した情報発信 ◎情報発信機能の強化(H28- 観光局)(※東京(坐来) 各団体) ポスター作製、旅行雑誌、台湾・東京・福岡PRイベント、公式HP、SNS ◎観光プロモーション事業(H30- 観光局) 国内メディア訪問、雑誌・WEB広告、TICパンフ作成(H30)、温泉ライター招聘(R1)、ポストカード制作、PR動画制作・配信、テレビ、海外メディア向けセミナー(R2)	●まちづくり観光局により、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションが実施されている。コロナ禍以前のインバウンド等日帰り客による混雑によりイメージ悪化となった時期もあったが、外部で発信される情報の質をチェックし、できる限りコントロールして、地域イメージの回復、地域内消費額のアップにつながることを期待。	4	●由布院観光再興事業 特に坐来にて行ったプロモーションでは、後に雑誌掲載していただくなどしっかりと情報発信に繋がった。(由布院) ●観光局と連携してプロモーションに取り組んでいる。(各団体) ●マーケティング事業 科学的データに基づいて観光振興を図るため積極的にマーケティング事業に取り組んできたところだが、そのデータの活用方法に課題を残している。(観光局) ●プロモーション事業 商工観光課、市内観光団体と連携して取り組み、コロナ禍の時期を除いては成果を出している。(観光局)	4
7. 地域イメージ構築プロジェクト ＜ストーリー性のある観光連携の推進＞ 由布市内各地域の魅力、個々のコンテンツの磨き上げを基本としつつ、内外に対して訴求力を有する地域固有のストーリーのもとで観光連携を推進、促進します。体験や経験価値を高める過ごし方・サービスの提供及び情報発信活動等を行い、地域イメージを再構築していきます。	◆国民保養温泉地の拡充指定(H30 商工観光課) 由布院温泉、湯平温泉に加えて塚原温泉、庄内温泉、挾間温泉の由布市全域が指定 ⇒◆パンフレットの作製(R1 商工観光課) 「ゆふ温泉ものがたり-由布市温泉読本」 「ゆふharenohi note」「ゆふゆとりっぷMAP」 ◎地域イメージ形成に向けたシナリオ・ストーリーづくり事業(H29- 観光局) 「インフォカード」の作成、ファミトリップ、マスコミによる情報発信	▲市内全域の保養温泉地というイメージ発信は道半ば。	2	○各団体間の連携を深めるために、団体間の交流をさらに図ってはどうか。(庄内)	3

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業) ※重点的に取り組む10の重点プロジェクト	後期(H28-R2)で実施した主な事業名 ※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	行政評価		民間(観光団体)評価	
		定性評価(コメント)	達成度	定性評価(コメント)	達成度
8. 国際観光地形成プロジェクト <広がる外と内の交流による調和> 急増するインバウンドへの即時的な対応として、地域や施設での受入対応、観光人材の育成、多言語標記や観光案内、情報発信(災害時を含む)、誘客活動等を進めます。また、中長期的視点から、国内外の観光客の位置づけを検討し、それに基づく地域、来訪者の文化に対する相互理解の促進等を図りながら、国内外の人々が来訪する国際観光地を形成していきます。	◆外国語(英・中・韓・タイ)パンフレット作成(H28、30 商工観光課)、由布岳登山マップ(英)作成 ◆PR動画(英含む)作成(H28 商工観光課) ◆情報発信拠点事業(H28-29 商工観光課) 国内外の観光客への観光案内を行うTIC(由布市ツーリストインフォメーションセンター)を整備。 ◎顧客満足度調査<韓国編>(H29 観光局) ◎TICでのインバウンド観光案内事業(H30- 観光局) ◎ホームページ多言語化(R1 観光局) しあ◎観光事業者災害対応マニュアルの作成(H29 商工観光課、各団体) 外国人観光客を含む観光客の安全確保、情報提供 ◎インバウンド受入環境整備事業(H28) ホームページの英語バージョンを作成(塚原)、スマートフォン対応(R1 塚原) 峡谷マップ外国語版(英・中・韓)、絵はがきの作成(はさま) 外国語版(英・中・韓)散策マップ作成(由布院) 外国語版(英・中・韓)パンフレット作成(湯平) ◎公衆トイレマナー啓発(H29 由布院) ◎宿泊職員の外国語研修会の開催(由布院) ◆まちあるきマナーブック(英・中・韓)の作成(H30 商工観光課) ◆おもてなしトイレ整備(H30、R1 商工観光課) 岳本公園、乙丸公民館、六所宮、男池、狭霧台トイレの洋式化	●パンフレット・動画・観光案内等のソフト面、トイレの洋式化といったハード面での整備は進んでいる。住民の満足度を向上させるためにもマナー啓発、来訪者の文化に対する相互理解を図ることが引き続き必要。 ▲日帰り客で混雑するイメージを払拭し、質の高い宿泊施設に泊まる外国人観光客を増やす、体験プログラム等過ごし方の提案を行い、本来の魅力を発信していくことが引き続き必要。	4	●アジア圏だけでなく、豪米からメールで問い合わせが増加している。(塚原) ●インバウンド受け入れ環境整備 継続的に外国語版散策マップを作成している。(英語・韓国語)(由布院) ●公衆トイレマナー啓発 トイレの利用マナー改善を図るため外国人観光客が増えている中、シルバー人材センターの会員2名を試験的に設置した。各国の言語で正しい利用方法を知らせるポスターを持ち、出入り口で啓発、清掃する回数も増やし美化に務めた。(由布院) ●峡谷の案内所で外国語版をお渡したら喜んでいただけた。ツールが多い方がよい。(はさま) ●インバウンド観光案内は英会話ができる専任職員を2名配置して案内に当たっているが、コロナ禍前の外国人観光客が激増した時期と大分ラグビーワールドカップ開催時にはされた時期には高い評価を受けた。(観光局)	4

2. 前計画の検証結果(詳細)

施策(事業)	後期(H28-R2)で実施した主な事業名 ※行政は◆「課名」、団体名は◎以下のように表記	行政評価		民間(観光団体)評価	
		定性評価(コメント)	達成度	定性評価(コメント)	達成度
9. 快適な公共空間及び拠点整備プロジェクト <地域内外へゆとりある空間を提供> これまで湯布院地域では、行政が整備、管理してきた公共空間に加えて、民間施設が独自に投資して整備、確保してきた緑地や施設を、公共利用可能な場として地域内外に提供してきました。成熟した社会において、より豊かで充実した暮らしや滞在を地域内外の人々に対して提供していくために、ゆっくり休憩できる居心地の良い滞在空間や安心して歩ける歩道等の整備を今後も段階的に進めていきます。また、既にある公共空間の利用を促進し、より地域の魅力を感じてもらうために、情報発信を行う拠点や情報通信アクセス環境(Wi-fi等)の整備等も進めていきます。	◆由布院駅周辺整備事業(H29-R1 商工観光課) 人と車両動線の整理(一方通行、歩道拡幅、カラー舗装等)、乗降屋根設置 ◆【再掲】情報発信拠点事業(H28-29 商工観光課) 国内外の観光客への観光案内を行うTIC(由布市ツーリストインフォメーションセンター)を整備 ◆電線地中化(R2 建設課) ◎由布院駅前にぎわい創出事業(R2 由布院) フラワーバスケットの設置、駅前広場にテーブル・ベンチの設置、ものづくりワークショップの開催 ◎赤提灯(H26-)の追加設置、継続(H28-湯平)、石畳での灯籠設置(H31- 湯平) ◎TICの管理運営事業(H30- 観光局) ◎TICの市民交流空間創出事業<ミニ講演会>(H30-R1 観光局)	●駅周辺、TIC等の整備を行ったことで、快適な空間を提供できている。 ▲由布院盆地内の情報通信アクセス環境(Wi-Fi等 H27~)の整備はしているものの、さらに拡充させる必要がある。	4	●赤提灯は湯平温泉を象徴するものとなった。基金やクラウドファンディング等を活用して、提灯をきれいな状態に保つようにしている。今後も提灯を活用し、色々な展開を図っていきたい。(湯平) ●TIC整備により、駅前の観光客混雑が解消でき快適なおもてなしスポットとして好評を得ている。(観光局)	5
10. 観光就業地魅力向上プロジェクト <働きたい、働き続けたい観光産業及び観光地域の形成へ> 由布市の地場産業であり基幹産業の一つである観光関連産業を今後も安定的に維持、継承していくために、観光客受入において必要となる観光人材を、地域内外から戦略的に確保、育成していきます。そのために、個々の事業者の努力を越えて、地域として観光人材が働きやすい環境づくりに資する事業等を行い、就業地としての由布市の地位も高めていきます。	◆雇用労働セミナー開催(H29 商工観光課) 「由布市で“はたらく”」を考える～福祉、観光業など業態を超えて、由布市の雇用の課題と未来について語るトークディスカッション ◆人材確保・人材育成・外国人材活躍推進事業補助(R2 商工観光課) ◆事業承継バトンタッチフォーラム開催(R1 総合政策課) 移住者向け、湯布院で働く楽しさを伝える。旅館での女将体験(お茶の入れ方)等 ◎雇用環境調査の実施協力(H30- 由布院) ◎コロナ禍での雇用調整助成金等の勉強会開催(R2 由布院) ◎案内所・受付での高齢者雇用(庄内)	▲由布市ではたらくことの魅力発信が不足している。 ▲補助事業を活用する事業者が少ない。	2	▲雇用環境調査の実施協力 アンケート調査はしたが、その後コロナ禍となったためフィードバックがなかった。(由布院) ●高齢者の経験・知識・丁寧さを活かした雇用の場となっている。(庄内) ▲受入れ体制(案内所人数)が課題。子育て中の地域の方も働きやすい体制をつくっていきたい。(はさま)	3